

浦幌町立博物館

年報

第 19 号



Historical Museum of Urahoro

2018

11

浦幌町立博物館

年報

第19号



Historical Museum of Urahoro

2017 (平成29) 年度事業報告
(2017.4.1~2018.3.31)

2018

11

序

『浦幌町立博物館年報』第19号をお届けします。これは、2017（平成29）年度における本館の活動状況を取りまとめたものです。

開館以来入館者は町内外より多くの方々から愛され17万人を突破、平成25年度以降絶えず1万人を割ることがない博物館でしたが、平成29年度は9千人と1万人を割ってしまいました。しかし、多くの方々から愛される博物館であることに感謝を申し上げる次第です。

本年度の主な活動としては、浦幌消防署の協力を得て「浦幌消防の100年」展を開催しました。浦幌消防発足からの歴史と消防の仕事の内容を紹介したものです。また、中央公民館図書室時代から数えて70年を迎えたことから、町立図書館の歩みや仕事の内容を紹介した「浦幌の図書館70年」展を開催しました。さらに、本年度に受入れた資料のうち、旧上厚内駅に関する資料と、アイヌ副葬品資料を「1日限りの特別展」として公開いたしました。

町内に散在する各種指定文化財につきましては、「博物館だより」と町広報誌を活用した周知とともに、各種講座での活用を通じてその重要性を伝えてまいりました。また、未指定の文化財等の地域資源についても調査を進め、企画展の開催や文化財の新規指定へと結び付けていくよう準備を進めています。

昨年度は3名の講師により、浦幌周辺における化石情報や最新の研究成果報告、またアマチュア化石研究家が自慢の化石や疑問の化石等を持ち寄った「化石談義の会」を上浦幌公民館で実施いたしました。こうした化石など自然史資料の学術的な意義の発信や、来町された研究者と町民との情報交流機会の拡充を図ってまいりました。

アイヌ文化については、帯広カムイトウポポ保存会／NPOトカプチアイヌ協会と共催し、アイヌ古式舞踊を学ぶ会を開催。夜学講座ではアイヌ文化に関わる植物について紹介し、地域性に着目した普及活動や資料の公開などを進めるとともに、アイヌ文化の継承と学びの機会の充実を図ってまいりました。

2018（平成30）年度における博物館は、多様な歴史、自然、文化に関する資料と情報を幅広く収集・保全し、地域の財産として将来へ引き継ぎ、多方面で活用いただきながら、さまざまな機関と連携・協働した事業を展開してまいりたいと思います。

最後になりますが、本館の管理運営に種々ご指導賜りました町民の皆様方をはじめ、博物館協議会委員、各種講座にてご指導いただいた講師の方々、そして博物館ボランティアの方々には改めてお礼を申し上げ、今後とも多くの方々に深く愛される博物館を目指してまいりますので、引き続き変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

2018年11月30日

浦幌町立博物館長 高 橋 慎

● 目 次

序	i
目 次	ii
I. 施設の概要	1
II. 常設展示構成	2
III. 資料の受け入れ	13
(1) 受 贈 資 料	13
(2) 採 集 資 料	14
(3) 受贈図書資料	15
IV. 資料の提供	23
V. 博物館の事業	25
VI. 出版・広報活動	45
VII. レファレンス業務	45
VIII. 博物館ボランティア	46
IX. 博物館日誌（抄）	47
X. 博物館の利用状況	54
XI. 博物館の組織	55
XII. 学芸員の執筆活動・依頼講演・社会活動等	56
XIII. 博物館活動のマスコミ報道	57
XIV. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程	92
XV. 平成29年度予算	104

本書は2017（平成29）年度（2017年4月1日～2018年3月31日）までの博物館事業を報告するものです。

I. 施設の概要

名 称 浦幌町立博物館 (英文表記 Historical Museum of Urahoro)

所 在 地 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地 1

電 話 015-576-2009 (直通) 015-576-2111 (代) 内線542

ファックス 015-576-2452

ホームページアドレス

<http://www.urahoro-kyouiku.jp>

メールアドレス

museum@urahoro.jp

建 物 構 造 鉄筋コンクリート造・地上2階建 最高の高さ 10.45m (最高軒高 9.70m)

総 工 費 983,514千円 (備品購入費を含む)

敷地面積 4,575.907㎡

建築面積 1,804.34㎡

延床面積 2,542.17㎡ (1階:1,518.48㎡ 2階:1,023.69㎡)

博物館単独スペース

常設展示室	378.56㎡
学芸員室	45.50㎡
整理室	78.40㎡
写真室	19.50㎡
収蔵庫	71.50㎡
計	593.46㎡

博物館・図書館・教育委員会事務局共有スペース

視聴覚室	172.90㎡
調整室	19.98㎡
キッズルーム	7.29㎡
1階ホール	182.17㎡
2階ホール	166.50㎡
会議室	63.00㎡
書庫	29.75㎡
機械室	31.08㎡
休憩室	11.55㎡
計	684.22㎡

駐 車 場 正面 普通乗用車用 23台分 (うち身体障害者用 2台分)

裏面 普通乗用車用 19台分

計 42台分

開館時間 午前10時～午後5時

休 館 日 月曜日 (月曜日が国民の休日の場合は翌日)・国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く・年末年始・その他館長が認めた日

入 館 料 無料

交 通 ・JR根室線浦幌駅下車 徒歩5分
・とかち帯広空港から車で約60分 ・釧路空港から車で約80分

施設設備 エレベーター 1基
車椅子 2台

常設展示室設備

プロローグ音響システム

I. 施設の概要、II. 常設展示構成

アオサギ営巣地ジオラマ音響システム

浦幌町の概要紹介（町の概要・町の花・鳥・木・産業・イベント・文化・歴史）

5つのエリア（上浦幌・中浦幌・市街地・下浦幌・東部地区）

施設紹介メインマップ

映像情報メニュー（遺跡探検・浦幌川河口から源流まで・野鳥観察・浦幌の四季）

ポイント情報メニュー（自然観察・先史遺跡・チャシ跡観察ポイント）

DVD映像システム（うらほろの歴史・十勝ゆかりの人々・地図でたどるうらほろ）

開拓獅子舞音響システム

II. 常設展示構成

博物館の常設展示は、次の6コーナーで構成されている。

I. 自然からのメッセージ（プロローグ）

II. アオサギの世界

III. 十勝・浦幌の自然誌

IV. 石器と土器の文化

V. アイヌの暮らし

VI. 十勝・浦幌のあゆみ

これらのコーナーはそれぞれ、次のような展示から構成される。

I	1	魚	ヤマメ、イワナ、フクドジョウ、イバラトミヨ、ハナカジカ、イトウ、チョウザメ
	2	昆虫	
	3	鳥	オオヒシクイ、ノスリタカ、クマゲラ、キレンジャク、ヤマセミ、オオルリ、アマサギ、カワアイサ②、エトピリカ
	4	花	ウラボロイチゲ
II	1	アオサギの世界	アオサギジオラマ展示、採捕中のアオサギ、飛行中のアオサギ
	2	浦幌町の自然	月別平均気温と雨量、浦幌の四季
	3	鳥類個体展示	エゾフクロウ、オオコノハズク、コノハズク、クマタカ、カケス、アカショウビン、コルリ、メジロ、センダイムシクイ、ツミタカ、チゴハヤブサ、エゾライチョウ♂、エゾライチョウ♀、マガモ、コガモ、オシドリ、オオワシ②、エトピリカ
III	1	デジタルマップ映像システム	(1) 浦幌町の概要紹介〔町の概要、町の花・鳥・木、町の産業、祭り、文化など〕 (2) 5つのエリア〔上浦幌地区・中浦幌地区・市街地・下浦幌地区・東部地区〕 (3) 施設紹介メインマップ〔メインマップ、マップのズームアップ、市街地マップ、施設情報〕

VI	1	デジタルマップ映像システム	(4) 映像情報メニュー〔遺跡探検、浦幌川－河口から源流まで、野鳥観察、浦幌の四季〕 (5) ポイント情報メニュー〔自然観察ポイント、先史遺跡ポイント、チャシ跡観察ポイント〕
	2	十勝川下流域の地質時代史	十勝川下流域の河岸段丘、アンモナイト化石
	3	十勝川下流域の地質時代史	K-Pg境界、デスモスチルス想像図、デスモスチルス臼歯化石③、シンカイヒバリガイ化石、アロデスミス化石（レプリカ）
IV	1	発掘の様子	発掘前、測量、表土の剥ぎ取り、発掘、住居跡覆土採取用メッシュ、住居跡の発掘、地層の図面づくり、出土した土器、固形剤塗り、住居床面の土の採取、住居跡全景、実測、土の天日乾燥、極小品の選別②、ラジコンヘリコプターによる空中撮影・整理・水洗い、図面づくり、報告書の完成
	2	十勝太若月遺跡土坑墓	土坑墓ジオラマ展示
	3	北海道の先史文化のうつりかわり	図入り年表
	4	北海道の初期の土器文化	研究のはじめ、尖底土器と平底土器、河野広道、澤四郎、テンネル・曉式土器群、下頃辺式土器
	5	シベリアから来た石刃鏃文化	研究のはじめ、北海道の石刃鏃文化遺跡、シベリアの石刃鏃文化遺跡、斎藤米太郎、名取武光、浦幌式土器、石刃鏃、石核、石錐、搔器、削器、石刃槍、彫器、石錘、砥石、敲石、石斧
	6	縄文文化と墓	縄文文化と十勝太若月遺跡、墓の大きさ比べ、土坑墓52の配置図、十勝太若月遺跡の土坑墓、縄文時代前期の土器、後北CⅠ式土器、コハク製玉類、ガラス小玉、砥石、銚先
	7	擦文ムラと住居	住居と生活用具、十勝の擦文文化遺跡、擦文文化の遺跡分布、十勝太若月遺跡、十勝太地区の擦文住居跡分布、擦文住居の復元図、擦文土器、柱、木器、紡錘車
	8	擦文文化の鉄と農耕	鉄と農耕の普及、全道各地出土の韃の羽口、擦文時代の植物栽培図、鉄斧、刀子、鉄滓、オオムギ・キビ・シソの炭化種子、オニグルミ堅果
	9	いろいろな土器	縄文文化と土器、作り方、形、文様、変遷
	10	いろいろな石器	石器の材料、作り方、黒曜石原産地、使い方
	11	十勝の著名遺跡	八千代A遺跡、下大樹遺跡、十勝ホロカヤントー堅穴群、ユクエピラチャシ跡、広尾仙台藩陣屋跡
	12	土器の個体展示	縄文土器⑥、縄文土器⑥、擦文土器⑥
V	1	アイヌの暮らし	アイヌ酒宴の図、マレク漁の図、蝦夷島奇観
	2	チャシ	史跡オタフンベチャシ跡、礼文内神社チャシ跡、アツナイチャシ跡、チブネオコッペチャシ跡、十勝川口チャシ跡、十勝太Dチャシ跡、旅来チャシ跡、安骨チャシ跡、霧止山チャシ跡、帯富チャシ跡、稲穂チャシ跡
	3	伝製品	シントコ③、イタ、ニンカリ、イクパスイ③、タマサイ③、ツキ、バッチ、エムシ
	4	送り場	十勝太海岸段丘遺跡出土品

II. 常設展示構成

VI	1	トカチの成立とトカチ場所	正保日本図、トカチ場所の主な産物、松浦武四郎、最上徳内、近藤重蔵、トカチ御場所山川沼地名里数粗絵図扣
	2	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	7郡51ヶ村のうつりかわり、殖民地区画作業、河合牧場、岐阜農場、開墾風景、サケ漁、斎藤漁場
	3	新しいムラづくり	下浦幌市街都市計画図、明治43年主要市街地戸数人口、戸長役場、浦幌駅開業、第一浦幌尋常小学校と養老尋常小学校との連合運動会、黒岩農場、斎藤牧場
	4	新しいマチづくり	昭和27年十勝沖大震災で震度7を記録、昭和24年ころの市街大通り、開村50年記念乳牛共進会、校内マラソン、昭和35年チリ地震による津波の被害、森永乳業、ロランC局、市街商店街、開町70年記念パレード、十勝バス運行風景
	5	着る	蓑、くけ台、ミシン、火のし、ハンドバッグ、開墾たび、アイロン、バスケット、深わら靴
	6	食べる	膳、櫃、食器、木鉢、砂糖入れ、重ね鉢、弁当箱、石臼、壺、鉄びん、カツオ削り器、野菜削りカンナ
	7	住む	ローソク立て、自在鍵、石油ランプ、柱時計、手下げランプ、ネズミ捕り、電気アンカ、薬箱
	8	農	亜麻播種器、一斗杵、からさお、風呂鍬、窓鍬、平鍬、豆播種器
	9	林	トビ、村田銃、ガンタ、サッティ、刃広、くさび、杙打ち用具、窓鋸、天王寺鋸
	10	鉱	キャップランプ、革手袋、ベルト、ガス自動警報器、測風器微風計、工類表入れ、工類表、安全靴、携帯用ガス警報器、風測計、携帯用坑内誘導無線機、カンテラ、一酸化炭素検知管、救命器
	11	浦幌開拓獅子舞	住吉神社と加賀団体開拓記念碑、浦幌開拓獅子舞、浦幌開拓獅子舞の獅子頭、稲穂獅子舞の獅子頭、初期の浦幌開拓獅子舞の姿、浦幌開拓獅子舞おはやしの音響
	12	生活資料ディスプレイ	ラジオ、選択バサミ、算盤、下駄、かんじき、ノンコ、SPレコード盤、藁靴の型、提灯用箱、湯たんぽ、壁付け式電話
	13	37インチ映像コーナー	うらほろの歴史、十勝ゆかりの人々、地図でたどるうらほろ

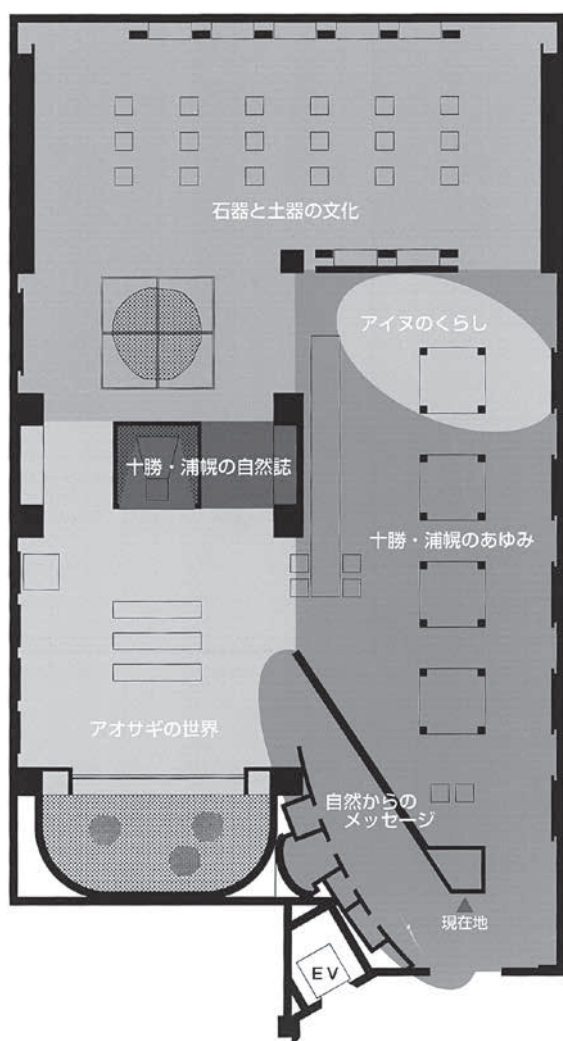


Fig.1 常設展示ゾーニング図



Fig.2 ヒグマ シンボル図



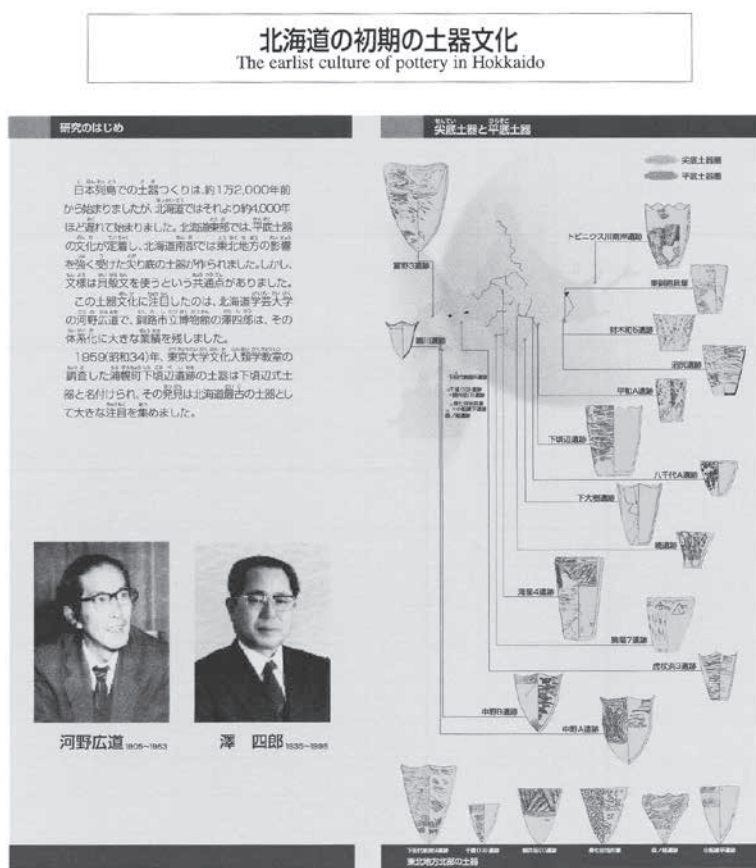


Fig.5 北海道の初期の土器文化

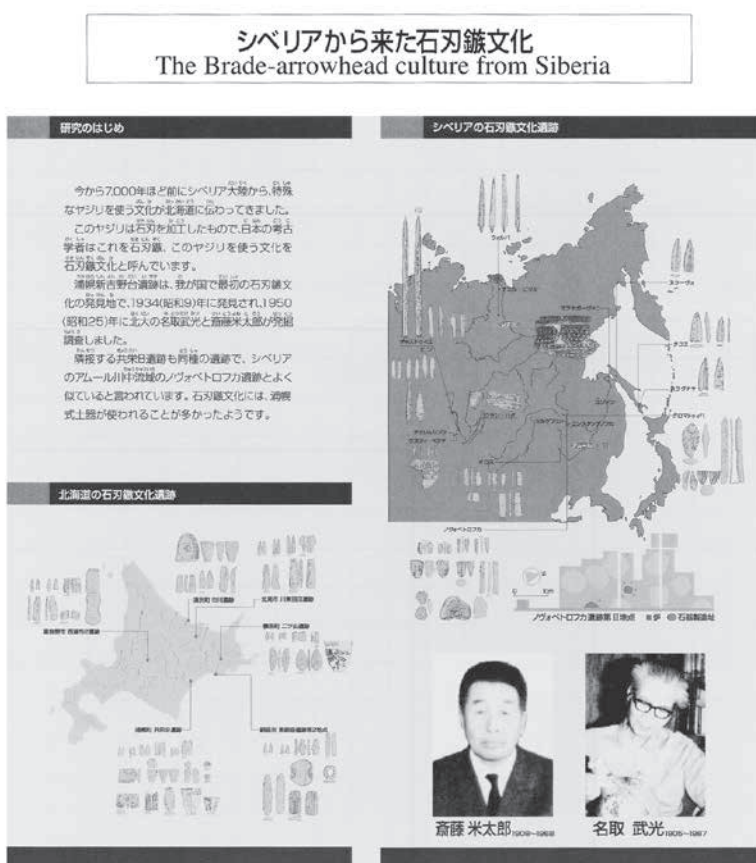


Fig.6 シベリアから来た石刃鎌文化

II. 常設展示構成

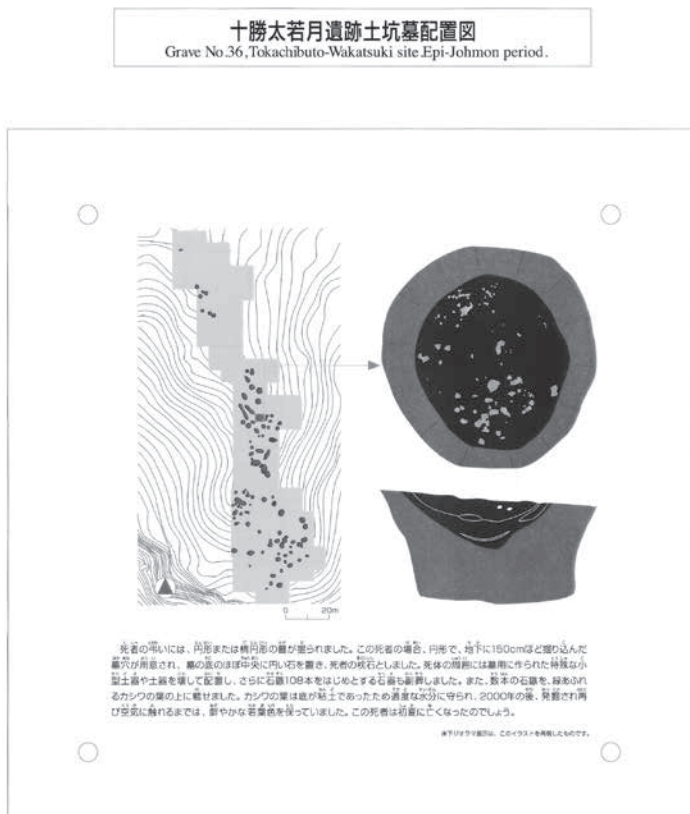


Fig.7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図



Fig.8 続縄文文化と墓



Fig.9 擦文ムラと住居



Fig.10 擦文文化の鉄と農耕

II. 常設展示構成

いろいろな土器
Potteries

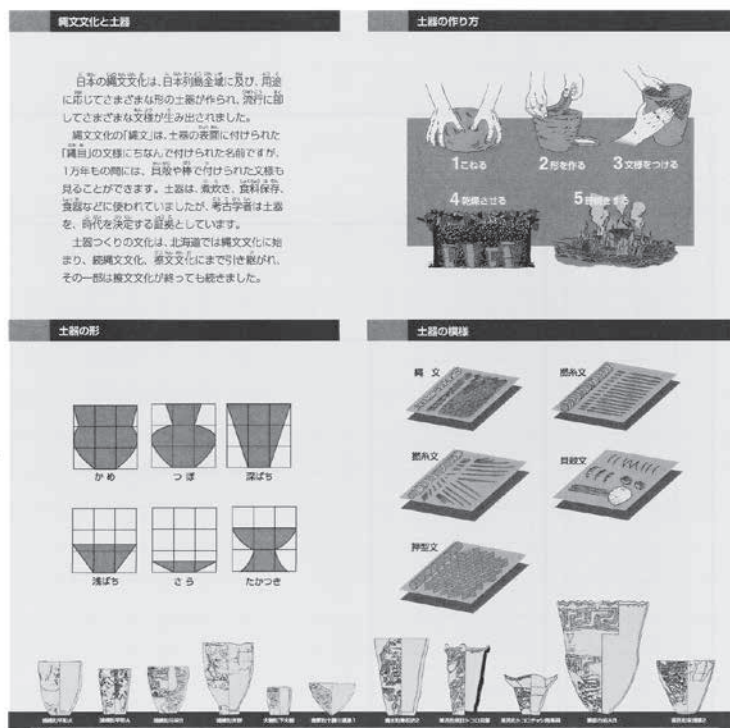


Fig.11 いろいろな土器

いろいろな石器
Stone tools

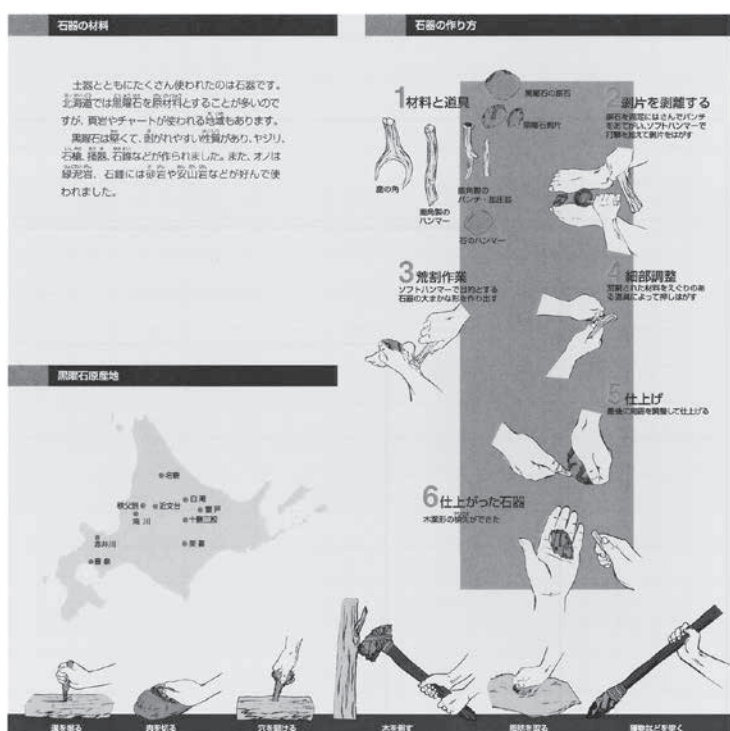


Fig.12 いろいろな石器

チャシ
Casi

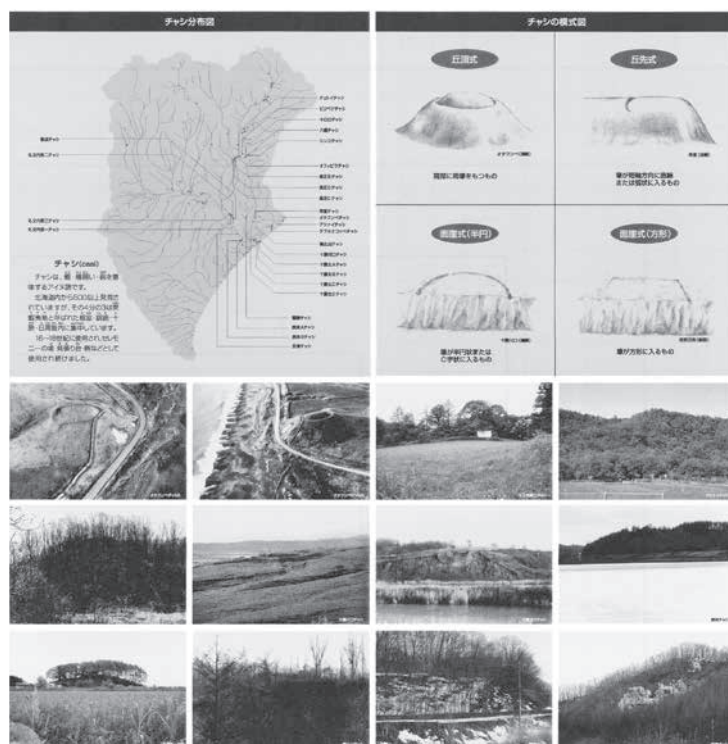


Fig.13 チャシ

送り場

formative site and that surroundings

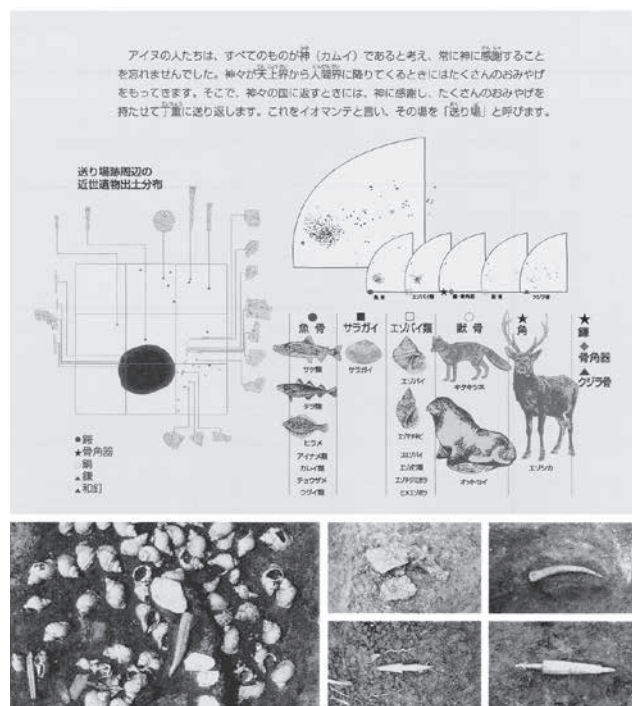


Fig.14 送り場

II. 常設展示構成

トカチの成立とトカチ場所



Fig.15 トカチの成立とトカチ場所

オヘチコカシ村の成立と初期の開墾

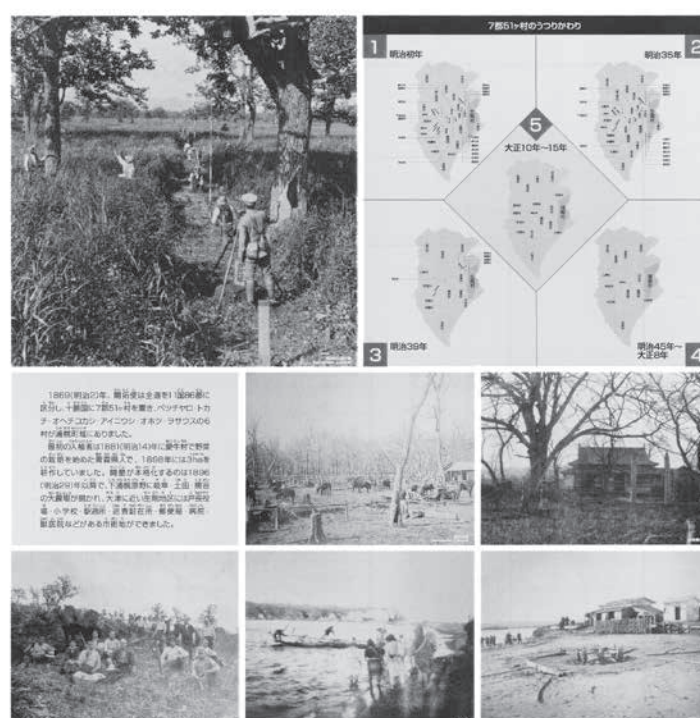


Fig.16 オヘチコカシ村の成立と初期の開墾

Ⅲ. 資料の受け入れ

(1) 受贈資料

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
6・10	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	農具・生活資料・文書資料	50
6・14	楫 省 造	宝 町	鉄瓶	2
6・20	楫 省 造	宝 町	浦幌町ゴミ処理券	2
6・20	楫 省 造	宝 町	ポケット吸い殻入れ	1
6・20	楫 省 造	宝 町	豊頃町マッチ	1
6・25	土 本 伸 重	常 豊	ツルハシ	2
6・25	土 本 伸 重	常 豊	荷鉤 (のんこ)	1
6・25	土 本 伸 重	常 豊	手鉤 (のんこ)	1
6・25	土 本 伸 重	常 豊	卓袱台	1
6・25	土 本 伸 重	常 豊	常室小学校関係スライドほか	50
7・5	山 本 浩 宣		教科書・教本	9
7・5	山 本 浩 宣		トランジスタラジオ取り扱い説明書ほかカタログ類	3
7・5	山 本 浩 宣		家庭用常備薬	7
8・2	三 浦 直 春	住 吉 町	天体望遠鏡	1
8・2	三 浦 直 春	住 吉 町	斧	3
9・1	高 室 景 子	本 町	浦幌尋常小学校関係資料ほか文書資料	21
9・1	高 室 景 子	本 町	昭和20年代～30年代町内写真	13
9・15	(有) レ ア ス	万 年	カラーテレビ	1
9・15	(有) レ ア ス	万 年	水晶掛時計	1
9・15	出 口 和 枝	東 山	音盤	170
10・2	野々村 シゲ子	厚 内	アツツ島玉砕雄魂之碑建立記念写真帳	1
10・2	野々村 シゲ子	厚 内	玉砕	1
10・2	野々村 シゲ子	厚 内	絵巻アツツ島玉砕	1
10・2	野々村 シゲ子	厚 内	山崎軍神部隊	1
10・2	元 木 陽 子	神奈川県相模原市	ミシン	1
10・2	元 木 陽 子	神奈川県相模原市	弓道関係用具	6
10・17	円 子 紳 一	帯 富	十勝川水系下流ごみマップ	4
10・17	栗 本 真由美	栄 町	北海道浦幌高校封筒	2
10・17	栗 本 真由美	栄 町	北海道浦幌高校閉校記念テレホンカード	1
10・17	栗 本 真由美	栄 町	道の駅うらほろ記念きっぷ	2
10・22	山 本 ひとみ	宝 町	アルバム	1
10・24	熊 野 正 徳	円 山	食用馬鈴薯袋	3
11・24	北海道旅客鉄道釧路支社	釧路市北大通	上厚内駅関係資料	21
12・7	円 子 紳 一	帯 富	うらほろサロンコーラス第42回定期演奏会プログラムほか	一式
12・7	山 本 ひとみ	幸 町	町営テニスコート写真	1
12・7	山 本 ひとみ	幸 町	石田美容室写真	1
12・7	山 本 ひとみ	幸 町	石田東栄堂ライトバン写真	1
12・7	山 本 ひとみ	幸 町	住吉町住宅前写真	1
12・7	山 本 ひとみ	幸 町	福山地区農家写真	1
12・7	山 本 ひとみ	幸 町	福山地区農耕馬写真	1
12・12	円 子 紳 一	帯 富	第27回西田祐子ピアノ教室発表会プログラム	1
1・18	三 浦 直 春	住 吉 町	掛時計	1

Ⅲ. 資料の受け入れ

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
1・18	三 浦 直 春	住 吉 町	登山用ザック	1
1・20	宮 崎 一 市	吉 野	音盤	6
1・20	瀬 藤 範 子	本 別 町	ひな人形	一式
1・23	日立建機(株)浦幌試験場	瀬 多 来	ヒグマ剥製	1
1・25	大 村 博	住 吉 町	鉄道線路図貨物事務用	1
1・26	三 浦 直 春	住 吉 町	ナイフ	7
1・26	三 浦 直 春	住 吉 町	のし板	1
1・27	山 本 ひとみ	宝 町	エコーはがき	1
1・27	山 本 ひとみ	宝 町	写真	1
1・28	片 岡 繁 夫	吉 野	蓄音機	1
1・28	片 岡 繁 夫	吉 野	尺八	1
1・30	成 瀬 露 子	幸 町	岡持ち・どんぶり・れんげほか成昌園関係資料	22
1・30	前 出 彰 子	万 年	東十勝合併協議会だよりほか文書資料	8
1・31	三 浦 直 春	住 吉 町	ウィスキーボトル、ライターほか生活資料	11
3・7	大 本 眞理子	幸 町	湯呑み茶碗	1
3・7	荒 川 和 子	南 町	ひな人形	一式
3・20	飯 居 紹 一	新 町	音盤	1
3・25	塩 野 幸 子	帯 広 市	留真温泉ポスター	1
3・25	久 我 サトエ	本 町	テレマップうらほろ	1
3・25	山 本 ひとみ	幸 町	電話帳	2
3・25	持 田 誠	新 町	列車遅延・運休証明書ほか鉄道関係資料	3

(2) 採集・購入資料

月 日	資 料 名	数量	摘 要
4・1	検卵器	1	旧厚内小学校理科教材
4・1	ふ卵器	1	旧厚内小学校理科教材
9・1	雑誌図書館研究合本	1	購入。間宮不二雄関係資料。
9・1	雑誌図書館研究合本	1	購入。間宮不二雄関係資料。
9・1	図書修理と製本の手引	1	購入。間宮不二雄関係資料。
9・1	間宮不二雄先生喜寿記念図書館学論文集	1	購入。間宮不二雄関係資料。
9・1	間宮不二雄年賀状	1	購入。間宮不二雄関係資料。
11・12	第37回浦幌中学校吹奏楽部定期演奏会プログラム	1	
11・12	平成29年度浦幌町文化祭プログラム	1	
12・8	白糠南通り商店街年末大抽選会チラシ	1	近隣町村資料
12・8	白糠南通り商店街年末大抽選会補助券	1	近隣町村資料
12・8	新白糠炭砒発破係員辞令	1	購入。釧路炭田関係資料。
12・8	新白糠炭砒坑内保安係員辞令	1	購入。釧路炭田関係資料。
12・23	浦幌神社関係お知らせ・広報誌	8	
12・23	町立図書館関係お知らせ	3	
12・23	浦幌町コミュニティバス運行路線図・時刻表	1	
12・23	浦幌駅釧路・帯広・札幌方面列車時刻表	1	
12・23	行政関係文書	61	
12・23	商業広告(新聞折り込み)	132	
12・30	平成三十年開運神宮暦	1	
1・10	チョウ標本	173	
3・25	浦幌町管内図	1	浦幌町郷土博物館に掲出されていたもの

(3) 受贈図書資料

【北 海 道】

(公財) アイヌ文化振興・研究推進機構

アイヌの人たちとともに -その歴史と文化-
平成29年度アイヌ語ラジオ講座テキスト

Vol.1～4

平成29年度アイヌ文化財団のあらまし
アイヌの人たちとともに -その歴史と文化-
アイヌ民族：歴史と現在
-未来を共に生きるために-

小学生・中学生・教師用
現れよ。森羅の生命 -木彫家 藤戸竹喜の世界
公益財団法人 アイヌ文化振興・研究推進機構
助成事業案内 平成30年度版

平成30年度アイヌ語ラジオ講座 Vol.1
第21回アイヌ語弁論大会〔イタカンロー〕報告集
アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告
第17号

イソイタク5 アイヌの昔話
森でひろったふしぎな赤ちゃん

旭川市北邦野草園

旭川市北邦野草園研究報告 第6号

芦別市星の降る里百年記念館

平成28年度版年報 Vol.24

厚岸町海事記念館

厚岸町海事記念館通信 No.52・54号

有島記念館

有島記念館 館報 Vol.16

いしかり砂丘の風資料館

いしかり砂丘の風資料館紀要 第7巻
エスチュアリ No.53～55

浦幌ヒグマ調査会

浦幌クマ便り vol.18

江差町教育委員会

江差町本町遺跡 函館地方裁判所・家庭裁判所
江差支部庁舎新営工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査

エゾリスの会

エゾリス 第114号

NPO法人日本野鳥の会十勝支部事務局

十勝野鳥だより No.196号

えりも町郷土資料館

猿留山道 -歴史の道活用整備事業報告書-

えりも町郷土資料館ほろいずみ水産の館

えりも町郷土資料館調査報告書

えりも研究 第14号

えりも町郷土資料館ほろいずみ

えりも町漁業振興センター水産の館

平成28年度(2016年度) 活動報告書

大津・十勝川学会

大津十勝川研究 第15号

小樽市総合博物館

小樽市総合博物館紀要 第31号

稲垣益穂日誌 33巻

音更町文化協会

文芸おとふけ 第四十九号

帯広大谷短期大学

帯広大谷短期大学紀要 第54号

帯広大谷短期大学地域連携推進センター

紀要第3号～第4号

帯広信用金庫

十勝人心の旅

帯広百年記念館

帯広百年記念館紀要 第35号

帯広百年記念館1月のお知らせ

帯広百年記念館3月のお知らせ

帯広ふだん記の会

帯広ふだん記 第15・16号

神田日勝記念美術館

神田日勝記念美術館だよりNo34

神田日勝記念美術館

友の会通信 画室 Vol.50・51

釧路市立博物館

釧路市立博物館館報No418・419

釧路市立博物館紀要 第37号

釧路市立博物館解説シリーズ 釧路の昆虫

冷たい海の大冒険～関勝則が写す北の生き物～

釧路短期大学付属図書館

釧路短期大学付属図書館報 第20～22号

釧路短期大学紀要 第43～45号

国立アイヌ民族博物館設立準備室

国立アイヌ民族博物館

弘南堂書店

北方関係を主にした弘南堂古書目録第59号

札幌国際大学縄文世界遺産研究室

縄文 札幌国際大学縄文世界遺産研究室年報1

札幌市博物館活動センター

Muse Letter No.67～68

札幌市埋蔵文化財センター

札幌市文化財調査報告書104 K441遺跡

第3次調査

札幌市文化財調査報告書105 M554遺跡

市内遺跡発掘調査報告書9

平成28年度調査報告書

更別村教育委員会

総合誌さらべつ 第38号

沙流川歴史館

沙流川歴史館年報 第18号

沙流川歴史館だより No.64～67

様似町教育委員会

様似山道 ―歴史の道活用整備事業報告書―

自然ウォッチングセンター

北海道ウォッチングガイド No.332～343

標茶町郷土館

標茶町郷土館報告 第29号

新得町民文芸編集委員会

町民文芸 第46号

Tancho Protection Group

危機に瀕したタンチョウ

湿の神タンチョウ1～3

東京農業大学オホーツクキャンパス

学術情報課程年報2016博物館と学芸員を目指す

道東興行農業環境部

縄文の里通信 ―十勝幌尻農業から―

第2～3号

(一社)道南歴史文化振興財団

函館市電電公社宿舍遺跡

白尻漁港臨港道路工事用地内埋蔵文化財

発掘調査報告書

函館市日吉町A遺跡(3)

函館新外環道路(空港道路)工事用地内

埋蔵文化財発掘調査報告書

中標津町郷土館

中標津町郷土館だより No.28～29

(公財)日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ2016 Annual Report

沼田町化石館

沼田町化石館年報 第16号

根室市歴史と自然の資料館

根室市歴史と自然の資料館紀要 第29号

根室市歴史と自然の資料館だより

くるまいし No.32

函館市教育委員会

史跡垣ノ島遺跡

―平成25～28年度国庫補助事業による市内遺跡

発掘調査等事業総括報告書―

浜頓別町教育委員会

浜頓別町ブタウス遺跡(Ⅲ)一般国道238号

浜猿防災工事(浜頓別工区)用地内埋蔵文化財

発掘調査報告書1～4

ひがし大雪自然館

ひがし大雪自然館研究報告 第4号

美幌博物館

美幌町埋蔵文化財各種開発確認調査報告書

美幌博物館報 2015

美幌博物館研究報告 第24号

2016年度 博物館講座

美幌博物館月刊情報誌 GREEN LETTER

第234号～244号

わたしたちの宝物 美幌町

文化財・遺跡・史跡マップ

BIHORU MUSEUM展示ガイド

(英語・中国語・韓国語版)

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

2015年度平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報

深川市教育委員会

深川市ふるさと歴史めぐり

別海町郷土資料館

別海町郷土資料館所蔵資料目録第3集

加賀家文書等資料目録Ⅲ

別海町郷土資料館だよりNo201、No213～224

北翔大学北方圏学術情報センター

北翔大学 北方圏学術情報センター年報 Vol.9

北大開示文書研究会

北大開示文書研究会ニューズレター No17
ウタツパノ ウオウベカレ

北海学園大学

北海学園大学学芸員課程学事報告書 第29号

北海学園大学学術研究会

学園論集 第171～172号、第173・174合併号

(公社)北海道アイヌ協会

50年のあゆみ

北海道教育大学

北海道教育大学紀要 自然科学編
第67巻 第2号、第68巻 第1号
北海道教育大学紀要 人文科学・社会科学編
第67巻 第2号、第68巻 第1号

(公法)北海道国際交流・協力総合センター

Hoppoken Vol.180

(公財)北海道新聞野生生物基金

みんなでつくろう!花マップ
北海道フラワーソン2017レポート

北海道大学総合博物館

北海道大学総合博物館とタイ国立科学博物館の
部局間協定における共同活動
北海道大学総合博物館ニュース 第35～36号

北海道大学埋蔵文化財調査センター

北大構内の遺跡 XXIII
北海道大学埋蔵文化財調査センター
ニュースレター24号・25号・26号

北海道博物館

北海道博物館研究紀要 第2号
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター
研究紀要 第2号
森のちゃれんがニュース vol.7～10
北海道博物館要覧 2015
第3回特別展「プレイボール!—北海道と野球を
めぐる物語—」ガイドブック
北海道博物館一括資料目録
第1集 弥永コレクション

北海道博物館協会

平成28年度北海道博物館協会加盟館園等現況
(CD-ROM)
第56回 北海道博物館大会資料
道博協ニュース 第121号

JSPS科研費報告書 1

博物館を拠点とした高齢者と
協働する地域学習プログラム

北海道文化遺産活用活性化実行委員会

平成28年度北海道文化遺産
活用活性化計画事業報告書

(公財)北海道文学館

北海道文学館報 第109号

北海道文化財保護協会

文化情報 Vol.366
北海道の文化 Vol.90

(公財)北海道埋蔵文化財センター

調査年報 30

(公財)北海道埋蔵文化財センター

北海道埋蔵文化財センター年報 18

北海道立旭川美術館

北海道立旭川美術館だより 氷華No59、No60

北海道立近代美術館

大原美術館展 II
ゴッホ展 巡りゆく日本の夢
ワンダー☆ミュージアム 夜と出会う、夜を見る
北海道美術50 学芸員が語る名品のヒミツ
北海道立近代美術館・芸術館紀要 第27号

北海道立北方民族博物館

北海道立北方民族博物館研究紀要 第26号
北海道立北方民族博物館年報 平成28年度
北海道北方民族博物館 第32回特別展図録
ユーラシア北方のウマ牧畜民
カザフモンゴルサハ
北方民族博物館だより No.104～107
北海道立北方民族博物館資料目録12民族資料
目録6
～平成20・21・22・23・24・25・26・27年度
収集資料～岩崎昌子コレクション、
寺田弘氏旧蔵資料

北方文化振興協会

第31回北方民族文化シンポジウム網走報告書
環北太平洋地域の伝統と文化 I サハリン

松前町教育委員会

—平成28年度策定—史跡松前氏城跡福山城跡
保存活用計画書
史跡松前氏城跡 福山城跡 VII・IX・X・XI・XII

三笠市立博物館

三笠市立博物館紀要

三笠市立博物館年報 第34～35号

むかわ町穂別博物館

むかわ町穂別博物館研究報告

むかわ町穂別博物館館報

森町教育委員会

森町埋蔵文化財調査報告書第24集

鷲ノ木遺跡Ⅷ

町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅳ

羅臼町郷土資料館

羅臼町文化財報告19 松法川北岸遺跡出土品

羅臼町文化財報告20

春蒔古丹第2チャン跡・ポン幌萌川右岸遺跡

りくべつ宇宙地球科学館

りくべつ天文台だより Vol.76・79

利尻町立博物館

利尻研究 利尻町立博物館年報 第37号

嶺野 侑

とかち人物歴史館—嶺野侑講演録—

晩成社前夜から吉村博まで

山口富嗣

縄文の里通信 一十勝幌尻農場から—

【青 森 県】

青森県教育庁文化財保護課

青森県埋蔵文化財調査報告書第588集

三内丸山遺跡44 総括報告書第1分冊

特別史跡 三内丸山遺跡年報 21

三内丸山通信 第66号

青森県立郷土館

青森県立郷土館報 通巻第44号

八戸市博物館

博物館だよりNo52

八戸市博物館研究紀要 第31号

八戸市博物館収蔵資料目録

民俗編 (9) 文書・書籍

【岩 手 県】

一関市博物館

一関市博物館研究報告 第20号

古文書のいろは 地域の歴史をひもとく

岩手県立博物館

岩手県立博物館だより No.153～156

金ヶ崎町中央生涯教育センター

岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第77集

白糸遺跡第7次発掘調査報告書

岩手県金ヶ崎町文化財調査報告書第78集

鳥海柵跡第20次発掘調査報告書

北上市立鬼の館

北上市立鬼の館だより No.46～47号

北上市立博物館

博物館だよりNo38

北上市立博物館常設展示解説図録

きたがみの歴史

洋野町教育委員会

洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集・第2集

平内遺跡発掘調査報告書

町有地整備に伴う遺跡発掘調査

洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集

ゴッソー遺跡発掘調査報告書 (DVD)

平成29年度洋野町青少年交流事業報告書

友好の絆～より大きく深く～

宮沢賢治記念館

宮沢賢治記念館通信 第117～116号

平成28年度宮沢賢治記念館年報

【宮 城 県】

仙台市富沢遺跡保存館 仙台市縄文の森広場

地底の森ミュージアム・縄文の森広場

研究報告2016

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報2017

平成29年度特別企画展 いにしへの木林森

仙台市博物館

仙台市博物館だよりVol.181・183

東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館

芹沢銈介美術工芸館年報 第8号

【秋 田 県】

秋田県立博物館

秋田県立博物館年報 平成29年度

秋田県立博物館ニュース No.164～165

【山 形 県】

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

2016 年報 No.24

うきたむ 第49～50号（館報）

【新 潟 県】

十日町市博物館

十日町市博物館年報 第3号

新潟県立歴史博物館

新潟県立歴史博物館年報 第17号

新潟県立歴史博物館研究紀要 第18・19号

すてきな布アンギン研究100年

平成29年度秋季企画展

上杉謙信と武田信玄 川中島の戦い

【茨 城 県】

大洗町幕末と明治の博物館

大洗町幕末と明治の博物館報 第6号

銀行家亀山甚（かめやまじん）と夏海（なつみ）小学校

日本植物分類学会

Acta Phytotaxonomica et Geobotanica

Volume68（1）

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

年報 第23号 平成28年度

A・MUSEUM vol.91～94

【千 葉 県】

国立歴史民俗博物館

デジタルで楽しむ歴史資料

平成29（2017）年度国立歴史民俗博物館要覧

平成29年度企画展示 URUSHふしぎ物語

— 人と漆の12000年史 —

千葉県博図公連携事業実行委員会

千葉県博図公連携事業事業報告書

— 博物館・図書館・公民館が手をつないだら
なにができるだろう —

千葉県立中央博物館

千葉県立中央博物館自然誌研究報告特別10号

房総丘陵の自然誌

しいむじな 第53～56号

千葉県立中央博物館研究報告—人文科学—

第13巻第2号

生態園観察ノート ミジンコ

地学資料集「房総半島の海岸打ち上げ及び埋め
立て地の化石群」

千葉県立中央博物館分館海の博物館

海の生きもの観察ノート②海藻を観察しよう

千葉の発酵食品

野田市郷土博物館・市民会館

野田市郷土博物館・市民会館年報・紀要第9号

2015年度

鉄道と野田～変わりゆくまちと人々の暮らし～

放送大学

THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN

2018年度教養学部案内

【埼 玉 県】

入間市博物館

入間市博物館紀要 第12号

春日部市郷土資料館

春日部市郷土資料館（第57回）夏季展示

「初代直木賞選考委員

三上於菟吉を知っていますか？」

埼玉県立川の博物館

平成29年度秋期企画展かわはく・荒川20年

みんなでしらべた埼玉県の爬虫類

埼玉県爬虫類MAP

（公財）東日本鉄道文化財団

東日本鉄道文化財団 年次報告書 2016

【東 京 都】

青山学院大学文学部史学科研究室

青山史学

出光美術館

出光美術館 館報 第179、181号

江戸東京博物館

江戸東京博物館NEWS vol.97～99

江戸東京博物館NEWS 臨時号

特別展没後150年坂本龍馬

NTT東日本

職業別タウンページ

防災タウンページ

ハローページ池田地方版 2017.8

國學院大學文学部考古学研究室

青森県東北町赤平 (1) 遺跡

2013年度発掘調査報告書

長野県安曇野市穂高古墳群

2014年度発掘調査報告書

群馬県吾妻郡長野原町居家以岩陰遺跡

2014年度発掘調査報告書

(公財) 渋沢栄一記念財団

青淵 第818・819・821～827・829号

渋沢史料館

渋沢栄一渡仏150年

渋沢栄一、パリ万国博覧会へ行く

渋沢史料館年報—2013年度—

渋沢史料館年報—2014年度—

渋沢史料館企画展

「澁澤倉庫株式会社と渋沢栄一」関連講演録

昭和女子大学 国際文化研究所

昭和女子大学国際文化研究所紀要 Vol.23

シルクロードとティーロード

世田谷区立郷土資料館

世田谷叢書第十一集

旧太子堂村森家文書 御用留 4

平成29年度特別展図録 地図でみる世田谷区

(DVD付)

資料館だより No.66～67

玉川大学教育博物館

玉川大学教育博物館紀要 第14号

玉川大学教育博物館館報 第15号

博物館ニュース SHÛ No.48～49

(一財) 地域創造

高齢社会における公立文化施設の取組みに

関する調査研究報告書

地方史研究協議会

地方史研究 第386号

(公財) 通信文化協会

郵政博物館 研究紀要 第9号

東京家政学院 生活文化博物館

東京家政学院生活文化博物館年報 第24号

2017東京家政学院生活文化博物館移管資料展(4)

きもの・いとをかし

—収蔵品ベストコレクション—

東京家政大学博物館

東京家政大学博物館館報 No.65 (最終号)

東京家政大学博物館紀要 第22集

豊島区立郷土資料館

かたりべ No.124～127

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

雑司が谷旧宣教師館だより 第60・61合併号

(公財) 日本海事科学振興財団 船の科学館

平成30年度「海の学びミュージアムサポート」事業案内

(独) 日本芸術文化振興会

芸術文化振興基金

平成30年度助成対象活動募集案内—その3—

地域の文化振興等の活動

(公財) 日本博物館協会

全国博物館園職員録 (平成29年)

博物館研究 No.597

文化庁

平成28年度熊本地震による古墳の

被災状況について

『埋蔵文化財保護行政におけるデジタル

技術の導入について?』(報告)

『水中遺跡保護の在り方について』(報告)

文化庁文化財部記念物課

日本の特別史跡

法政大学史学会

法政史学 第87～88号

町田市立博物館

2016年度町田市博物館 年報/紀要

明治大学 学芸員養成課程

MUSEUM STUDY 28号

明治大学学芸員養成課程紀要

MUSEOLOGIST 32号

2016年度明治大学学芸員養成課程年報

明治大学駿台史学会

駿台史学 第161・162号

明治大学博物館

明治大学博物館研究報告 第22号

立正大学史学会

立正史学 第121～122号

【神 奈 川 県】

神奈川県立 生命の星・地球博物館

神奈川自然誌資料 第39号

神奈川県立博物館研究報告 自然科学 第47号

神奈川県昆虫談話会

神奈川虫報 No.194

神奈川大学日本常民文化研究所

民具マンスリー 第50巻1～12号

歴史と民俗 34

日本大学 生物資源科学部

人間科学研究 第15号

日本大学 生物資源科学部博物館

日本大学生物資源科学部博物館報 第26号

平塚市博物館

平塚市博物館年報 No40

平塚市博物館研究報告 自然と文化 No40

横浜市歴史博物館

横浜市歴史博物館資料目録 第25集

横浜市歴史博物館調査研究報告 vol.13

横浜市歴史博物館紀要 第21号

横浜市歴史博物館NEWS No.42

和船と海運

—江戸時代横浜の航路と和船のしくみ—

江戸時代の三浦半島をゆく

歴史×妖×芳年‘最後の浮世絵師’が

描いた江戸文化

横浜に稲作がやってきた！？

平成28年度「学校内歴史資料室を活用した

博物館デビュー支援発展事業」年報

銭湯と横浜

【富 山 県】

魚津市教育委員会

富山県魚津市埋蔵文化財分布調査報告4

富山県埋蔵文化財センター

富山埋蔵文化センターニュース

埋文とやま VOL138～140

開所40年記念特別展遺跡保護のあゆみ

—富山県40年間の発掘調査で

解き明かされてきた歴史の数々—

氷見市立博物館

平成28年度 氷見市立博物館年報 第35号

特別展 氷見灘浦の生活誌—半農半漁の村々—

特別展 中世の氷見を訪ねる

—暮らしと祈りの世界—

【石 川 県】

石川県立自然資料館

石川県立自然史資料館研究報告第7号

石川県立歴史博物館

石川れきはく No.121

【福 井 県】

越前町織田文化歴史館

越前焼 たいら窯 工房調査報告書

越前幸若舞を知る100項

越前町織田文化歴史館研究紀要 第2集

越知山大権現の神仏と石造物

平成29年度越前町織田文化歴史館

泰澄・白山開山一三〇〇年記念企画展覧会

異人探究 泰澄十一の疑問

【愛 知 県】

名古屋博物館

名古屋市博物館だより vol.222～225

名古屋博物館研究紀要 第40巻

南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館紀要 第36号

【京 都 府】

京都大学総合博物館

京都大学総合博物館ニュースレター

No.39～40

京都大学フィールド科学教育研究センター

京都大学北海道研究林標茶区における

水生昆虫相と分類群固定キー

（公財）古代学協会

（公財）古代学協会年報 初音7

古代学協会だより 土車 第131・132号

思文閣出版

鴨東通信一秋 No.105

同志社大学歴史資料館

同志社大学歴史資料館調査研究報告第14集
木津川・淀川流域における弥生
～古墳時代集落・墳墓の動態に関する研究
同志社大学歴史資料館報 第20号

舞鶴引揚記念館

引揚港舞鶴の記録
母なる港 舞鶴
舞鶴への生還1945-1956
シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録

【三 重 県】

皇學館大学研究開発推進センター

皇學館大学研究開発推進センター年報 第4号
皇學館大学研究開発推進センター紀要 第4号

【奈 良 県】

天理大学附属天理参考館

天理参考館報 第30号

(公財) 奈良人権文化財団 水平社博物館

水平社博物館研究紀要 第19号
L U C I F E R 第20号

奈良大学文学部文化財学科

文化財學報 第35集

(独) 奈良文化財研究所

埋蔵文化財ニュース No166～169
遺跡情報交換標準の研究 第4版
奈良文化財研究所紀要 2017
奈良文化財研究所概要 2017

【大 阪 府】

追手門学院大学博物館研究室

Musa 博物館学芸員課程年報 第31号2016年度

大阪大谷大学博物館

博物館だより No.122～124
大阪大谷大学博物館報告書第64冊
影印河内屋可正旧記二

大阪大谷大学歴史文化学科

大阪大谷大学歴史文化研究 第17号
志学台考古 一年代・産地・分析等一 第17号

大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館研究報告 第71号

大阪市立自然史博物館館報 第42号

かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

事業実施報告2017 大学の扉を開く

関西大学博物館

関西大学博物館紀要 第23号
関西大学博物館彙報阡陵 No.74～75

吹田市立博物館

吹田市立博物館だより No.70～72
吹田市立博物館館報 17

【兵 庫 県】

(公財) 竹中大工道具館

竹中大工道具館N E W S Vol.37～38

姫路市立城郭研究室

城郭研究室年報VOL.26

【広 島 県】

(株)熊平製作所

抜萃のつゞり その七十七

庄原市立比和自然科学博物館

庄原市立比和自然科学博物館 標本資料報告
第17号

比和科学博物館研究報告 第59号

比婆科学 第259～261号

【山 口 県】

下関市立考古博物館

平成29年度特別展 遙かなる音の世界
下関市立考古博物館研究紀要 第21号

山口県立山口博物館

山口県立山口博物館研究報告 第43号
館報 39

【福 岡 県】

福岡市埋蔵文化財センター

福岡市埋蔵文化財センター年報 第36号

【宮 崎 県】

九州保健福祉大学学芸員養成課程

九州保健福祉大学 博物館学年報6

IV. 資料の提供

1. 出版物掲載などの画像利用

利 用 者	北海道博物館
資 料 名	巨人軍原選手のパーフェクト野球盤ほか3点
目 的	第3回特別展図録『プレイボール：北海道と野球をめぐる物語』掲載のため
期 間	平成29年6月15日より10月22日（画像データでの提供1件含む）

利 用 者	札幌国際大学縄文世界遺産研究室
資 料 名	浦幌町共栄B遺跡出土品写真
目 的	平成29年度第2回展覧会「十勝の縄文文化」展示およびポスター掲載のため
期 間	平成29年8月1日～9月5日

利 用 者	十勝毎日新聞社
資 料 名	十勝産業写真帖17 十勝郡大津村湧洞沼附近に於ける馬放牧の景（写真）
目 的	十勝毎日新聞新年号「十勝の歴史の中の犬」掲載のため
期 間	平成29年12月7日（画像データ提供）

2. 資料の貸出

利 用 者	早稲田大学文学学術院 嶋崎尚子
資 料 名	浦幌炭礦小学校公立移管ニ関スル関係書類
目 的	浦幌炭砒史研究
期 間	平成29年7月15日～8月31日

利 用 者	ミュージアムパーク茨城県自然博物館
資 料 名	アンモナイト化石
目 的	第68回企画展『アンモナイト・ワールド：恐竜時代の海へいこう』展示のため
期 間	平成29年2月1日より6月30日（前年度より継続）

利 用 者	北海道博物館
資 料 名	昭和43年度第21回北海道地区高等学校秋季野球大会（新人戦パンフレット）ほか4点
目 的	第3回特別展『プレイボール：北海道と野球をめぐる物語』展示のため
期 間	平成29年6月15日より10月22日

利 用 者	北海道立埋蔵文化財センター 第一調査部普及活用課 柳瀬由佳
資 料 名	共栄B遺跡・新吉野台細石器遺跡出土石器・石製品5点
目 的	資料化学分析のため
期 間	平成29年6月5日より10月20日

IV. 資料の提供

利 用 者	北海道立埋蔵文化財センター
資 料 名	共栄B遺跡出土土器・石器・石製品14点
目 的	企画展示「北の縄文 縄文耳飾りの世界」展示のため
期 間	平成29年6月6日より10月20日

3. 来館調査・閲覧

利 用 者	五十嵐貴博
資 料 名	アイヌ副葬品資料一式
目 的	浦幌アイヌ記録映像撮影のため
期 間	平成29年11月23日（来館調査）

利 用 者	株式会社リレイション 小松輝
資 料 名	常室サテライト関係新聞記事（新聞記事記録票）17点
目 的	常室サテライトオフィス支援事業報告書作成のため
期 間	平成30年2月23日（来館調査）

利 用 者	北海道放送報道部 大佐賀 南
資 料 名	ヌタベツト湿原津波堆積物剥ぎ取り標本（常設展示室）
目 的	テレビ番組製作のため
期 間	平成30年3月3日（来館調査）

V. 博物館の事業

平成29年度浦幌町立博物館運営方針

浦幌町の多様な歴史、自然、文化に関する資料と情報を幅広く収集・保全し、地域の財産として将来へ引き継ぎ、多方面で活用していくために、浦幌町立博物館は次のような活動を展開します。

1. 町民の貴重な財産である歴史・産業遺産、地質、自然等を教育的資源として活用し、「うらほろスタイルゼミナール」等の各種博物館講座を実施します。
2. 博物館の外収蔵庫の移転にあたり、町民の財産である博物館資料の永久的な保存と活用について、基礎的な体制づくりに取り組みます。
3. 町内全域に散らばる学術資源の掘り起こしに、研究者や町民と共に積極的に取り組み、展示や教育普及事業を通じて、町内で得られた学術的な知見を迅速にわかりやすく町民へ還元できるよう努めます。
4. 働く人たちや町内全域に暮らす人々が、博物館を学びの拠点として活用しやすくなるよう「夜学講座」や「移動博物館」の活動を充実していきます。
5. 収蔵資料や町内の文化資源を教育資源として広く応用可能な形に展開し、総合学習や理科・社会などの教科に関わった「博学連携」の教育を推進していきます。
6. 町内の文化団体の活動を支援し発表機会の創出や、研究会の開催に協力します。
7. 博物館を人々の生涯学習の場として魅力あるものに育て支えていくために、資料保存などの博物館活動や博物館・図書館ロビーにおけるロビーコンサートなど、町民が気軽に参加できる場を展開していきます。
8. 「国際博物館の日」や「文化財保護強調月間」「近代化遺産の日」などを軸に、全国の博物館や文化機関と連携した、多様な博物館事業を展開していきます。
9. 文化財に対する町民の関心を高めていくため、博物館だよりや広報誌を通じた情報発信に力を注ぎます。また、東十勝ロングトレイル協議会や浦幌町着地型観光推進委員会などと連携し、浦幌の魅力を発信していきます。
10. 浦幌アイヌ協会やアイヌ文化財団と連携し、アイヌ文化伝承を図り、合わせて体験・発表・鑑賞の機会を設定します。アイヌ文化に触れる機会をつくります。

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考
収集	物品資料登録	新収集資料・受贈資料の整理登録化	通 年	—	
	図書資料登録	交換図書・雑誌のほか寄贈図書の登録		—	紀要・図録交換、地域資料収集など
	新聞資料登録	浦幌・十勝関係新聞記事の切り抜き・整理		—	
	植物標本	浦幌の植物相調査のため植物を採集して標本化する		—	
	昆虫標本	チョウの採集・標本化		—	
保存	資料保存・登録	旧郷土博物館から引き継いだ資料などの保存処理と登録および資料カードの作製と資料情報収集。	通年	—	
	写真資料のデジタル化	プリント原版および写真原版のデジタル化の推進	通年	—	
展 示	アイヌ文様刺繍展	浦幌アイヌ協会主催のアイヌ刺繍教室の受講生が製作作品を展示	4月21日 ～5月10日	記帳者 203名	浦幌アイヌ協会共催
	収 蔵 資 料 展「端午の節句展」	収蔵資料の五月人形等を展示・公開し、こどもの日には撮影会を開催する。	4月18日 ～5月10日	非計数	5月5日 記念撮影会5家族24名
	「豊北の植物」写真展	豊北海岸でみられる植物の写真展	5月13日 ～6月11日	記帳者 100名	浦幌の自然を楽しむ会共催
	浦幌消防の100年展	浦幌消防発足100年を記念して歴史と消防の仕事の内容を紹介する	7月1日 ～8月22日	記帳者 123名	浦幌消防署協力
	浦幌の図書館70年展	中央公民館図書室時代から数えて70年を迎える事から、図書館の歩みや仕事内容を紹介する	9月2日 ～10月22日	記帳者 137名	浦幌町立図書館協力
	アイヌ語で自然かんさつ展	帯広百年記念館運営連絡協議会主催の巡回展。今年度はアイヌ文化と野生生物のパネル展。	11月20日 ～12月18日	記帳者 127名	帯広百年記念館運営連絡協議会主催
	1日限りの特別展	平成29年に受け入れた資料のうち、旧上厚内駅関係資料とアイヌ副葬品資料を公開。	12月30日	約60名	協力：JR北海道釧路支社・浦幌アイヌ協会
	全国孔版画年賀状展	全国の孔版画サークルが製作した年賀状作品を展示	1月24日 ～2月7日	記帳者 92名	浦幌孔版画サークル・浦幌文化協会 共催
	書き初め展	書道教室「もみじ子会」の生徒たちの作品展	2月10日 ～25日	未計数	もみじ子会 共催
	ひな人形をさがせ！	収蔵するひな人形6点とひな段掛け軸1点を展示室内に分散展示した。	2月10日 ～3月5日	未計数	
	カモにも事情がありまして…餌から恋の三角関係まで	道東に生息するカモ類の分布、生態、生息状況を紹介し、野鳥の中でも身近な存在であるカモの魅力を伝え、生き物に興味を持ってもらう。	3月3日 ～4月1日	記帳者 157名	釧路市立博物館・霧多布湿原センター・厚岸水鳥観察館 共催
教育普及	ウラボロイチゲの体のつくり	ウラボロイチゲを解剖し、体のつくりから理解して、他の植物と区別できるようにする。	4月19日	9名	講師 持田学芸員
	アイヌの歴史と向き合う	毎年5月18日は「国際博物館の日」に指定されており、世界中の博物館で共通のテーマに沿った事業が開催される。今年のテーマは「博物館と文化的景観」のため、浦幌における文化的景観と博物館の関わりについて考える	5月18日	12名	「国際博物館の日」協賛事業
	フラワーソンのまとめ	6月17-18日に実施する全道一斉植物調査フラワーソン2017の調査結果を振り返る。	6月21日	12名	講師：持田学芸員

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考
教育普及	浦幌消防の100年	企画展「浦幌消防の100年」にあわせて実施。展示解説のほか、浦幌消防署が作製したDVD映像を鑑賞。また、日頃は消防署長室に飾ってある「まとい」を展示した。	7月12日	10名	浦幌消防署協力
	アイヌ文化と植物	アイヌ文化に関わる植物について紹介する。	8月24日	9名	
	収蔵庫の移転	現在実施中の収蔵庫移転作業について解説する。	9月27日	4名	
	間宮不二雄の図書館人生	浦幌村公民館を舞台に浦幌最初の図書館事業を始めた「日本十進分類法の父」と呼ばれる間宮不二雄の生涯について解説。	10月12日	8名	
	牧師さんの植物採集と小さな教会の話	大阪空襲の後に万年へ入植し、戦後、池田町のルーテル教会初代牧師となった吉田康登牧師について解説。	12月21日	24名	日本福音ルーテル池田教会 協力
	植物調査総まとめ	フラワーソンや豊北植物調査会など一年間の植物調査の結果を振り返り、来年度調査の課題などについて話し合う。	1月27日	9名	
	ウチダザリガニバスターズ	特定外来生物ウチダザリガニの捕獲を体験し、生態系について学ぶ。	7月30日	23名	浦幌の自然を楽しむ会共催
	アイヌ文化で遊ぼう	アイヌ古式舞踊を学ぶ会を開催。アイヌ文化財団イオル再生事業・普及啓発事業。	8月7日	65名	講師：帯広カムイトウポボ保存会／NPOトカプチアイヌ協会共催
	こどもヒグマの学校	浦幌でヒグマ研究に取り組む大学生たちによる、ヒグマに関する子供向け講座。スライドや実物標本、着ぐるみを使って、わかりやすくヒグマの生態や「もしヒグマと出会ってしまったら？」を講義。	8月9日	42名	講師：浦幌ヒグマ調査会
	えんそく博物館	道立帯広美術館を見学。従来は博物館事業として実施していたが、今年度は学童保育所の事業として試験的に実施し、帯広美術館のミュージアム・コンシェルジュに子供向けガイダンスを依頼した。	8月10日	37名	浦幌学童保育所共催
	アイヌ文化で遊ぼう！	アイヌ文様の切り抜き、アイヌの着物着付け体験など	12月27日	19名	講師：荒田祐樹（帯広アイヌ協会副会長）・長谷仁美氏（帯広百年記念館学芸調査員）
	化石の勉強会	3名の講師による浦幌周辺における化石情報や最新の研究成果報告など。また、アマチュア化石研究家が自慢の化石や疑問の化石などを持ち寄り「化石談義の会」を実施。上浦幌公民館にて開催。	1月9日	記帳者 28名	講師：木村方一（北海道教育大名誉教授）・井上清和（化石研究家）・澤村寛（足寄動物化石博物館館長）
	化石レプリカづくり・ミニ発掘たいけん	毎年恒例の化石レプリカづくり体験	1月10日	39名	講師：新村達也（足寄動物化石博物館学芸員）
	ツノゴケの世界	従来、北海道では道南以外からは報告の無かった蘚苔類の一種ツノゴケ類が、昨年、浦幌を含む道東一帯において確認された。調査を実施した上土幌町ひがし大雪博物館資料館の乙幡康之学芸員による現地観察と講演。	10月21日	3名	講師：乙幡康之（上土幌町ひがし大雪博物館資料館学芸員）

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考
教育普及	海鳥・海獣たちの交差点・厚内沖：その多様な世界	漁船を借りて厚内漁港をベースに沖合の海上から海鳥の調査・観測を実施している道東鳥類研究所の千嶋淳氏に、これまでの調査結果を振り返り、浦幌沿岸の海鳥類の特徴や環境の貴重性について解説してもらう。	11月25日	24名	講師：千嶋淳（道東鳥類研究所主宰）
	卒業論文大発表会「浦幌のヒグマこんなに調べました2018」	浦幌を含む白糠丘陵一帯でヒグマ研究を行う大学生を講師に招き、自らの研究成果を発表してもらう。第3回目は、研究内容の専門性について、かみくだいた解説を指導教員の佐藤喜和教授にお願いする予定。	2月10日	67名	浦幌ヒグマ調査会・酪農学園大学野生動物生態学研究室共催
	FACE/わたしとあなた展ができるまで	帯広美術館で開催中の特別展「FACE/わたしとあなた」展について、企画から設営までの裏話や、展示のみどころなどを担当学芸員が解説。	2月17日	8名	講師：野田佳奈子（北海道立帯広美術館学芸員）
	知ると楽しい！カモの魅力	釧路市立博物館移動展「カモにも事情がありまして・・・餌から恋の三角関係まで」の関連講座として開催。釧路市立博物館の鳥類・哺乳類担当学芸員が、浦幌でもよく見られるカモの生態について解説する。	3月25日	23名	講師：貞国利夫（釧路市立博物館学芸員）
	〈月例調査観察会〉豊北植物調査会	毎月1回豊北原生花園を歩き、植物のフェノロジー（生物季節観測）を調査・記録する。	5月～11月 毎月1回	延べ49名	
	〈自然観察会〉ウラボロイチゲ観察会	日本では浦幌で最初に発見された植物ウラボロイチゲの自生地を巡って観察する講座	4月29日	12名	講師 坂下禮子
	〈自然観察会〉「青い鳥を探そう」	夏鳥オオルリの美しい姿を、木々の葉が茂って観察しづらくなる前の初夏に観察する	5月7日	7名	講師 春日基江（トリおばさん）
	〈自然観察会〉ヤチボウズ大解剖パートIII	浦幌周辺で普通に見られるヤチボウズを割り、内部構造がどうなっているかを詳しく観察する	5月14日	15名	釧路市立博物館友の会・キナシベツ湿原を愛する会共催
	〈ふるさと探訪〉知っとこ！うらほろ	浦幌町全域を丸一日かけてワゴン車で巡り、町内の史跡や自然などを見学しながら、浦幌の地理・歴史を学ぶ。	6月10日	4名	
	〈自然観察会〉フラワーソン2017	全道一斉植物調査に参加し、浦幌町内の植物情報を収集する。	6月17日	19名	フラワーソン2017実行委員会共催
	〈自然観察会〉秋の渡り鳥観察会	ハクガン、シジュウカラガン、マガン、ヒシクイなど秋に大終結する渡り鳥を観察する。	10月28日	4名	講師 春日基江（トリおばさん）
	〈企画展関連講座〉アイヌ語で自然かんざつ	帯広百年記念館移動展関連事業で、森林公園の秋の自然を、アイヌ文化の観点から観察。	11月23日	8名	講師：池田亨嘉（帯広百年記念館学芸員）
	〈ふるさと探訪〉列車からみる地理・歴史	浦幌～尺別まで片道は列車、片道は自動車で巡り、それぞれの車窓から釧路国境地域の地理歴史を学ぶ。	1月6日	3名	
	〈自然観察会〉春の渡り鳥観察会	日本で越冬した渡り鳥が繁殖地へ向かって再び北上するにあたり、中継地である浦幌・豊頃沿岸部で観察	3月25日	12名	講師 春日基江（トリおばさん）
	ブックトーク＆レコードコンサート	収蔵資料のレコードを活用し、ロビーに音楽を流して休憩場所を提供。同時にブックトークを開催。	毎月1回	未計数	浦幌町立図書館共催

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考
教育普及	3ヶ国語でクリスマスソングを歌う会	ドイツ語・英語・日本語でクリスマスソングを歌う。	12月21日	24名	浦幌クリスマスソング会共催
	コレットの英会話教室	簡単な英会話やアメリカのお菓子作りなどを通じて、異文化交流や体験を行う	隔月火曜日	—	中央公民館共催
	「初心者アイヌ文様刺繍講座」	アイヌ文様刺繍について、その独特の技法を伝承者から学ぶ連続講座	不定期	—	講師 廣川和子 浦幌アイヌ協会共催
外部依頼受託	浦幌町内小中学校授業指導（展示見学・職場見学・野外巡検）		随時	—	
	東十勝ロングトレイル協議会森のルート旧浦幌炭鉱と山菜採りツアー		5月20日	—	東十勝ロングトレイル協議会主催
	北海道教育大学釧路校浦幌バスツアー実習		6月8/29日	—	うらほろスタイル推進協議会・北海道教育大学主催
	教職員ふるさと移動研修会		6月27日	—	教育委員会
	東十勝ロングトレイル協議会海のルート		7月1日	—	東十勝ロングトレイル協議会主催
	帯広アイヌ協会講習会		7月2日	—	トカプチアイヌ協会・帯広市教育委員会文化課主催
	うらほろのいにしえ体験バスツアー		7月8日	—	浦幌町産業課・十勝米に新聞社事業局主催
	音更町郷土史研究会巡検		7月22日	—	音更町教育委員会
	浦幌町フットパスモニターツアー		7月29日	—	浦幌町おもてなし協議会主催
	友好の町絆協定相互交流事業洋野町訪問団町内巡検		8月6日	—	社会教育係主催
	教員サークル「十勝発見」研修K/Pg境界見学		8月18日	—	上浦幌中央小・上浦幌中教員研修
	十勝管内市町村教育委員会教育長移動研修会		8月25日	—	教育委員会
	酪農学園大学野生動物保全学実習指導		9月2-5日	—	
	幕別町立幕別小学校野外学習指導		10月13日	—	小学6年生理科
	十勝池田地方法人会・十勝池田間税会合同研修会「税を考える週間」		11月13日	—	
	日本放送協会テレビ番組「グレートネイチャーSP 地球事変～大量絶滅」制作対応		12月4日	—	
	謙敬寺講演会「150年前の浦幌の草花や樹木：先達はどんな景色を見ていたのか」		3月6日	—	謙敬寺主催
	うらほろ和ごころ体験塾「家族で防災について学ぼう」		3月24日	—	
	その他学校・団体見学指導、博物館講座講師等		随時	—	
	その他、町外依頼講師		10件	—	XII.依頼講演参照
調査研究	郷土史・考古学・地質・自然等についての問い合わせ、資料紹介、資料調査に対応する。		通年	—	
		浦幌村役場「教育雑件」翻刻。		—	三浦ボランティア
	植物生態学	豊北海岸の植物フェノロジー調査		—	
	植物分類地理学	白糠丘陵一帯の植物誌調査、標本収集		—	
	植物生態学	北海道の炭鉱跡地の植生回復に関する研究		—	

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考
調査研究	自然地理学	浦幌町内に残存するトカチボウズについて	通年	—	
	外来生物	町内湖沼のウチダザリガニおよび魚類相調査		—	
	産業史	農業史資料を中心に資料調査を実施		—	
	地方史	浦幌神社史、浦幌消防史の調査を重点的に実施		—	
	人文地理	町内近代化遺産、産業遺産実態調査		—	
ボランティア	新聞資料登録	浦幌の記事や博物館に関する記事をカードに張り付け保存する作業	通年	—	久我ボランティア
	物品資料整理	寄贈された物品をクリーニング・修正等		—	久我ボランティアほか
	収蔵庫移転作業	旧郷土博物館、旧住吉収蔵庫から吉野収蔵庫への資料の移転作業		—	佐藤芳雄ボランティア・持田直也ボランティアほか多数
	企画展示	各企画展示のサポート		—	荒川ボランティアほか
	お茶を飲みながら資料を磨く会	収蔵資料のサビ落としなどの資料保存作業		—	原則として毎月の祝日に開催
	生物調査記録の編集	町内野生生物の情報収集、記録化		—	荒川ボランティア・円子ボランティア
会議・研修等	博物館協議会	浦幌町立博物館の運営に関する館長諮問機関	5月、8月、3月実施		
	帯広百年記念館館運営連絡協議会	帯広百年記念館の活用をはかる十勝管内全市町村の協議体。共同展示など各種事業実施	6月		
	道東3管内博物館施設等連絡協議会	共同展示・研修会など事業実施。7月に北海道博物館大会を帯広市にて開催	随時		
	東十勝ロングトレイル協議会	浦幌・豊頃 naturally の自然や産業・歴史を生かした新たな散策ルート開発	随時		
	浦幌町着地型観光推進委員会	浦幌町の着地型観光ルート開発に伴う研究	随時		
	浦幌町フォトコンテスト審査委員会	商工会主催フォトコンテストの審査委員	随時		
	北海道博物館大会	北海道内の博物館の連携・振興をはかる協議体。第57回北海道博物館大会（帯広百年記念館）開催			
	北海道博物館協会学芸職員部会	全道の学芸職員の連合組織。9月下旬に後志地方にて開催			
	十勝管内学芸職員等協議会	動物園、美術館を含む十勝管内の全学芸職員の連合組織。7月に北海道博物館大会を開催	随時・「教員のための博物館の日」を7月に開催		
	雌阿寒岳防災道路に関する懇談会		随時		
実習生	職業体験実習	浦幌中学校より受入			
	博物館実習	帯広畜産大学より1名受入	学芸員資格取得のための博物館法に基づく実習		

分類	事業名	事業内容	期日	参加者数	備考
研究者等受入	日本大学・酪農学園大学	ヒグマ生態研究	随時		
	三笠市立博物館	貝化石調査	8月		
	帯広百年記念館	漂着物・古文書調査	随時		
	北海学園大学	トカチボウズ調査	随時		
	早稲田大学	浦幌炭鉱関係資料調査	7月～9月		
	ミュージアムパーク・茨城県自然博物館	K/Pg境界調査	6月		
	酪農学園大学野生動物学実習指導	ゼンテイカの生態学的研究	随時		
	北海道教育大学	地質調査	随時		

V. 博物館の事業



PL.1 企画展
「アイヌ文様刺繍展」
(H29.4.21～5.10)



PL.2 企画展
「端午の節句展」
(H29.4.18～5.10)



PL.3 企画展
「豊北の植物写真展」
(H29.5.13～6.11)



PL.4 企画展
「浦幌消防の100年」
(H29.7.1～8.22)



PL.5 企画展
「浦幌図書館の70年」
(H29.9.2～10.22)



PL.6 帯広百年記念館移動展
「アイヌ語で自然かんさつ展」
(H29.11.20～12.18)



PL.7 企画展
「1日限りの特別展
(上厚内駅関係資料)」
(H29.12.30)



PL.8 企画展
「1日限りの特別展
(アイヌ副葬品)」
(H29.12.30)

V. 博物館の事業



PL.9 企画展
「全国孔版画年賀状展」
(H30.1.24~2.7)

PL.10 企画展
「書き初め展」
(H30.2.10~2.25)



PL.11 企画展
「ひな人形をさがせ！」
(H30.2.10~3.5)

PL.12 釧路市立博物館移動展
「カモにも事情がありまして…
餌から恋の三角関係まで」
(H30.3.3~4.1)





PL.13 トピック展
「昔の教科書展」
(H29.6.16～6.30)



PL.14 トピック展
「近現代の遺物いろいろ」
(H29.4.1～9.17)



PL.15 移動博物館
「ウラボロイチゲ観察会」
〔講師：坂下禮子氏〕
(H29.4.29)



PL.16 移動博物館
「青い鳥をさがそう！」
〔講師：トリおぼさん〕
(H29.5.7)

V. 博物館の事業



PL.17 移動博物館
「ヤチボウズ大解剖パートⅢ」
〔釧路市立博物館友の会・キナ
シベツ湿原を愛する会共催〕
(H29.5.14)



PL.18 月例調査観察会
「豊北植物調査会」
(H29.5.6～11.4
毎月1回開催)



PL.19 ふるさと探訪
「知っとこ！うらほろ」
(H29.6.10)



PL.20 移動博物館
「フラワーソン2017」
〔北海道新聞野生生物
基金事業〕
(H29.6.17)



PL.21 夏休みこども博物館
「ウチダザリガニバスターズ」
〔浦幌の自然を楽しむ会共催〕
(H29.7.30)

PL.22 夏休みこども博物館
「アイヌ文化で遊ぼう」
〔講師：帯広カムイトウ
ボボ保存会〕
(H29.8.7)

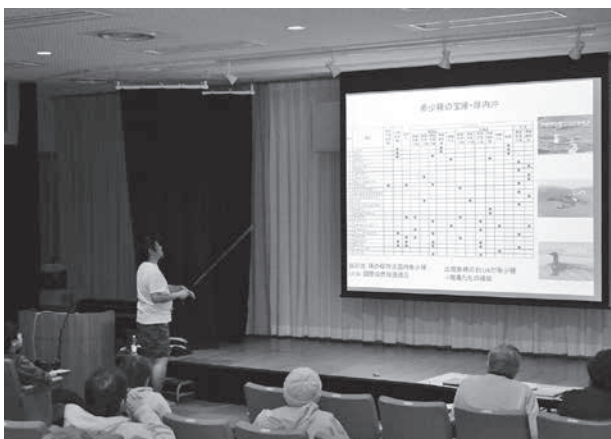


PL.23 夏休みこども博物館
「こどもヒグマの学校」
〔講師：浦幌ヒグマ調査会〕
(H29.8.9)

PL.24 うらほろスタイルゼミナール
「ツノゴケの世界」
〔講師：ひがし大雪自然館
乙幡康之学芸員〕
(H29.10.21)



V. 博物館の事業



PL.25 うらほろスタイルゼミナール
「海鳥・海獣たちの交差点・厚内沖：
その多様な世界」
〔講師：道東鳥類研究所 千嶋淳氏〕
(H29.11.25)

PL.26 企画展関連講座
「アイヌ語で自然かんさつ」
〔講師：帯広百年記念館
池田亨嘉学芸員〕
(H29.11.23)



PL.27 ロビーコンサート
「3ヶ国語でクリスマス
ソングを歌う会」
(H29.12.21)

PL.28 冬休みこども博物館
「アイヌ文化で遊ぼう」
〔講師：帯広百年記念館 長谷
仁美学芸調査員・帯広アイ
ヌ協会 荒田裕樹氏〕
(H29.12.27)





PL.29 冬休みこども博物館
「化石の勉強会」
〔講師：北海道教育大学名誉教授
木村方一氏・化石研究家 井上
清和氏・足寄動物化石博物館
澤村寛館長〕(H30.1.9) で講
演する井上清和氏（中央）と木
村方一氏（左）

PL.30 冬休みこども博物館
「化石の勉強会」での
化石鑑定会の出品化石
と参加者集合写真



PL.31 冬休みこども博物館
「化石の勉強会」で講演する
澤村寛氏

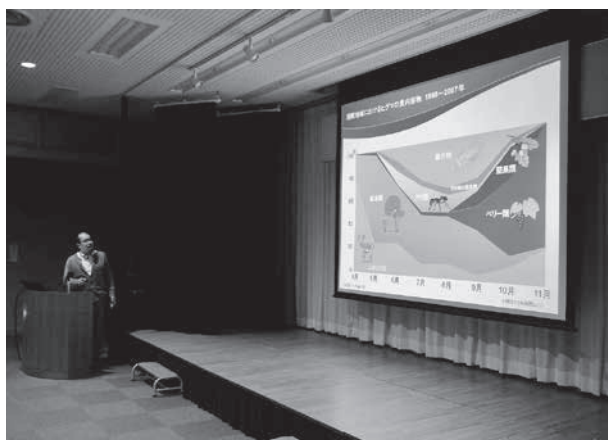
PL.32 冬休みこども博物館
「化石レプリカづくりとミニ
発掘たいけん」
〔講師：足寄動物化石博物館
新村達也学芸員〕
(H30.1.10)





PL.33 卒業論文大発表会
「浦幌のヒグマこんなに
調べました！2018」
(H30.2.10)

PL.34 卒業論文大発表会
「浦幌のヒグマこんなに
調べました！2018」で
基調講演する酪農学園
大学 佐藤喜和教授



PL.35 卒業論文大発表会
「浦幌のヒグマこんなに
調べました！2018」
発表者集合写真

PL.36 うらほろスタイルゼミナール
「FACE/わたしとあなた展が
できるまで」
〔講師：北海道立帯広美術館
野田佳奈子学芸員〕
(H30.2.17)





PL.37 うらほろスタイルゼミナール
「知ると楽しいカモの魅力」
〔講師：釧路市立博物館 貞
國利夫学芸員〕



PL.38 「ブックトーク&レコード
コンサート」〔図書館共催〕
（毎月第3土曜日）で本の
紹介をする浦幌町立図書
館 杉山末樹司書



PL.39 浦幌小学校体験授業
「むかしの暮らし」で足
踏み式ミシンを指導する
山本ひとみボランティア
（H30.2.15）



PL.40 浦幌小学校体験授業
「むかしの暮らし」で
石臼を指導する佐藤
芳雄ボランティア
（H30.2.15）

V. 博物館の事業



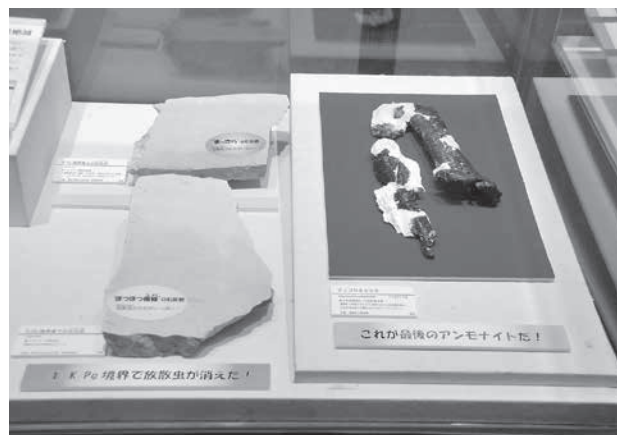
PL.41 他館特別展への資料貸し出し
「アンモナイトの世界」
〔ミュージアムパーク茨城県
自然博物館〕
(会期：H30.2.18～6.11)

PL.42 他館特別展への資料貸し出し
「アンモナイトの世界」
〔ミュージアムパーク茨城県
自然博物館〕



PL.43 他館特別展への資料貸し出し
「アンモナイトの世界」
〔ミュージアムパーク茨城県
自然博物館〕

PL.44 他館特別展への資料貸し出し
「アンモナイトの世界」
〔ミュージアムパーク茨城県
自然博物館〕で展示される
浦幌町産アンモナイト





PL.45 他館特別展への資料貸し出し
「プレイボール！北海道と野球を
めぐる物語」〔北海道博物館〕（会
期：H30.7.8～9.24）で、資料
の搬出準備を進める北海道博物
館の舟山直治学芸員と村上孝一
学芸員

PL.46 他館特別展への資料貸し出し
「プレイボール！北海道と野球を
めぐる物語」〔北海道博物館〕（会
期：H30.7.8～9.24）で、当館
資料も掲載された同展の図録



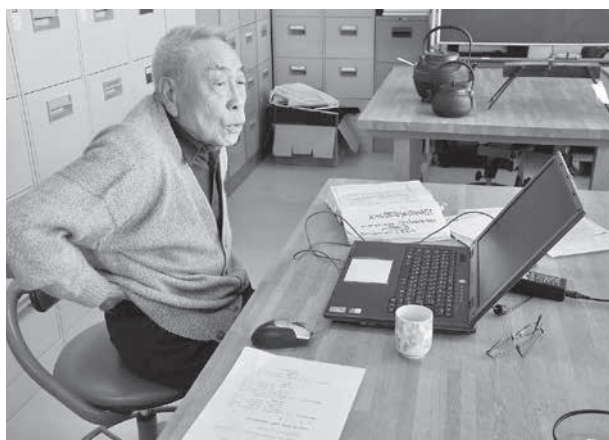
PL.47 博物館実習（H29.11.14～
11.25）で植物標本整理作
業にあたる実習生の帯広畜
産大学 元木咲氏

PL.48 廃止された旧上厚内駅関
係資料の第一次受け入れ
（H29.11.24）右は浦幌
駅の長澤弘幸駅長。





PL.49 旧浦幌町郷土博物館から
旧吉野小学校を活用した
新収蔵庫への資料移転
(H29.7.17)



PL.50 永年、古文書の翻刻を
ボランティアで続けて
こられた三浦直春氏。
(H30.2.20)



PL.51 「お茶を飲みながら資料を
磨く会」
(原則として毎月1回開催)



PL.52 年末の展示室大掃除を
担当する左から川田秀
幸氏、岩崎小百合氏、
岩崎幸子氏
(H29.12.20)

VI. 出版・広報活動

- 『浦幌町立博物館年報』第18号発行（2017年11月30日）
- 『浦幌町立博物館紀要』第18号発行（2018年3月31日）
 - ・論文、資料紹介5編を掲載
 - ・第16号より国際逐次刊行物番号（ISSN）を付与（ISSN 2189-4787）
 - ・年報と共に全国の主な大学、博物館、図書館へ発送。
- 『浦幌町立博物館だより』発行（毎月1日発行）
 - ・町内および十勝・釧路管内の主な博物館、図書館等で配付。PDF版をホームページにて公開。
- 『広報うらほろ』に「博物館の窓」を連載

VII. レファレンス業務

2017年度において、照会などのあった内容は概ね次のようなものである。

<人文・社会科学分野>

- 浦幌炭砦の歴史について
- 官設鉄道釧路線（現根室本線）の設計段階の史料や地図について
- 旧斉藤牧場事務所について
- 町内で算出する貝類化石につちえ
- 町内の畑でみつかった石器について
- トーチカの残存状況と活用について
- アイヌ遺骨の返還について
- 昭和三十年代の浦幌市街地について
- 浦幌川流域のアイヌコタンについて
- 十勝鉄道の写真の所蔵状況について
- 尺別炭鉱と尺別鉄道の歴史・史料について
- 十勝～釧路にかけてのアイヌ語地名、特にコンブに関する地名について
- 町内の絵馬の所蔵状況について（北海道庁依頼調査）
- 十勝近隣での海難事故の記録について（北海道庁依頼調査）
- 浦幌川での水害に関する記録について（北海道庁依頼調査）
- 浦幌川での水害に関する復興記念碑の所在調査について（北海道庁依頼調査）
- アイヌ料理について
- 松浦武四郎の十勝探査に関する史料調査について
- 浦幌の野球関係資料の所在調査（北海道博物館依頼調査）
- 戦時中の新聞・広告の所蔵について
- 北海道150年関係資料の所在調査
- 吉野神社の歴史と新倉家の浦幌移入に関する史料調査
- 古文書調査

<自然科学分野>

- 植物名問い合わせ（同定依頼）
- 昆虫名問い合わせ（同定依頼）
- ウラボロイチゲの分布について
- トヨコロスミレの分布について
- ハマナスの生態と利用について
- アイヌのハマナス利用について

- 渡り鳥の飛来時期と種類について
- ヒグマの分布・生態について
- タンチョウの生息状況について
- 十勝海岸の昆虫相について
- 岩礁性昆虫イワハママシの生息状況について
- ニホンザリガニとウチダザリガニの分布と現状について
- K/Pg境界におけるイリジウムの濃度について
- 厚内沿岸での鯨類漂着状況について
- トカチボウズの分布と現状について
- 浦幌町周辺で産出される貝化石について
- 白糠丘陵におけるエゾシカの食害状況について
- 日本画に描かれた植物の同定（北海道立美術館依頼調査）
- 外来植物の現状について

<文化財・博物館制度・博物館学について>

- 文化財保護法について
- 博物館法と学芸員制度について
- 道東の博物館史について
- 民具の保存と手入れ方法について
- フィルムに付着したカビの保存方法について
- 学芸員の任用方法や博物館実習について
- 学芸員の業務内容について
- 道東における博物館の収蔵庫の状況について

VIII. 博物館ボランティア

博物館活動の一環として、博物館ボランティアによる活動がある。博物館ボランティアの業務は、①資料整理等の補助業務 ②新聞資料等の整理 ③博物館図書の登録と整理 ④簡易な展示解説 ⑤調査研究活動の補助 ⑥その他館長が適当と認めた業務等が想定されるが、本館では①～③業務を主に行い、他に古文書解説も行われている。現在の登録者は10名であるが、日常的に活動している者は6名である。

なお、古文書解説の成果は、「浦幌町立博物館紀要」第17号に掲載した。

●博物館ボランティア活動日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
氏 名 別	3	5	4	3	4	3	2	3	4	7	8	7	53
延 人 数	23	28	30	20	24	21	18	23	27	35	36	27	312
磨 く 会*	2	4	2	7	3	中止	6	なし	3	3	5	3	38

磨く会＝お茶を飲みながら資料を磨く会

●博物館ボランティア登録者

北 町	春日 基江	住吉町	三浦 直春	本 町	久我サトエ	北 栄	円子 紳一
南 町	荒川 和子	万 年	坂下 禮子	住吉町	佐藤 芳雄	光 南	前出 彰子
東山町	大本真里子	東 町	山本ひとみ	団 体	浦幌の自然を楽しむ会		
常 豊	土本 伸重	住吉町	持田 直也	住吉町	持田 百恵	南 町	コレット・イングリッシュ

IX. 博物館日誌（抄）

平成29年

- 4月1日(土) 図書館映画会開催。
- 4月3日(月) 浦幌町職員辞令交付式。齋藤亜希子臨時職員着任。円子紳一氏、菅谷明氏、宮崎一市氏、佐藤芳雄氏、飯居紹一氏、学童保育所来館。
- 4月4日(火) 円子紳一氏来館。
- 4月5日(水) アイヌ刺繍講座（アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名、円子紳一氏、北海道新聞社池田支局支局長米林千晴氏、毎日新聞社帯広支局鈴木斉氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 4月6日(木) 斎藤憲氏、北海道新聞社池田支局支局長米林千晴氏、円子紳一氏、浦幌町商工会石橋憲幸氏来館。
- 4月7日(金) 円子紳一氏、十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏来館。
- 4月8日(土) 布絵本づくり開催。根室市歴史と自然の資料館福田光夫氏、根室市成央小学校福田煌太氏、佐藤芳雄氏来館。
- 4月11日(火) 前出彰子氏来館。
- 4月12日(水) アイヌ刺繍講座（アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会5名、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏、塩原真氏来館。持田学芸員、東十勝ロングトレイル会議出席。
- 4月14日(金) 円子紳一氏、菅谷明氏、大笹健郎氏、栗木隼大氏来館。
- 4月15日(土) ブックトーク&レコードコンサート開催。
- 4月18日(火) 持田直也氏、持田百恵氏、中村哲也氏ご夫妻来館。
- 4月19日(水) 夜学講座「ウラホロイチゲのからだのつくり」開催。大同出版紙業(株)藤井陸香氏、アイヌ刺繍展設営浦幌アイヌ協会6名来館。
- 4月20日(木) 円子紳一氏、菅谷明氏、釧路市高橋立一氏、釧路市新津知史氏、坂下禮子氏来館。
- 4月21日(金) 佐藤芳雄氏、寿大学選考委員5名来館。
- 4月22日(土) アイヌ文様刺繍展開催（～5／7まで）。
- 4月23日(日) お茶を飲みながら資料を磨く会開催。
- 4月24日(月) 円子紳一氏来館。
- 4月26日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 4月27日(木) 浦幌町商工会岩田彰氏、円子紳一氏来館。
- 4月29日(土) 移動博物館「ウラホロイチゲ観察会」開催。京屋美樹氏、兼松由紀江氏来館。
- 4月30日(日) 飯居紹一氏来館。
- 5月3日(水) 酪農学園大学佐藤喜和氏、浦幌ヒグマ調査会井下順恵氏・佐藤芳雄氏、円子紳一氏来館。
- 5月4日(木) 大本眞里子氏、山口利明氏、帯広畜産大学大学院生10名来館。
- 5月5日(金) 端午の節句撮影会。平取町二風谷アイヌ博物館森岡健治氏、宮崎一市氏、十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、チャンめぐりの会17名来館。
- 5月6日(土) 月例調査観察会「豊北植物調査会」開催。
- 5月7日(日) 移動講座「青い鳥を探そう」開催。酪農学園大学山中岳史郎氏ほか3名、帯広市教育委員会文化課土田和世氏来館。
- 5月10日(水) 円子紳一氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。持田学芸員、東十勝ロングトレイル会議（豊頃町）出席。
- 5月11日(木) 持田直也氏、えりも花の会13名来館。
- 5月12日(金) 円子紳一氏、佐藤芳雄氏、坂下禮子氏、池田町川内和博氏、十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、円山：松田氏来館。
- 5月13日(土) 浦幌の自然を楽しむ会「豊北の植物写真展」（～6／11）開催。布絵本づくり開催。持田学芸員、十勝管内学芸職員等協議会（帯広市百年記念館）出席。

- 5月14日(日) 移動博物館「ヤチボウズ大解剖パートⅢ」開催。むかわ町穂別博物館櫻井和彦氏、小樽市総合博物館櫻井美香氏、円子紳一氏、春日基江氏来館。
- 5月16日(火) 円子紳一氏来館。
- 5月18日(木) 国際博物館の日「夜間延長開館と展示解説」開催。夜学講座「アイヌに歴史と向き合う」開催。菅谷明氏、円子紳一氏、坂下禮子氏来館。
- 5月20日(土) 東十勝ロングトレイル（炭山・留真）開催。川内和博氏、和歌山満氏来館。
- 5月21日(日) お茶を飲みながら資料を磨く会中止。ブックトーク&レコードコンサート開催。小嶋尚氏、北海学園大学高橋伸幸氏、駒澤大学清水長生氏、川内和博氏来館。持田学芸員、研究者案内のため、K/Pg境界及び十勝坊主調査案内。
- 5月23日(火) 円子紳一氏来館。
- 5月24日(水) 持田学芸員、道東三管内博物館施設等連絡協議会（釧路市立博物館）出席。
- 5月25日(木) 定例教育委員会。
- 5月26日(金) 円子紳一氏、十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、(株)長大貝塚淳氏、飯居紹一氏来館。
- 5月27日(土) 布絵本づくり開催。持田学芸員、フラワーソン出席のため帯広市へ出張。
- 5月28日(日) 持田学芸員、ニセコ町に出張（～5/29）。
- 5月30日(火) 浦幌町立図書館・博物館協議会。
- 5月31日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香氏、佐藤芳雄氏来館。
- 6月1日(水) 円子紳一氏、地域おこし協力隊森彩花氏来館。
- 6月3日(土) 月例調査観察会「豊北植物調査会」開催。
- 6月4日(日) 十勝教育局社会教育指導班一ノ関太郎氏、北村嗣未氏、札幌市サッポロ堂書店石原誠氏、千葉県中島氏来館。
- 6月6日(火) 佐藤隆則氏、円子紳一氏、北海道埋蔵文化センター坂本尚史氏来館。
- 6月7日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会8名、十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 6月8日(木) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会5名、菅谷明氏、円子紳一氏、千葉県中島氏来館。持田学芸員、教育大巡検。
- 6月10日(土) ふるさと探訪「知っとこ！うらほろ」開催。布絵本づくり開催。
- 6月11日(日) ノースプロダクション、うらほろスタイル推進協議会21名来館。
- 6月13日(火) 宮崎一市氏、井上清和氏、円子紳一氏、笹島涼華氏、土本伸重氏来館。
- 6月14日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会7名、円子紳一氏、榎省造氏、和歌山満氏来館。持田学芸員、東十勝ロングトレイル会議（コスミックホール）出席。
- 6月15日(木) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会7名来館。
- 6月16日(金) 佐藤芳雄氏、宮崎一市氏、北海道新聞社池田支局支局長米林千晴氏、十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏来館。
- 6月17日(土) ブックトーク&レコードコンサート開催。持田学芸員、フラワーソン調査。
- 6月18日(日) 持田学芸員、フラワーソン調査。
- 6月20日(火) ミュージアムパーク茨城県自然博物館小池渉氏、榎省造氏来館。
- 6月21日(水) 夜学講座「フラワーソンのまとめ」開催。
- 6月22日(木) 北海道博物館舟山直治氏・村上孝一氏、円子紳一氏、和歌山満氏来館。
- 6月24日(土) お茶を飲みながら資料を磨く会開催。布絵本づくり開催。吉野駐在所中村氏来館。
- 6月25日(日) お茶を飲みながら資料を磨く会開催。帯広市図書館ボランティア18名来館。
- 6月27日(火) 教職員ふるさと移動研修会開催、持田学芸員同行。円子紳一氏、浦幌アイヌ協会丹野るみか氏、井上清和氏来館。
- 6月28日(水) 帯广大谷短期大学・豊頃町教育委員会6名来館。
- 6月29日(木) 円子紳一氏、坂下禮子氏、菅谷明氏、土本信重氏来館。持田学芸員、教育大巡検。
- 6月30日(金) 円子紳一氏来館。
- 7月1日(土) 月例調査観察会「豊北植物調査会」開催。持田学芸員東十勝ロングトレイル参加。

- 7月4日(火) 東京農業大学宮本太氏ほか5名、菅谷明氏、浦幌アイヌ協会丹野るみか氏、円子紳一氏、土本信重氏、嶋田昌江氏親子、上浦幌中央小学校児童来館。持田学芸員上浦幌中央小学校出前授業講師。
- 7月5日(水) 浦幌アイヌ協会丹野るみか氏、円子紳一氏来館。
- 7月6日(木) 持田学芸員、北海道博物館大会（帯広市）出席（～7／7）。
- 7月7日(金) 芽室町消費者協会20名来館。
- 7月8日(土) 布絵本づくり開催。持田学芸員、産業課バス見学会（化石堀り）講師。
- 7月11日(火) 円子紳一氏、菅谷明氏、十勝教育局社会教育指導班一ノ関太郎氏、足寄中学校生徒来館。
- 7月12日(水) 夜学講座「浦幌消防の100年」開催。
- 7月15日(土) ブックトーク&レコードコンサート開催。早稲田大学嶋崎尚子氏・笠原良太氏来館。
- 7月16日(日) 帯広百年記念館笹村律子氏来館。
- 7月17日(月) お茶を飲みながら資料を磨く会開催。
- 7月18日(火) 円子紳一氏来館。
- 7月19日(水) 佐藤芳雄氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、野口昌靖氏来館。
- 7月20日(木) 菅谷明氏来館。
- 7月21日(金) 円子紳一氏、佐藤芳雄氏、大森菜央氏（ハマナス関係）他2名来館。
- 7月22日(土) 布絵本づくり開催。音更町郷土史研究会来館。
- 7月25日(火) 持田学芸員、帯広百年記念館へ出張。
- 7月26日(水) 浦幌小学校打ち合わせ（ザリガニ）実施。浦幌小学校山岸先生・横山先生、円子紳一氏、佐藤芳雄氏ほか1名、ノースプロダクション橋本氏来館。
- 7月29日(土) 持田学芸員、浦幌商工会フットパス（おもてなし協議会事業）講師。
- 7月30日(日) 夏休みこども博物館「ウチダザリガニ・バスターズ」開催。北海道ウチダザリガニ防除ネットワーク高橋克己氏・斉藤さゆり氏来館。
- 7月31日(月) 持田学芸員、網走市北方民族博物館へ出張（～8／1）
- 8月2日(水) 丹野るみか氏（アイヌ刺繍）、上越教育大学天野和孝氏ほか1名来館。
- 8月4日(金) ストローでつくるヒンメリ教室（図書館七夕事業）開催。
- 8月5日(土) 月例調査観察会「豊北植物調査会」開催。
- 8月6日(日) 持田学芸員、洋野町からの来町者の案内。
- 8月7日(月) 夏休みこども博物館「アイヌ古式舞踊を学ぶ」開催
- 8月9日(水) 夏休みこども博物館「ヒグマの学校」開催。帯広市松井由孝氏・松井浪子氏、酪農学園大学寺井凜氏・船戸恵太氏・加藤亜友美氏・黒田将義氏・上田健太氏、円子紳一氏、アイヌ協会丹野るみか氏来館。
- 8月11日(金) お茶を飲みながら資料を磨く会開催。
- 8月12日(土) 収蔵庫移転作業実施（～8／15）。
- 8月15日(火) 浦幌小学校円山先生来館。
- 8月17日(木) 円子紳一氏来館。
- 8月18日(金) 宮崎一市氏来館。
- 8月19日(土) ブックトーク&レコードコンサート開催。
- 8月23日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会8名、苫小牧市議団5名来館。
- 8月24日(木) 夜学講座「アイヌ文化と植物」開催。猟友会浦幌支部6名来館。
- 8月25日(金) 十勝管内市町村教育委員会教育長移動研修会20名来館。
- 8月26日(土) 布絵本づくり開催。持田学芸員、上士幌町へ出張（～8／27）。
- 8月28日(月) 持田学芸員、浦幌小学校3年生昆虫観察同行。
- 8月29日(火) 井上清和氏、円子紳一氏、川内和博氏、宮崎一市氏、佐藤喜和氏ほか2名、十勝東部民生委員研修会22名来館。
- 8月30日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会8名、十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、円子紳一氏、宮崎一市氏来館。

- 8月31日(木) 森脇啓好氏ご夫妻来館。
- 9月1日(金) 円子紳一氏、北海道新聞社池田支局支局長米林千晴氏、坂下禮子氏来館。
- 9月2日(土) 月例調査観察会「豊北植物調査会」開催。浦幌町議会事務局展示（～10/18）。
企画展「浦幌図書館の70年」展示（～10/22）。
- 9月6日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会8名来館。
- 9月8日(金) 十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、菅谷明氏、前出彰子氏来館。持田学芸員浦幌小学校ザリガニ採り同行。
- 9月9日(土) 布絵本づくり開催。読書会開催。円子紳一氏来館。
- 9月12日(火) 宮崎一市氏、円子紳一氏、十勝会23名、國學院大学博物館学講座：青木豊教授ほか27名来館。
- 9月13日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会8名、菅谷明氏、円子紳一氏、春日基江氏、和歌山満氏、佐藤芳雄氏、ノースプロダクション橋本けんじ氏来館。持田学芸員、東十勝ロングトレイル会議（浦幌商工会）出席。
- 9月14日(木) 十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、十勝毎日新聞社塩原真氏来館。
- 9月15日(金) 浦幌小学校丸山怜華氏来館。
- 9月16日(土) ブックトーク&レコードコンサート開催。
- 9月18日(月) お茶を飲みながら資料を磨く会台風により中止。
- 9月20日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会7名、円子紳一氏、武藤氏ご夫妻来館。持田学芸員、岩内町・札幌市出張（～9/22）。
- 9月21日(木) 豊頃町教育委員会（高齢者学級）26名、札内桂寿会38名来館。
- 9月22日(金) 大盛哲男氏来館。
- 9月23日(土) 枋原行人氏来館。
- 9月26日(火) 収蔵庫移転作業
- 9月27日(水) 夜学講座「収蔵庫の移転」開催。アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会8名来館。収蔵庫移転作業。
- 9月28日(木) 宮崎一市氏、円子紳一氏来館。
- 9月29日(金) 布絵本づくり開催。円子紳一氏来館。
- 10月3日(火) 十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏来館。
- 10月4日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会7名来館。持田学芸員、展示設営のため帯広市へ出張。
- 10月5日(木) 浦幌中学校職場体験実習実施（2名）。柿岡武弘氏、円子紳一氏来館。
- 10月6日(金) 五十嵐信克氏来館。
- 10月7日(土) 月例調査観察会「豊北植物調査会」開催。
- 10月9日(月) お茶を飲みながら資料を磨く会開催。
- 10月11日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会7名来館。
- 10月12日(木) 夜学講座「間宮不二雄の図書館人生」開催。北海道立博物館舟山直治氏・村上孝一氏、丹青社森富広氏・藤原信克氏来館。
- 10月13日(金) 森ひろ子氏来館。持田学芸員、幕別小学校地層学習同行（児童33名）。
- 10月14日(土) 布絵本づくり開催。持田学芸員、帯広百年記念館公演用務で出張。
- 10月15日(日) 持田学芸員、帯広市文化財見学で出張。
- 10月17日(火) 宮崎一市氏、井上清和氏、北海道埋蔵文化財センター柳瀬由佳氏来館。
- 10月18日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会8名、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏来館。
- 10月19日(木) Chai編集部平田幸嗣氏、佐藤芳雄氏、円子紳一氏、宮崎一市氏、差間正樹氏、菅谷明氏、道内林業体験（まちづくり政策課）5名来館。
- 10月20日(金) 宮崎一市氏来館。
- 10月21日(土) うらほろスタイルゼミナール「ツノゴケの世界」開催。
- 10月22日(日) ブックトーク&レコードコンサート開催。

- 10月24日(火) 十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、菅谷明氏、神奈川県元木陽子氏・優氏来館。
- 10月25日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会7名、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、土本信重氏来館。
- 10月28日(土) 移動博物館「秋の渡り鳥観察会」開催。布絵本づくり開催。
- 11月1日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会8名来館。
- 11月3日(金) 持田学芸員、音更町へ出張。
- 11月4日(土) 月例調査観察会「豊北植物調査会」開催。日向俊量氏来館。
- 11月5日(日) 佐藤芳雄氏、佐藤喜和氏、高木風人氏、祝前伸光氏来館。
- 11月7日(火) 円子紳一氏、三望実捻会16名来館。
- 11月8日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会8名、円子紳一氏、北海道新聞社池田支局支局長米林千晴氏、菅谷明氏、落合敏恵氏来館。持田学芸員、東十勝ロングトレイル会議出席。
- 11月11日(土) 布絵本づくり開催。
- 11月14日(火) 大学生博物館実習実施（～11/25）。菅谷明氏、佐藤芳雄氏来館。
- 11月15日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会6名、佐藤芳雄氏来館。
- 11月16日(木) 宮崎一市氏来館。
- 11月17日(金) 孔版画サークル小山妙子氏、宮崎一市氏来館
- 11月18日(土) ブックトーク&レコードコンサート開催。
- 11月19日(日) 帯広百年記念館長谷仁美氏・小林真樹氏来館。
- 11月21日(火) 移動展「アイヌ語で自然かんさつ」開催（～12/17）。
- 11月22日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、池田町川内和博氏来館。
- 11月23日(木) 移動展関連講座「アイヌ語で自然かんさつ実践編」開催。札幌市市川守弘氏ほか4名、帯広百年記念館池田亨嘉氏、大笹健郎氏、釧路市加藤ゆき恵氏来館。
- 11月25日(土) 布絵本づくり開催。うらほろスタイルゼミナール「海鳥・海獣たちの交差点・厚内沖～その多様な世界」開催。池田町川内和博氏来館。
- 11月26日(日) 持田学芸員、札幌市へ出張（～11/27）。
- 11月29日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会5名来館。
- 11月30日(木) 十勝総合振興局森林室山田隆氏、円子紳一氏来館。
- 12月4日(月) 東京都中島和浩氏ほか2名、三笠市栗原憲一氏来館。
- 12月5日(火) 三笠市栗原憲一氏来館。
- 12月6日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。
- 12月8日(金) 飯居紹一氏来館。
- 12月9日(土) 布絵本づくり開催。町立診療所榊原医師、池田町川内和博氏、落合敏恵氏、菅谷明氏、飯居紹一氏来館。
- 12月10日(日) 北海道新聞社池田支局支局長米林千晴氏来館。持田学芸員、日本福音ルーテル池田教会へ資料借用のため出張。
- 12月12日(火) 宮崎一市氏、円子紳一氏来館。
- 12月13日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名来館。
- 12月14日(木) 十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、北海道新聞社池田支局支局長米林千晴氏、菅谷明氏、池田町川内和博氏来館。
- 12月15日(金) 菅谷明氏ほか2名来館。
- 12月16日(土) ブックトーク&レコードコンサート開催。
- 12月19日(火) 帯広百年記念館大熊勲氏・池田亨嘉氏、円子紳一氏来館。
- 12月20日(水) アイヌ刺繍上級講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名、円子紳一氏、飯居紹一氏来館。
- 12月21日(木) ロビーコンサート「3ヶ国で歌うクリスマスソング会」開催。ぷちミュージアム「ドイツの道具展」開催。夜学講座「牧師さんの植物採集と小さな教会の話」開催。杉江

- 英雄氏来館。
12月23日(土) お茶を飲みながら資料を磨く会開催。
12月25日(月) 菅谷明氏来館。
12月26日(火) 宮崎一市氏、飯居紹一氏、円子紳一氏、十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、北海道新聞社池田支局支局長米林千晴氏、札幌市安斉健司氏来館。
12月27日(水) 冬休み子ども博物館「アイヌ文化であそぼう」開催。帯広百年記念館長谷仁美氏、帯広アイヌ協会荒田祐樹氏、円子紳一氏来館。
12月30日(土) 企画展「1日限りの特別展」開催。帯広百年記念館大和田努氏、帯広市教育委員会土田和世氏、差間正樹氏、円子紳一氏来館。

平成30年

- 1月6日(土) ふるさと探訪「列車からみる地理・歴史」開催。
1月9日(火) うらほろスタイルゼミナール「化石の勉強会」（上浦幌公民館）開催。
1月10日(水) 冬休み子ども博物館「ミニ発掘たいけん」開催。新村龍也氏、円子紳一氏、飯居紹一氏、町立診療所榊原医師ご夫妻来館。
1月12日(金) 落合敏恵氏来館。
1月13日(土) えんそく博物館「本別へアイヌ文化展を見に行こう」申込者なしのため中止。布絵本づくり開催。
1月16日(火) 飯居紹一氏、菅谷明氏来館。
1月17日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。
1月18日(木) 三浦直春氏、京都市木村昌彦氏来館。
1月19日(金) 幕別町日野安広氏吉野収蔵庫農具資料調査のため来館。
1月20日(土) ブックトーク&レコードコンサート開催。釧路町遠藤國光氏来館。持田学芸員、資料引取りのため本別町へ出張。
1月21日(日) 東京都水沼哲郎氏来館。
1月23日(火) 日立建機(株)浦幌試験場中村茂幸氏、孔版画サークル小山妙子氏、円子紳一氏来館。
1月24日(水) 全国孔版画年賀状展開催（～2／7）。アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名来館。
1月25日(木) 夜学講座「植物調査総まとめ」開催。持田学芸員、浦幌中央寿大学講師。
1月26日(金) 学芸員室閉鎖
1月27日(土) 布絵本づくり開催。帯広市上野敏郎氏来館。
1月28日(日) お茶を飲みながら資料を磨く会（吉野収蔵庫）開催。
1月29日(月) 学芸員室閉鎖
1月30日(火) コレット英会話教室開催。円子紳一氏、川内和博氏、前出彰子氏来館。
1月31日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名、荒川和子氏、三浦直春氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、上浦幌公民館長鈴木信男氏来館。
2月2日(金) NPO法人とかちキムンカムイの森副理事長鈴木勝利氏、宮崎一市氏、飯居紹一氏、北海道新聞社池田支局支局長米林千晴氏、菅谷明氏、落合敏恵氏来館。
2月3日(土) 飯居紹一氏来館。
2月6日(火) 浦幌アイヌ協会丹野るみか氏、Chai編集部平田幸嗣氏、円子紳一氏来館。
2月7日(水) 円子紳一氏来館。
2月8日(木) 飯居紹一氏来館。
2月9日(金) もみじ子会書初め展示（～2／25）。円子紳一氏、十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、もみじ子会宮川氏、十勝総合振興局帯広建設管理部浦幌出張所相澤秀彰氏・福田久人氏、飯居紹一氏来館。
2月10日(土) うらほろスタイルゼミナール「卒業論文大発表会 うらほろのヒグマこんなに調べました2018」開催。布絵本づくり開催。酪農学園大学佐藤喜和氏、白糠町経済課湊谷雅浩氏、白糠町林業係平野雄士氏来館。

- 2月11日(日) 円子紳一氏、山本ひとみ氏、飯居紹一氏来館。
- 2月12日(月) お茶を飲みながら資料を磨く会（吉野収蔵庫）開催。
- 2月14日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会4名来館。
- 2月15日(木) 円子紳一氏、十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、飯居紹一氏来館。浦幌小学校「むかしの暮らし体験」で団体見学（24名）。浦幌幼稚園団体見学（20名）。
- 2月17日(土) うらほろスタイルゼミナール「FACE／わたしとあなた」展ができるまで開催。ブックトーク&レコードコンサート開催。
- 2月20日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名来館。三浦直春氏、荒川和子氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏、円子紳一氏、鈴木勝利氏来館。
- 2月21日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。持田学芸員、アイヌ専門専門職員研修のため札幌市へ出張（～2／22）。
- 2月23日(金) 円子紳一氏、飯居紹一氏、(株)リレイション小松輝氏来館。
- 2月24日(土) 布絵本づくり開催。持田学芸員、北海道自然史研究会で小樽市へ出張（～2／26）。
- 2月27日(火) コレット英会話教室（公民館講座）開催。円子紳一氏来館。
- 2月28日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、浦幌神社背古宗敬氏、大同出版紙業(株)藤井陸香氏来館。
- 3月2日(金) 釧路市立博物館学芸員貞國利夫氏・城石梨奈氏来館。
- 3月3日(土) 釧路市立博物館移動展「カモにも事情がありまして～餌から恋の三角関係まで」開催（～4／1）。北海道大学地層火山研究観測センター西村裕一氏、北海道放送記者大佐賀南氏来館。持田学芸員、大津・十勝川学会役員会のため豊頃町える夢館へ出張。
- 3月4日(日) 持田学芸員、釧路市立博物館へ出張。
- 3月6日(火) コレット英会話教室（公民館講座）開催。アイヌ刺繍講座（アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名来館。持田学芸員、謙敬寺で公演。
- 3月7日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名、円子紳一氏、十勝バス(株)杉江隆史氏来館。
- 3月9日(金) 十勝毎日新聞社池田支局長関坂典生氏、十勝毎日新聞社内杉勝也氏、円子紳一氏、飯居紹一氏来館。
- 3月10日(土) 布絵本づくり開催。ブックトーク開催。
- 3月13日(火) 飯居紹一氏、円子紳一氏来館。
- 3月14日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会3名来館。
- 3月16日(金) 大人のためのお話し会開催。
- 3月17日(土) 「本で行く旅へ行く展」開催（～4／5）
- 3月20日(火) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。コレット英会話教室（公民館講座）開催。
- 3月21日(水) お茶を飲みながら資料を磨く会（吉野収蔵庫）開催。
- 3月24日(土) 布絵本づくり中止。家族で学ぶ防災（和ごころ体験塾）開催。菅谷明氏、佐藤芳雄氏、飯居紹一氏来館。
- 3月25日(日) 移動博物館「春の渡り鳥観察会」開催。企画展関連講座「知ると楽しい！カモの魅力」開催。釧路市立博物館貞國利夫氏、千島淳氏来館。
- 3月27日(火) 持田学芸員、北海道博物館（札幌市）へ出張。
- 3月28日(水) アイヌ刺繍講座（浦幌アイヌ協会）開催。浦幌アイヌ協会2名来館。円子紳一氏、移住体験者佐藤華奈子氏、池田町川内和博氏、佐藤芳雄氏、和歌山満氏来館。
- 3月30日(金) 円子紳一氏、菅野明氏、宮崎一市氏来館。
- 3月31日(土) 窪田輝秋氏、森健太氏、北村敦子氏来館。持田学芸員、帯広百年記念館北沢実館長退任講演会出席。

X. 博物館の利用状況

(1) 博物館入館者の推移

(平成30年3月31日現在)

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成28年度		平成29年度	
月	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数
4	26	611	25	779	25	682	25	697	26	927	26	603
5	27	969	27	853	27	856	27	835	25	979	26	806
6	26	812	26	847	25	582	25	1,218	26	661	26	670
7	26	1,322	27	1,162	27	892	27	754	27	897	26	882
8	27	984	28	1,516	27	1,187	26	1,919	25	1,853	28	1,352
9	26	769	25	1,027	24	585	26	807	25	903	26	783
10	26	1,028	27	1,040	27	741	27	826	26	472	26	813
11	26	780	26	982	26	783	24	958	24	807	25	510
12	26	376	25	558	24	990	25	576	26	693	26	929
1	22	451	20	443	24	631	23	701	22	639	23	454
2	24	596	23	571	23	1,012	23	1,025	24	900	24	893
3	27	950	26	625	26	1,104	27	845	27	587	26	708
小計	309	9,648	305	10,403	305	10,045	305	11,161	303	10,318	308	9,403
累計	3,994	124,024	4,299	134,427	4,604	144,472	4,909	155,633	5,212	165,951	5,520	175,354

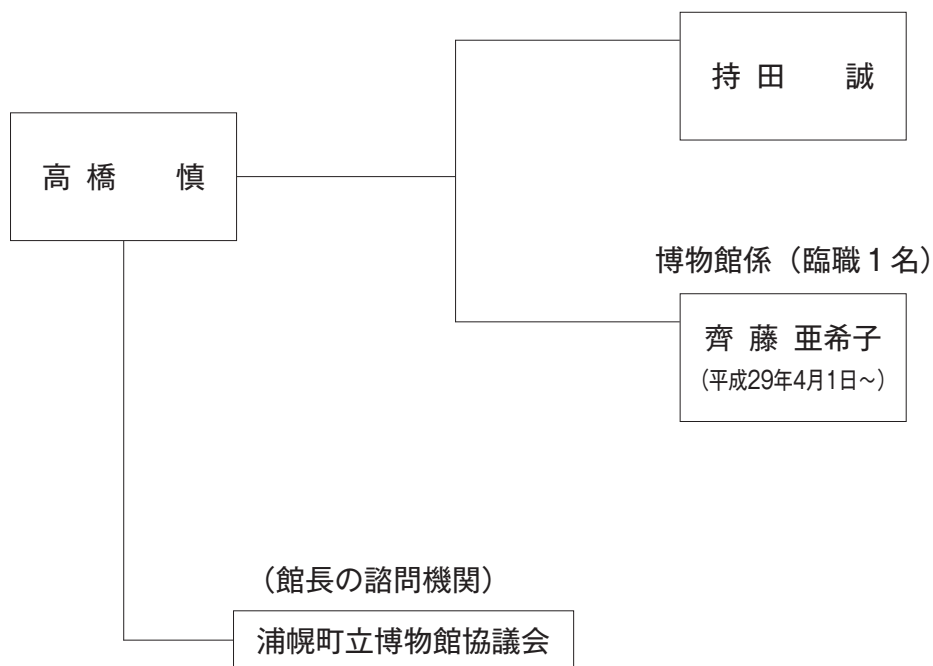
(2) 団体入館者（事前に連絡のあったもの）

4月 3日 浦幌学童保育所	33名	7月 29日 フットパスモニター	30名
5月 4日 帯広畜産大学	10名	8月 6日 友好の町絆協定相互交流事業	40名
5月 5日 チャシめぐりの会	17名	8月 23日 苫小牧市議団	5名
5月 11日 えりも花の会	13名	8月 25日 十勝管内市町村教育長移動研修会	20名
5月 12日 十勝生涯学習教室学級生(豊頃町教育委員会社会教育係)	30名	8月 29日 十勝東部民生委員研修会	22名
6月 8日 北海道教育大学釧路校	10名	9月 12日 國學院大学博物館学講座	28名
6月 11日 うらほろスタイル推進協議会	21名	9月 12日 十勝会	23名
6月 28日 帯広大谷短期大学	6名	9月 21日 豊頃町教育委員会高齢者学級	26名
6月 29日 北海道教育大学釧路校	16名	9月 21日 札内桂寿会	38名
6月 27日 教職員ふるさと研修	17名	10月 19日 道内林業体験(まちづくり政策課)	5名
7月 7日 芽室町消費者協会	20名	11月 17日 三望実稔会	16名
7月 8日 うらほろいにしえ体験バスツアー	35名	2月 15日 浦幌小学校3年生	24名
7月 15日 早稲田大学	5名	2月 15日 浦幌幼稚園	20名
7月 22日 音更町郷土史研究会	17名		

XI. 博物館の組織

館長（兼図書館・中央公民館）

博物館係・学芸員（準職員 1 名）



平成29年4月1日現在

職 名	氏 名	住 所	備 考
会 長	橋 本 友 子	栄 町 2 区	
副会長	円 子 紳 一	北栄町2区	
委 員	松 橋 達 美	住吉町1区	浦幌中学校長
〃	水 野 豊 昭	緑 町	浦幌小学校長
〃	坂 下 禮 子	光 南	
〃	春 日 基 江	北 町 2 区	
〃	西 森 七 枝	新 町	
〃	大 塚 弥 生	美 園	

(任期 平成31年12月18日まで)

XII. 学芸員の執筆活動・依頼講演・社会活動等

1. 当館に配置されている学芸員

- (1) 氏名：持田 誠
- (2) 着任：2015（平成27）年4月1日、浦幌町教育委員会 準職員
- (2) 学位：博士（農学）
- (3) 専門分野：植物学・鉄道史・博物館学
- (4) 現在の主な研究テーマ
 - 浦幌町および白糠丘陵一帯の植物相（標本採集とフロラ調査）
 - 豊北海岸のフェノロジーと植生
 - 十勝の鉄道史と鉄道遺産（根室本線建設史、浦幌炭砒鉄道）
 - 道東におけるルーテル教会の形成史（平成29年度北海道博物館協会学芸職員部会研究助成による）
 - 新倉家の浦幌移入と吉野神社の形成史

2. 業績

(1) 論文・出版

- 持田誠・加藤ゆき恵，2017. 北海道東部音別地方におけるバイカモの記録，水草研究会誌，105：20-23.
- 持田誠，2017. 新たな貝類化石（浦幌）文化情報（北海道文化財保護協会会報），361：4-4.
- 持田誠，2017. 上厚内駅の廃止を見守って，鉄道ビクトリアル，67（7）：156-158.
- 持田誠，2017. 十勝地方、豊北海岸の漂着木処理が引き起こす植生破壊の懸念，北海道の自然（北海道自然保護協会会誌），56：48-50.
- 持田誠，2017. 十勝の鉄道史〈東部編〉，十勝毎日新聞連載，2018年3月6日付、13日付、20日付、27日付、4月3日付（全5回）.

(2) 研究発表等

- 持田誠，十勝地方豊北海岸における漂着木処理が植生に及ぼす影響，2018年2月25日，北海道自然史研究会2017年度大会（小樽市）

(3) 共同研究

- 浦幌町内における特定外来生物ウチダザリガニの実態に関する調査（浦幌の自然を楽しむ会）
- 北海道の炭鉱跡地の植生回復に関する研究（釧路市立博物館）
- 北海道産サクラソウの分類地理学的研究（北海道大学環境科学研究院）

(4) 依頼講演・講師等（浦幌町外）

- 有島記念館「地球遺産周遊ツアーブラニセコ」平成29年5月28日、ニセコ町
- NPOトカプチアイヌ協会「イオル植物観察会」平成29年7月2日、上士幌町
- 北海道博物館協会「第56回北海道博物館大会」平成29年7月6日、帯広市
- 北海道立北方民族博物館「アイヌの人たちの歴史・文化に関する授業実践」平成29年8月1日、網走市
- ひがし大雪自然館「自然講座」平成29年8月27日、上士幌町
- 帯広市教育委員会「帯広市指定文化財十勝鉄道蒸気機関車4号及び客車コハ23号車内公開」平成29年10月15日
- 士幌線・広尾線廃線30周年記念企画実行委員会「士幌線・広尾線廃線30周年記念バスツアー」平成29年9月24日、（広尾線）・10月1日（士幌線）
- 市民活動プラザ六中地域マイスター講座「十勝の文化財と観光資源」平成29年10月26日、帯広市
- 十勝自然保護協会シンポジウム「十勝海岸の自然を考える：湿原・湖沼・海岸線の現状と未来」平成29年12月17日、帯広市
- 小樽市総合博物館ゼミナール「小樽学」平成30年3月11日、小樽市

3. 主な社会活動・外部協力

- 北海道教育大学非常勤講師（平成29年4月1日～9月30日）
- 北海道大学総合博物館資料部研究員
- 北海道博物館協会学芸職員部会幹事
- 東十勝ロングトレイル協議会オブザーバー
- 浦幌町着地型観光推進委員会委員
- 一般道道モアショロ原野蝶湾足寄停車場線モアショロ原野地区の環境影響に関する懇談会有識者委員（植物）
- 北海道アイヌ文化財団事業運営委員会委員
- 北海道自然史研究会理事
- 大津・十勝川学会幹事

XIII. 博物館活動のマスコミ報道

ヒゲマの食報告
紀要17号が発刊
町立博物館

【浦幌】町立博物館の「紀要」第17号が発刊された。ヒゲマが食べる昆虫や、植物標本に関する報告などが掲載されている。

酪農学園大学の佐藤嘉和教授らによる「北海道東部浦幌地域におけるヒゲマが採食するアリ類以外の昆虫類」では、浦幌町、釧路市、音別町、釧路管内白糠町で1999～2007年に採集された冷凍保存された20個のヒゲマの糞（ふん）から4目1科7属11種を確認。これまではアリ類とハチ類、十数種類の昆虫の幼



町立博物館から発行された「紀要」第17号

虫を採食との報告があるが、同研究では多くの種類の成虫を採食している実態が初めて確認された。

同館学芸員の持田誠氏と町教委の持田直世氏による「吉田康登氏採集の植物標本（2）」では、旧郷土博物館から発見された吉田氏の植物標本93点を紹介。吉田氏は日本福晋ルーデル池田協会の初代牧師で、十勝管内外で植物を採集。今回3項目を掲載している。

この他、「2016年度採集の蝶標本」「浦幌のウチダザリガニ駆除2016年」「書類解説（大正15年・昭和元年教育雑件）」のA4判36枚。無料。問い合わせは（015・576・2009）へ。

田子紳（通信員）

本はんでん
ずまろ
24-2323

「十勝毎日新聞」 2017年4月6日



持田学芸員と、茨城県に貸し出されたアンモナイト化石（浦幌町立博物館で）

浦幌で発掘

【浦幌】町立博物館所蔵のアンモナイト化石が、ミュージアム・パーク茨城県自然博物館（県坂東市）の企画展「アンモナイト・ワールド 恐竜時代の海へいこう」に貸し出されている。約3億4000万年前にわたって存在した最後のアンモナイトとして浦幌の化石を展示。同アンモナイトが本州に貸し出されたのは初めて。

最後期の化石道外初披露

アンモナイト 茨城へ

浦幌のアンモナイトは2012年8月に町内の茂川流布川沿いで発掘。アンモナイトが絶滅する直前の約6680万年前の地層から産出し、北太平洋地域で最後まで生き残っていたとされる。一般的な渦巻き状ではなく、細長いU字形の異常巻きアンモナイトで、太さ15センチ長さ50センチ程度のU字状。

同企画展は2月18日から6月11日まで開催されている。アンモナイトが存在した古生代デボン紀（4億1900万年前）から中生代白亜紀（6600万年前）までを8つのテーマに分けて紹介。アンモナイトが生きた時代の生物も合わせて720点。このうちアンモナイトは国内外から430点を集めて並べた。

浦幌のアンモナイトは「最後のアンモナイト」として展示され、同自然博物館の小池渉首席学芸員は

「アンモナイト絶滅が、どんな生物にどう影響しているのかを考えるのに意義がある」と話す。

浦幌のアンモナイトは発掘後、アンモナイト化石に詳しい学芸員がいる三笠市立博物館や北海道立博物館で修復や研究を経て、16年2月に3年半ぶりに浦幌に戻され展示していたが、17年2月に再び「出張」にな

り、町立博物館では現在、レプリカを展示している。同企画展終了後の7月には町立博物館に展覧の予定がある」と話す。

町立博物館の持田誠学芸員は「集められたアンモナイト同士の比較ができ、多くの研究員の目に触れることで新たな知見が得られる。浦幌を知ってもらう機会にもなる」としている。

（関坂典生）

「十勝毎日新聞」 2017年4月8日

浦幌町立博物館



収蔵する折り込みチラシを持つ浦幌町立博物館の持田蔵孝員＝浦幌町で

折り込みチラシ

浦幌町立博物館が新
聞の折り込みチラシを
地域の「産業資料」と
試み続けている。収
蔵は約20年間に及び、
た町内同様、個人商店
のチラシは減
少。過疎化が進
む町の姿読み解
く貴重な資料になっ
て

20年

「時代を反映した産業資料」として保管を始めたのは1990年代後半。商店やスーパーの特売情報、農家の季節労働者募集、イベント・祭りの告知など地域資料になり得るものを選び、収蔵してきた。このうち、特に貴重なものは日やチラシの写真などの情報を

「産業資料」収蔵

生活や店の変遷伝え

盛込んだ記録カドも約700枚作成した。かつては個人商店の手書きの単色チラシや個性的な屋号入りもあったが、最近はチェーン店のカラー印刷が主流になった。掲載の食品も量り売りからパック販売に移行するなど、生活実態や店の変遷も垣間見える。同館蔵員の持田蔵孝（鈴木言）を余儀なくされる状況

過疎化の町反映

さん(44)は、特に顕著な変化として個人商店のチラシの減少を挙げている。60年代初めに約1万4500人だった浦幌町の人口は90年代に8000人台となり、現在(3月末)は494人と大幅に減少。食品から生活用品まで取りそろえた大型チェーン店の進出も打撃となり、個人商店が廃業を余儀なくされる状況



所蔵する折り込みチラシの一部

「毎日新聞」 2017年4月13日

アイヌ文様刺繍 39点を発表展示

町立博物館



【浦幌】浦幌アイヌ協会と町立博物館共催の「アイヌ文様刺繍（ししゅう）展」が、同館ロビーで開かれている。5月10日まで。
アイヌ文化振興研究推進機構（札幌）のアイヌ刺繍のアドバイザーで幕別町在住の廣川和子講師と、長谷川美津子さん、広富小百合さん、長谷川雅子さん、丹野るみかさん、末下彩さん（いずれも町内在住）の作品39点を発表・展示している。

会場にはマニタレ（前掛

「十勝毎日新聞」 2017年4月29日

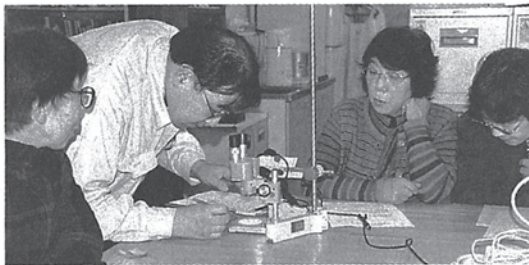
展示品に見入る来場者

け、メガネケース、マタ
ンブシ（額飾帯）などがス
ラリ。カバラミプ（着物）
やタペストリーなど11点を
製作した町厚内の長谷川美

津子さんは「昨年8月から
毎週、博物館のアイヌ刺繍
講座に通った。大きなカバ
ラミプが早く完成したの
で、小物にも挑戦した」と
話し、多くの来場者を期待
した。（広橋基嗣通信員）

ウラホロイチゲ 葉や花の特徴学ぶ 町立博物館講座

【浦幌】町立博物館の夜



学講座「ウラホロイチゲの
体のつくり」が19日、同館
学芸員室で開かれた。参加
者は、日本では1984年

に町留裏で発見され、道東
の限られた地域に生育して
いる植物ウラホロイチゲの
特徴を学んだ。

町内外から9人が参加し
た。同館の持田誠学芸員が
講師を務め、町内に自生す
る3種類のイチゲの仲間
（ウラホロイチゲ、アズマ
イチゲ、ニリンソウ）の違
いなども紹介した。特にウ
ラホロイチゲについては顕
微鏡でその構造を観察した
り、葉の形や花の色などの
特徴を説明。「これがウラ

顕微鏡を使いながらウラホ
ロイチゲの特徴を学んだ講
座

ホロイチゲだよ、と自信を
持って紹介できるようにな
ってほしいと話していた。
同館の移動講座「ウラホ
ロイチゲ観察会」は29日午
前9時、同館駐車場集合で
開かれる。行き先は下浦幌
一円。参加無料。問い合わせ
は同館（015・576
・2009）へ。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年4月27日

■浦 幌 ウラホロイチゲを観察

植物ウラホロイチゲの観察会（町立博物館主催）が4月29日、町内の自生地3カ所を巡って開かれた。写真。



も多く、同館の持田誠学芸員は「雪解けが早いせいか、全体的に花の進行が早かった」と話していた。

道内各地から12人が参加。町内在住の坂下禮子さんが案内役を務めた。参加者はウラホロイチゲと同じ所に咲いているアズマイチゲとの比較で、葉の形が違ふことなどを学んだ。イチゲ類は花の終わりを迎えているもの

「十勝毎日新聞」 2017年5月2日

豊北海岸で 植物観察会

町立博物館

【浦幌】町立博物館の今年度第1回となる月例調査観察会「豊北植物観察会」



観察する参加者たちと持田学芸員（左）

が6日、浦幌と豊頃両町に広がる豊北海岸で開かれた。

町内外から9人が参加し、同館の持田誠学芸員が講師を務めた。同調査会は植物の季節的变化を記録する「フェノロジー調査」でもあり、同海岸で春一番に咲く花を観察した。

つばみや咲いているのが確認されたのはコケモモ（つばみ）、キジムシロ（花など9種類。昨年の同時期より4種類多かった。葉だ

けや葉芽のものを含めると全部で20種類を確認した。

小さな花と実を付けたガンコウランを見つけた参加者たちは、ルーペで雄花と雌花の違いを確認し「これは面白い」と夢中になって観察していた。ガンコウランやコケモモは昨年の果実も見られた。持田学芸員は「雪解けが早かったためか、全体的に生育が早い」と話していた。

同調査会は11月までの毎月第1土曜に同海岸で開催する予定で、同博物館は参加を呼び掛けている。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。
（円子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年5月11日

浦幌のクマ調べ20年

カメラ設置、今年も始動

酪農学園大生ら

【浦幌】酪農学園大学などの学生が町内をベースに十勝、釧路の両管内でヒグマの生態を研究している「浦幌ヒグマ調査会」(佐藤芳雄代表)が結成20年目を迎えた。今季もフィールドワークをスタートさせ、活動資金確保のために引き続きオリジナルTシャツを販売する。



結成20年目を迎えオリジナルTシャツをPRする同会の学生ら

同会は1998年6月に、生態調査や啓発ヒグマと人間の共生を目指して結成。同大学環境共生学類の佐藤喜和教授(野生動物生態学研究室)と学生

文大発表会2017 in 浦幌 浦幌のヒグマこんな調べましたー(町立博物館主催)で、卒業・修士論文を発表して研究成果を地域へ還元した。

会員数は約150人。今月3日に町内で定期総会を開き、今年度の方針を決めた。4月下旬から町内の道

有林で活動を開始して、クマが背中を擦る(こすりつける)「背擦りトラップ」と自動撮影カメラの設置・見回り(共に100カ所)、足跡、ふん、食痕探しなどを行って、子どもを対象にした「ヒグマの学校」

や札幌市内の豊平川河畔林での下草刈りなどの啓発活動も行う予定。来年6月からの1年間で20周年と位置付けて、記念事業を検討することを決めた。

また、オリジナルTシャツは活動の貴重な財源となっており、新たな色とデザ

「十勝毎日新聞」 2017年5月13日

インを検討中。サイズはS、M、Lの3種類、1枚2000円で、道の駅うらほろ、花と野菜のスタンド(町共栄)、帯広市内の衣料店「カリフォルニアハーベスト」(西1南9)、「ゴールドラッシュ」(緑ヶ丘1)などで販売する。

同会への問い合わせは町立博物館(015・576・2009)へ。

(田子紳一通信員)



満開のサクラの下でオオルリを探す参加者

サクラの下でオオルリ観察

移動博物館

【浦幌】町立博物館の移動博物館「青い鳥を探そう」が7日、うらほろ森林公園(町東山)で開かれた。町民ら5人が参加。町内の野鳥愛好家春日基江さんの案内でさえすりを頼りに、青色に輝く「オオルリ」

の姿を探した。

カラマツの頂上に止まったオオルリを見つけると、双眼鏡やフィールドスコップで観察。初めてオオルリを見た豊頃町の池田守さん(65)は「青色がきれいで、声も聞いた。大感激」と喜んで、上空に舞うイワツバメや観察路脇の木でコゲラを間近に見るなど、14種類の野鳥が観察できた。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2017年5月12日

ヤチボウズ 大解剖

浦幌町博物館が学習会



ヤチボウズの断面をたたいて硬さを確認する参加者。右は持田学芸員

【浦幌】町立博物館の移動博物館「ヤチボウズ大解剖 パートⅢ」が14日、浦幌町と釧路市音別町に広がる直別地区のキナシベツ湿原で開かれた。釧路市立博物館友の会とナショナルトラスト運動を

開館延長、夜学講座も あす、浦幌町立博物館

【浦幌】町立博物館は「国際博物館の日」の18日、午後8時まで開館を延長する。同7時から夜学講座「アイヌの歴史と向き合う」を開き、貴重な民具資料なども公開する。

毎年この日は各地の博物館が共通テーマで行事を開催しており、今年博物館が求められる役割などを、同館

の持田誠学芸員が解説する。

また、持田学芸員が展示室にいる間は、ガラスケース内にあるアイヌ民族の民具などの資料を取り出して閲覧できるようにする。入館無料。問い合わせは同館 ☎ 015・576・2009 へ。

(米林千晴)

「北海道新聞」
2017年5月17日

展開している「キナシベツの湿原を愛する会」の共催。十勝管内外から15人が参加した。町立博物館の持田誠学芸員と市立博物館の加藤ゆき恵学芸員、同愛する会の榊原源士代表(67)＝釧路市音別町直別在住＝が講師を務めた。

ヤチボウズは、カブスゲやヒラギスゲなどのスゲ類の植物が盛り上がりつつ株を形成する。冬の土壌凍結と春の融雪水が必要条件で、数十年掛けて40～50センチの高さに盛り上がる。加藤学芸員がヤチボウズを形成するカブスゲを説

明。参加者はノコギリで横に切り取った断面をたたいて「コンコン」と響く音を



聞き、木のような硬さを確認していた。

直別駅前から、湿原内の木道を伝い太平洋が見渡せる「見晴らしの丘」までの「湿原のさんぽ道」を散策した。榊原代表は「浦幌町の東部には手つかずの原生林が残っている」とし、湿原保護や調査活動の大切さを伝えた。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2017年5月18日

町議と意見交換 あす「カフェ」 活性化の活動展も

【浦幌】町議会（田村寛
邦議長）は20日、町教育文
化センター1階ホールで、
町民と話し合う「まちなか
カフェDE議会」を開く。



これに併せ
て、同ホール
では町議会制
度や議員のな
り手不足検証
など、町議会
が力を入れて
いる議会活
化について伝
えるパネル展
示コーナーを
町議会の役割
などをまと
めた議会活
性化展示コー
ナー

開設している。同日まで。
カフェDE議会は、町民
と町議がコーヒーやお茶を
飲みながら気軽に意見交換
をする場として、20日午前
10時から午後4時まで、町
議が3班に分かれて応じ
る。
展示パネルは13枚。地方
議会の役割や、監視評価機
能、議員のなり手不足の検

証結果などがまとめられて
いる。町議会として、国に
提出した、なり手不足の対
応策の意見書も展示されて
いる。
町議会事務局は「2年後
の町議会議員選挙に向けて
今から町民に考えてもらえ
れば」としている。
（関坂典生、広橋基嗣通信
員）

「十勝毎日新聞」 2017年5月19日

町議のなり手不足 パネルで解説 浦幌町議会

【浦幌】全町議会議員と
議会事務局が取り組んでき
た「議員のなり手不足」解
消や議会活性化の議論など
について解説するパネル展
が、町教育文化センターで
開かれている。町議会がこ
うした展示を行うのは今回
が初めて。
町議会では2015年4
月の統一地方選で道内唯一
の定員割れとなったことを
受け、議員や事務局が「チー
ム議会」として議論を開始。
今年3月にA4判170ペ



の報告書をまとめた。今回
の展示は議会の役割や報告
書の内容を13枚のパネルで
町民向けに解説している。
最終日の20日は午前10時
から午後4時まで、コーヒ
ーやお茶を飲みながら町議
と町民が意見交換する「ま
ちなかカフェDE議会」を
会場で開く。町議会事務局
は「2年後の町議選に向け
て、町民が投票や議会傍聴
などの政治参加に関心を持
つきっかけになれば」と期
待している。入場無料。
（米林千晴）
町議会の役割や議会活性化の
議論を解説したパネル展

「北海道新聞」 2017年5月19日



案内する谷崎さん（左）の話を聞く参加者

東十勝ロングトレイル協議会「森のルート」

旧浦幌炭鉱と山菜紹介

ツアー参加者最多に

【浦幌】東十勝ロングトレイル協議会（松原敏行会長）主催の『森のルート』旧浦幌炭鉱と山菜取りツアーが20日、町炭山と留真で行われた。定員25人を上回る35人の参加となり、急ぎよ大型バスに変更して催行。同協議会を設立した2009年以降、過去最多の参加者となった。

同炭鉱在住者だった谷崎由喜男さん（82）＝帯広市在住＝と、町立博物館の持田誠学芸員が63年前に閉山した炭鉱跡をガイド。浦幌野鳥倶楽部の武藤満雄会長が山菜を紹介した。

炭山では、廃屋となったアパートから尺別へ向かう列車の鉄橋跡までの住宅跡を約2.5キロ散策。当時の写真と説明が書かれた標識40基が道路横に設置されている。谷崎さんは当時の生活の様子を交えて解説した。

参加者は植林されて成長した林の中に病院跡の基礎などを確認。コンクリート製で2階建てのアパート3棟は、屋上に樹木が生育し壁の一部が崩れ落ちていたが、往時の盛況ぶりをしのんだ。香川県から浦幌町に体験移住している三原勉さん（73）、美和子さん（69）夫妻は「ここに炭鉱があったとは。新鮮な驚きだ」と感動していた。

留真の森では、武藤会長が三つ葉、コゴミ、フキなどの山菜を紹介。留真温泉のコテージで山菜の天ぷらを堪能し、留真温泉でツアーの疲れを癒やした。

同協議会設立から関わってきた伊豆倉寿信さん（伊豆倉組代表取締役）は「森のルートでは過去最多の参加者。東十勝には独特の観光資源がある。森、海、川の三つのルートを東北海道ツアーのメニューに組み入れることを検討していく」と話している。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年5月26日

豊北の花写真で 町立博物館

【浦幌】浦幌の自然を楽しむ会（堀川真一会長、7人）の会員が撮影した「豊北の花」写真展（同会・町立博物館の共催）が同館特別展示ホールで開かれている。11日まで。入場無料。

豊北地区は、浦幌十勝川と十勝川、太平洋に囲まれた地域で、湖沼、湿原に恵まれ、海岸は自然豊かな原生花園となっている。会場



では海岸に咲くアヤメ、ノハナシヨウブや高山性のハ

クサンチドリ、水辺に密生するミツガシワ、湿原に咲くワタスゲの群落やトキソウなど、野の花91種類の計96枚を展示する写真展。

来場した町内の主婦は「見たことのない花もありきれい」と話していた。堀川会長は「貴重な花も多い。ぜひ来場して浦幌の自然を感じて」と呼び掛けている。

（田子紳一通信員）

さまざまな野の花の写真に見入る来場者

「十勝毎日新聞」 2017年6月1日

花の開花状況 図鑑手に調査

管内でもフラワースン

道内各地の植物の開花状況を5年ごとに一斉に調べる「北海道フラワースン2017」（北海道新聞社、公益財団法人北海道新聞野生生物基金主催）が17日に始まり、十勝管内でも29グループの約220人が参加して図鑑を見ながら花を確認した。

フラワースンは、フラワー・ウォッチング・マラソンの略。1997年に始まり今年で5回目となる。十勝管内では芽室町と音更町にまたがる国有林「国見山自然観察教育林」で十勝植物の会の10人が約3時間かけて調査を行い、ケシ科のクサノオウやユリ科のツバメオモト、エゴノキ科のハクウンボクなど45種類の植物を確認し、うち25種類の花が開花していた。

同会の紺野康夫会長（67）は「日当たりのいい南斜面と湿った北斜面では異なる植物が咲いていた。草花中心の観察だったが樹木も立派で気持ち良かった」と話した。フラワースンは18日まで行われる。（久保吉史）



国見山自然観察教育林で植物の開花状況を調べる「北海道フラワースン2017」の参加者（阿部裕貴撮影）

「北海道新聞」 2017年6月18日

地域の宝記録し伝えよう

道博物館大会 学芸員120人参加

博物館の課題や情報の活用などを研究する「第56回北海道博物館大会」（道博物館協会、帯広市教委など主催）が6、7の両日、帯広市内の帯広百年記念館で行われた。

帯広開催は2004年以来13年ぶり4回目。今年のテーマは「博物館と情報」地域の宝を「掘り起こす・伝える・のこす」で、道内の博物館や動物園など約40施設から約120人の学芸員らが参加した。

6日の開会式では道博物館協会の石森秀三会長が「地域の宝を記録し、後世に伝える重要な使命について考える時期。地方創世相の『学芸員はがん』発言もあつたが、大会を期に学芸員の使命を再検討し、博物館の活動が活発になることを願う」とあいさつ。帯広市教委の嶋崎隆則教育長が歓迎あいさつを述べた。



浦幌町立博物館の持田誠学芸員が事例報告を行う様子。

研究大会の事例報告で活動の資源化を「博物館同

士の横の連携を強めよう」などの意見が交わされた。7日は、参加者が帯広百年記念館、帯広市児童会館、北海道立帯広美術館、およびひろ動物園を見学し、理解を深めた。（藤島諒司）

「十勝毎日新聞」 2017年7月7日

豊頃、浦幌の
大自然を満喫

ロングトレイル
「海のルート」

【豊頃】東十勝ロングトレイル協議会のツアー「海のルート」が1日、開かれた。46人が参加し、豊頃の浦幌の湖沼をめぐり、自然を満喫した。

同協議会は浦幌、豊頃の地域資源を歩いて楽しむ観光ルート創設を目指している。同日は大樹の生花苗沼、豊頃の湧洞沼、長節湖を歩



くフットパス班（7名）と、茂岩から十勝川、浦幌、長節の約40キロを走破するサイクル班に分かれて行った。フットパスには5人のガイド、スタッフが同行。浦幌野鳥の会の武藤満雄さん、浦幌博物館の持田誠学芸員が、ルートの観察できる野鳥や野草について解説した。プチ・カフェ「いんかるしく長節」では、地場産の野菜を使った昼食に舌鼓を打った。

毎年参加している音更町の佐藤暁子さん（68）、桑原美知子さん（68）は「いろいろな所を体験できるのは最高。多くの人と親しくなれる」と笑顔。豊頃の松井テル子さん（79）は「花や鳥、自然に触れることができた」と話していた。

（広橋基嗣通信員）

湧洞沼の原生花園の草花を観察する参加者

「十勝毎日新聞」 2017年7月11日



化石探しを楽しむ親子

化石探して浦幌満喫

体感バスツアー 温泉や買い物も

【浦幌】浦幌の魅力を知って体験する「うらほろのいいしえ体感バスツアー」が8日、町内で開かれた。バスツアーはChai編集部が企画し、つたいツアーリスト（帯広）が主催。OCTV（帯広シティーケーブル）が連携して行った。町のファンになってもらおうと昨年初めて観光スポツトや温泉を楽しむツアーを実施し、今年で2回目。帯広や幕別、音更、芽室から大人19人と子ども14人が参加した。帯広を出発した一行は、浦幌町立博物館で、学芸員の持田誠さんから、町の自然、歴史、町内で発掘した化石などについて説明を受けた。

その後、持田さんと同博物館のボランティア佐藤芳雄さんの案内で、町内炭山にある河原で化石探しを体験。参加者は川底や河原で拾った石をハンマーで割り、貝や木の化石を見つけ、楽しんでいった。化石が好きで参加した幕別の茶木尊雄君（10）は「シダ植物のヤクサの化石を見つけた。図鑑でしか見たことがなかったのに、本物が見られてうれしい」と話していた。

（平田幸嗣）

「十勝毎日新聞」 2017年7月16日

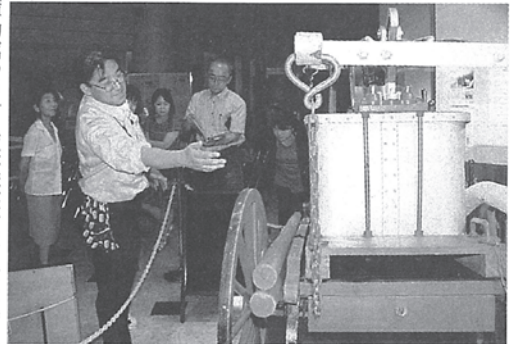
◆フットパスモニターツアー参加を【浦幌】うらほろ観光おもてなし協議会は29日午前9時から、うらほろ森林公園「みのり館」発着で町内を歩いて回るフットパスモニターツアーを開催する。

町立博物館の持田誠学芸員らの案内で市街地や公園内を約8キロ歩き、野鳥や植物、史跡などを見学し、ゴールした後の昼食にジギスカンを楽しむ。午後1時半からはフットパスの普及を進めるエコ・ネットワーク（札幌）の小川浩一郎代表代行による講演会が同館で開かれる。フットパスツアーの参加料は千円（保険、昼食込み）で講演会は無料。申し込み、問い合わせは20日までに事務局の町商工会 ☎ 015・576・2186へ。

「北海道新聞」 2017年7月19日

浦幌消防史100年を回想

町立博物館 夜学講座や企画展



【浦幌】町立博物館のロビーで「浦幌消防の100年」に関する行事が相次いで行われている。夜学講座が12日に開かれたほか、企画展では、浦幌大火を報じる新聞記事など写真パネル22点、大正時代から昭和初期まで使われていた手押しポンプ、第2代消防団長の故米澤喜義氏の褒章や功労賞など多数展示している。

夜学講座では同館の持田誠学芸員が講師を務め、町内から7人が受講。1916年8月15日の「浦幌大火」を機に、翌年に結成された「火災予防組合」から現在の十勝広域消防局までの歴史を学び、防災意識を高めた。97年に日本消防協会から最高栄誉賞の特別表彰として贈られた「纏（まとい）」も披露された。纏は高さ2

企画展でも見られる手押しポンプ。夜学講座で解説する持田学芸員（手前）

段は消防署長室に飾られている。受講した60代男性は「改めて消防組織の大切さが実感できた」と話した。企画展は8月20日まで。午前10時～午後5時。入場無料。月曜休館。
（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年7月19日

ウチダザリガニ捕った！

浦幌・オベトン川 児童が駆除、試食も



【浦幌】町内を流れる浦幌川の支流のオベトン川で30日、町内の小学生たちが特定外来種のウチダザリガニの捕獲・駆除に挑戦する「ウチダザリガニバスターズ」が行われた。

自然保護グループ「浦幌の自然を楽しむ会」と町立博物館の主催。町内の小学生7人や保護者、会員ら約20人が長靴などを履いて川に入り、タモ網を使ってザリガニを捕獲し「いたー」と歓声を上げていた。1時間ほどで数匹程度から10匹超の大きなもので計73匹を捕獲。博物館で調理し試

オベトン川で捕まえたウチダザリガニを手に笑顔を見せる小学生たち

食した。生きたままのザリガニに片栗粉を付けてフライパンで炒めたり、塩ゆでにすると殻が赤く変わっていき、子供たちは興味津々。浦幌小2年の田子悦君（7）は「意外においしくてびっくり。また行きたい」と話していた。オベトン川は在来種のニホンザリガニの生息域で、同会は今後も継続的に捕獲調査を行うという。
（米林千晴）

「北海道新聞」 2017年7月31日

ウチダザリガニ駆除

浦幌川支流 小学生ら試食も

【浦幌】町内に生息している特定外来生物のウチダザリガニを駆除する「ウチダザリガニバスターズ」(浦幌の自然を楽しむ会主催、町立博物館共催)が7月30日、町内の浦幌川支流オベトン川で行われた。遊びながら自然の豊かさ

「十勝毎日新聞」 2017年8月2日



網を使いウチダザリガニを捕獲する子どもら

【浦幌】町内に生息している特定外来生物のウチダザリガニを駆除する「ウチダザリガニバスターズ」(浦幌の自然を楽しむ会主催、町立博物館共催)が7月30日、町内の浦幌川支流オベトン川で行われた。遊びながら自然の豊かさ

とから捕獲しやすかった。捕獲後は、塩ゆでやチリソースを使ったエビチリ風の「ザリチリ」にして試食もした。初参加の山崎瑛太君(9)は「浦幌小4年」は「初めてザリガニが捕れてうれしかった」と笑顔。帯広市から参加した横山遥(はる)君(8)は「豊成小2年」は「一緒に捕れた魚が臭かった」と苦笑していた。同会は昨年12回の駆除を行い185匹を捕獲した。この日だけで半数近くが捕獲され、同会の堀川真一会長は「小さな川なのにこれだけ生息しているのか。今後とも駆除を続ける」と話していた。町立博物館と協力して町内のザリガニ情報の提供も呼び掛けており、連絡は同館(015・576・2009)へ。(田子紳一通信員)

浦幌初 まち散策観光

試験ツアーに道内外30人

おもてなし協企画

【浦幌】町内や十勝の着地型観光を目指してツアーを企画する「うらほろ観光おもてなし協議会」(竹田悦郎会長)は7月29日、浦幌の昔からある風景を楽しみながら歩いてもらう「フットパスモニターツアー」を初めて開催した。町内外や札幌の大学生、兵庫県、神奈川県から移住体験中の2人も加わり、スタッフを含めた30人が参加した。



木炭製造所に立ち寄り興味を持って見学する参加者

【浦幌】町内や十勝の着地型観光を目指してツアーを企画する「うらほろ観光おもてなし協議会」(竹田悦郎会長)は7月29日、浦幌の昔からある風景を楽しみながら歩いてもらう「フットパスモニターツアー」を初めて開催した。町内外や札幌の大学生、兵庫県、神奈川県から移住体験中の2人も加わり、スタッフを含めた30人が参加した。ツアーに先立ち竹田会長が「今回初めて森の中の散策路だけでなく市街地も探索する。旧所、名所をゆっくり歩いて」とあいさつ。町博物館の持田誠子芸員、町野鳥倶楽部の武藤満雄代表、町森林組合の黒川勲参加者がガイドとして加わった。参加者は森林公園の入り館を出発、こもれび散策道を平和塔へ向け散策。クワの実やマタタビが見られ、山には秋が近づいていることを実感した。おっぱい神社として知られる浦幌神社では、背古宗敬宣司から121年の神社の歴史の説明を受けた。市街地では、博物館や寺院を巡り、浄福寺(本町)では、(広橋基嗣通信員)

「十勝毎日新聞」 2017年8月5日



子どもたちが アイヌ舞踊体験 町立博物館

【浦幌】町立博物館の夏休み子ども博物館「アイヌ古式舞踊を学ぶ」が7日、同館前の芝生で開かれた。アイヌ文化財団のイオル再生・普及啓発事業の一環として実施。NOP法人トカプチアイヌ協会と同館が

共催した。帯広カムイトウボボ保存会（酒井奈々子会長）の会員11人が指導した。



児童や町民約60人が参加した。会員が輪になって踊る「ウタリオアンパレワ」、男性の弓の舞「ク リムセ」など8曲を披露した。子どもたちは、十勝地方特有の踊り歌「バツタキウボボ」（バツタ踊り）やキツネが尾を振って逃げる様子を表現した「チロンノップリムセ」（キツネ踊り）などの踊りを体験。酒井会長が「膝をしつかり曲げて」などと指導した。

伊藤千花（ゆきな）さん（9）と坂下結奈さん（9）は「キツネの踊りが楽しかった」と笑顔。最後に全員で「イヤライケレ」（ありがとう）とあいさつした。

（田子紳）通信員

古式舞踊「サランベ」を踊る子どもたちと指導した会員たち（左手前が酒井会長）

「十勝毎日新聞」 2017年8月15日



アイヌ舞踊 笑顔で挑戦

浦幌 催しに小学生ら50人参加

【浦幌】アイヌ民族に伝わる伝統的な舞踊を踊りながら習う催し「アイヌ古式舞踊を学ぶ」が町立博物館

前の広場で開かれ、町内の小学生ら約50人がさまざまな踊りに挑戦した。

アイヌ文化財団（札幌）のイオル再生・普及啓発事業としてNOP法人「トカプチアイヌ協会」（帯広）と同博物館が初めて開催。講師に帯広カムイトウボボ保存会（酒井奈々子会長）のメンバー11人を招いて7日に実施した。

酒井会長が曲目ごとにアイヌ語の意味やどのような時に踊るのかなどを解説した後、ウタリオアンパレワ（輪踊り）やクリムセ（弓の舞）など7つの演目を披露。そのうち、バツタキウボボ（バツタ踊り）やチロンノップリムセ（キツネ踊り）など4曲は子どもたちと一緒に踊った。

子どもたちは同会のメンバー

帯広の保存会のメンバー（中央）の踊りを見ながら、笑顔でアイヌ古式舞踊に挑戦する子どもたち

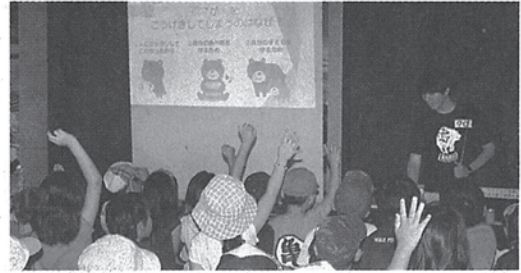
「北海道新聞」
2017年8月16日

バーのお手本を見よう見まねで一緒に踊り、笑顔を見せていた。浦幌小3年の飯田留衣さんは「アイヌ民族

の踊りは初めて見たけど、バツタの踊りが楽しかったと話していた。

（米林千晴）

ヒグマに関するクイズに
手を上げる子どもたち



ヒグマの生態学 浦幌博物館

【浦幌】ヒグマの生態や遭遇した際の対処法などを学ぶ、夏休み子ども博物館「ヒグマの学校」が9日、町立博物館で開かれた。同博物館が主催し、町内外の小学生ら45人が参加。町内道有林でヒグマの生態を調査している、酪農学園大野生動物生態学研究室（佐藤喜和教授）の学生5人が講師を務めた。

ヒグマのふんに残された餌の種類を当てるクイズで生態を学び、自動撮影カメラで写した親子のヒグマを観察した。クマに遭遇したときの対処法として①大声を出さない②走らない③静かに離れる―を確認した。村田一馬君（6）は浦幌小1年。②は「クマのことが勉強になった」と喜んでいった。学生たちは「クマの生態について」子どもから親に伝わることを期待していたと話していた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年8月22日



アイヌの生活で 用いた植物学 浦幌博物館講座

【浦幌】町立博物館の夜学講座「アイヌ文化と植物」が24日、同館常設展示室で

開かれた。町民9人が参加。同館の持田誠学芸員が講師を務め、食用・薬用や衣服、住居・道具、祭祀（さいし）などに利用された植物を解説した。食用・薬用では、根からでんぷんを採取し搾りかすを団子状の保存食としたオウバユリ、食用はもちろん葉をゆでて蒸気を吸い葉としても利用されたギョウジャニンニクなどを解説した。アイヌ文化と植物の関わりを解説する持田学芸員（右奥）

た。アイヌの伝統的な住居「チセ」の柱は、ハシドイやカシワなど、屋根や壁はトドマツやチシマザサ、オギなど、敷物のゴザはガマが使われるなど断熱性の高いことを紹介した。北海道大学（札幌）から19日に返還されたアイヌ遺骨の再埋葬では、アイヌ民族の墓標である「クワ」にハシドイが使われたことも紹介した。受講した飯居紹一さん（50）は「身近な植物を生活に取り入れている文化が大事と感じた」と話していた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年8月31日

酪農学園大の学生実習

砂浜で砂丘列の出来方を説明する
持田学芸員（右）。左は佐藤教授



自然探究浦幌で5年 産業との関わりも実感

【浦幌】酪農学園大学（江別市）環境共生学類野生動物学コースの3年生による野生動物保全技術実習が2〜5の4日間、町内の森林や河川、海岸で行われた。学生たちが浦幌の動植物を通して、人と豊かな自然の関わりを学んだ。実習は今年5年目の節目を迎え、浦幌の多様な生態系の他、1次産業との関わりも研究価値を高めている。

実習はヒクマの生態調査を中心に、自然と人の営みを理解し、野生動物の保全を考えるのが目的。今回は野生動物生態学研究室の佐藤喜和教授と学生ら16人が訪れた。宿泊や食事の準備などは、浦幌ヒクマ調査会（佐藤芳雄会長）が協力した。町常室地区から留真地区の道有林では、コンパスと地形図を用いた山歩きを行い、ヒクマの捕獲おりや体毛回収トラップなどを見学した。

野生鳥獣管理については、北海道有害鳥獣対策コンサルタント（浦幌町）の原啓之さんから、民間による鳥獣害対策などについて説明を受け、エゾシカのかくりわなやキツネの捕獲かな設置を体験した。十勝太道跡展望台では眼下に広がる十勝平野を望み、町立博物館の持田誠学芸員が豊北・トイトツキの原生花園が三角州であることを説明。豊北海岸では砂浜から内陸にかけての植生の変化などを解説した。浦幌川支流のオベトン川では、浦幌の自然を楽しむ会（堀川真一会長）の会員の指導で、ニホンザリガニの生育調査、特定外来生物に指定されているウチダザリガニの駆除を体験。雌雄を判別し全長と体重を測定した後、塩ゆでにして試食した。

旭川市出身の赤塚明斗さん（20）は「自然の中を歩いて、冒険しているみたいで楽しかった。三角州の成り立ちが面白かった」と話していた。

浦幌を拠点に約20年ヒクマの研究をしてきた佐藤教授は「海岸草原、湿原、川、森と多様な自然に触れながら生態系のつながりや、その保全の重要性を学ぶことができる。学生たちは農業、林業、漁業を通じた地域の人たちの生活と生態系との関わりを地域の視点で実感

でき、地域にとつての野生動物の保全と管理の意味を考える機会にもなっている」と話し、今後も浦幌を拠点に研究していく考えだ。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年9月12日

ウチダザリガニ
児童が捕獲体験
浦幌小2年生
【浦幌】浦幌小学校（横山利幸校長、児童172人）の2年生36人が8日、町内



ウチダザリガニを
捕獲する児童たち

生活科の授業として行われた。浦幌の自然を楽しむ会（堀川真一会長）の会員と町立博物館の持田誠学芸員が、ウチダザリガニの説明やたも網の使い方などを指導した。

現地では、たも網を使っ

てザリガニ捕りに挑戦。ザリガニが網に入ると、児童たちは「いた」「大きい」などと歓声を上げていた。イワナやドジョウ、ヤゴなども観察し放流した。山本結千花さん（8）は「ウチダザリガニは大きくて格好良かった」と話していた。捕獲した47匹は同会が全長と体重を計測した後、駆除した。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年9月16日

寒冷地では珍しいチョウ

【浦幌】北海道などの寒冷地ではまれにしか見られないチョウ「アサギマダラ」が、町東山で観察された。浦幌でアサギマダラが確認されたのは、1980年6月1日の2匹以来37年ぶり。

9日行われた「ラジオ体操とウォーキング会」に参加した増子礼子さんが発見。参加者の北村敦子さんがスマホで撮影した。

増子さんは昨年12月の町立博物館の「ちようちよ展」で標本を見ていたので、ふわふわと飛来し、ヨツバヒヨドリ



浦幌で確認されたアサギマダラ（北村さん提供）

アサギマダラ 37年ぶり浦幌で

地域の環境変化や生態の記録に

アサギマダラは国の水色半透明の部分や斑点の浅葱（あさぎ）色が名前の由来。日本で幼虫が越冬できるのは関東あたりが北限で、北海道で見られるのはまれとされている。

帯広市記念館の伊藤彩子学芸員は「帯広は十勝管内で毎年のように確認されている。以前ほど珍しくはないが、こうした確認情報はその地域の環境変化やアサギマダラの生態を探る上で重要な記録となる」と話していた。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年9月26日



旧吉野小学校に運び込まれた収蔵資料

保存状態の改善期待

【浦幌】2005年3月に閉校した旧吉野小学校校舎が、町立博物館の収蔵庫として活用されることになり、郷土資料の移転作業が行われている。今までは旧郷土博物館、旧住吉教員住宅、旧防災倉庫の3カ所に分散して収蔵されていたが、建物の老朽化や狭小なこと、管理面の煩雑さから移転・集約することになった。これにより保存状態の改善や収蔵品の出し入れが容易になり、資料の有効活用が進む。

旧吉野小、収蔵庫に

浦幌博物館から資料移転

移転作業は、7月から同館職員や町民ボランティアの手で少しずつ進められていた。

9月26、27日には、大型農機具やヒケマなどの動物

収蔵庫となるのは教室3部屋など約170平方メートル。電気、水道が使えるため資料整理や研究なども便利になる。

開校後は吉野コミュニティセンターとして利用されていたが、09年の校区の住民による「吉野地域交流大運動会」を最後に閉鎖。その後吉野地区軽スポーツセンターとして体育館が利用され、17年4月からは浦幌地区の災害時の避難場所に指定されている。

資料は多くが町民から寄贈されたもので、大型農機具や生活用品など多種多様。旧吉野小学校舎は、平屋約1700平方メートル。

資料は多くが町民から寄贈されたもので、大型農機具や生活用品など多種多様。旧吉野小学校舎は、平屋約1700平方メートル。

の製、丸木舟などが運ばれた。現在の博物館の収蔵庫からも、一部の資料が移された。

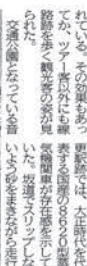
今後は移転した資料の整理を進め、展示点数も改めて把握する。

同館の持田誠学芸員は「小鳥やネズミによる汚損がなくなる。除雪も入るので活用が広がる」と話している。

9月27日には夜学講座「収蔵庫の移転」が同館展示室で開かれ、持田学芸員が移転作業を紹介し、収蔵庫の重要性などについても解説した。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年10月3日



廃線30年バスツアーに参加

土幌線・広尾線
今昔写真で紹介

□文化財に
遺
30年

の全線が廃線。87年に廃線となった。今回のバスツアー（運行・十勝バス）には管内外26人が参加し、帯広を起点に釧路、十勝、十勝三股、幌加、糠平駅跡などを巡った。鉄道省が専門の持田誠、浦町町立博物館学芸員が解説した。

土曜線は希広・十勝三股
(上十機)間の78・3km²・
木材輸送を目的に計画され、1925年に希広・土
曜間、39年に十勝三股まで

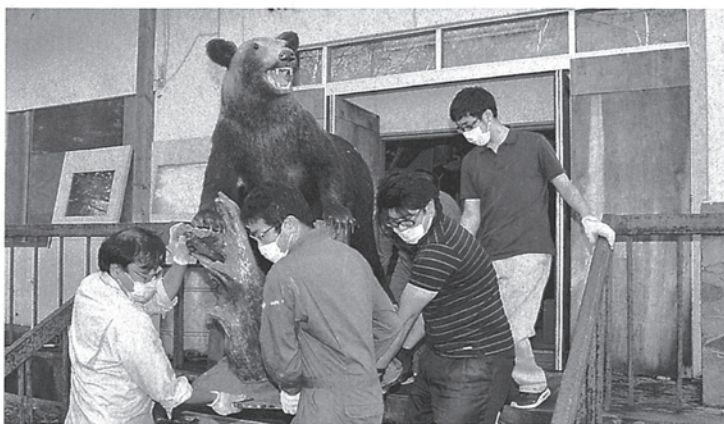
部
 とかち



「十勝毎日新聞」 2017年10月4日

浦幌町立博物館 3カ所から運搬

非



博物館は非公開資料のうち、大型農機具や剥製など数千点の郷土資料を旧郷土博物館、旧住吉教員住宅、町防災倉庫の3カ所で保管。中には留真にあった旧中浦帆転通所の建物の部材やアイヌ民族の丸木舟など

歴史的に貴重な資料もある。

資料の移動は7月から同館の持田誠学芸員やボランティアらが少しずつ行っている。9月下旬にはヒゲマヤタンチョウの剥製、大型農機具、2013年に廃止された無線灯台「十勝太郎ランC局」の無線機などのも「大物」を移動した。

移転作業は10月末ごろまで続く。今後は収蔵資料の

歴史的に貴重な資料もある。

「北海道新聞」 2017年10月19日

デジタル化なども進める予定で、持田学芸員は「これまでの収蔵庫では開催が難しかった博物館講座や収蔵物見学会を開くなどし、未公開資料の公開を促進したい」と話している。

(米林千晴)

デジタル化なども進める予定で、持田学芸員は「これ

「図書館立ち上げ」
間宮の業績を紹介

町立博物館
夜学講座

【浦幌】町立博物館の夜学講座「間宮不二雄の図書館人生」が12日、同館展示室と特別展示ホールで開かれた。

町内外から8人が参加。同館の持田誠学芸員が講師を務め、同館の企画展「浦

幌図書館の70年」の展示品の前などで、町の図書館の前身となる公民館図書館の立ち上げや「浦幌村五十年沿革史」を執筆した間宮不二雄の業績を紹介した。

持田学芸員は「浦幌在住期間は51年までのわずか6年だが、村社会



間宮の業績を解説する持田学芸員

め、47年11月から48年5月の間に約220冊の蔵書を構築。図書目録を整備して、村民に無料で貸し出す公民館図書室を開設した」と説明した。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2017年10月23日

豊北海岸で調査
34種の植物確認

今年最後

【浦幌・豊頃】今年最後の豊北植物調査会が4日、浦幌、豊頃両町に広がる豊北海岸で開かれた。写真。町内外から4人が参加し、



34種類の植物を確認。多くは結果している中でノコギリソウやハマニガナ、メマツヨイグサ(月見草)など9種類が咲いていた。

同地域の一部は「大津海岸トイトツキ浜野生植物群落」として道の天然記念物に指定されている。2015年から3年続けて調査し、町民ら延べ122人が参加した。

ミヤコグサ、クルマバナ、コキツネノボたんなどの在来種のほか、キレハイヌガラシなどの外来種も含めて23種が新たに確認された。16年に外来種の「オニハマダイコン」が確認された地点は、「メマツヨイグサ」の群落になっていた。昨年8月の連続台風による流木の撤去作業で、地表がかく乱された影響と考えられている。

主催した浦幌町立博物館の持田誠学芸員は「目立たない植物も見えられ、参加者の観察眼が確実に向上している」と話していた。来年も同様の調査を予定している。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2017年11月14日

AETが講師 本場のパイ作り

中央公民館講座

【浦幌】料理教室「アメリカのパンプキンパイをつくろう」が7日、町中央公民館で開かれた。

中央公民館講座の一環。町の英語指導助手(AET)コレット・イングリッシュさんが講師を務めた。

参加した11人はパイの皮(クラスト)とパイの中身(フィリング)、ホイップクリームを分担して作った。参加者たちは、英文のレシピを見ながらコレットさんと片言の英語でやりとり。計量カップとスプーンの単位の違いに戸惑いながらもメモする人も。完成までは2時間冷やす必要があり、コレットさん

パンプキンパイに挑戦する参加者たちとコレットさん(中央)



があらかじめ作っておいたパイにホイップクリームを載せて試食。参加者たちは「おいしい」「思ったより手軽に作れそう」などと話していた。うすら豆とベーコン、タマネギ、チリパウダーなどのスープも作った。(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2017年11月16日

旧上厚内駅備品を譲渡

浦幌 JR、町立博物館に



JR浦幌駅でJR北海道から浦幌町立博物館に引き渡された旧上厚内駅の備品

【浦幌】JR北海道釧路支社は24日、今春廃止した旧上厚内駅の駅名板や切符回収箱などの備品21点を浦幌町立博物館に無償譲渡し

も活用する考えだ。町教委が旧上厚内駅廃止の際、JR側に25点の譲渡を要請。保安上問題があるものを除く備品や図面の写しの譲渡が実現した。駅舎正面に掲げられていた幅1・1メートルのロー製駅名板や駅舎掲示の時刻表、「安全第一」の表示など多岐にわたる。「1903年(明治36年)」の製造年とドイツのメーカー名が表記された渡線橋の銘板など、貴重なものもある。

同日午前、JR浦幌駅で引き渡された。また、来年5月ごろに木造の旧駅舎が取り壊されるのに合わせ、ベンチと改札口の柵も譲渡される予定という。一方で、乗り場案内表示の一部などが盗難のため、譲渡を受けられなかったという。

同博物館の持田誠学芸員は「無事に上厚内駅の資料を収蔵できてホッとしている。企画展では駅の模様を再現するような展示を考えたい」と話している。

(米林千晴)

「北海道新聞」 2017年11月25日

上厚内駅備品 浦幌博物館に

【浦幌】3月3日で廃止された旧上厚内駅にあった備品が24日、JR北海道から町立博物館に譲渡され



譲渡された資料を前にする持田学芸員（左）と長澤弘幸浦幌駅長（右）

た。駅舎図面（複製）やホロー製の駅名標、乗車券貯蔵箱、同駅廃止のお知らせ掲示など18種類22点。中には1903年にドイツで造られ、77年ごろに架けられた線橋の銘板など貴重なものもある。

同駅は10年に上厚内信号

所として設置され、26年に駅に昇格した。現存の駅舎は53年に建てられた。国鉄時代から現存する木造駅舎で珍しいことから、道内外から訪れた人も多く、駅舎内には旅の思い出をつづったノートも置かれていた。

同駅のご跨線橋は7月に、ホームは10月に撤去された。駅舎も来春ごろに解体予定で、解体時には駅舎内に残されている改札口ラッチ（柵）、ベンチが引き渡されることになっている。

同館では来夏に上厚内駅をテーマとした企画展を開催する予定。

同館の持田誠学芸員は「木造駅舎がなくなるのは残念だが、関係資料を地域に残せたことはほっとしている。北海道の鉄道は今、大きな転換期に入っており、今後博物館として鉄道資料を計画的に収集し記録する方法を模索していきたい」と話している。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年11月27日

厚内の豊かな生態学ぶ 浦幌でゼミ

厚内沖の生物の多様性について語る千嶋さん



【浦幌】うらほろスタイルゼミナール「海鳥・海獣たちの交差点・厚内沖」その多様な世界」が25日、町教育文化センターで開かれた。厚内沖で観察された珍しい鳥類や海獣の姿から、生態系の豊かさを学んだ。

町立博物館の主催。道内外から24人が参加した。道東鳥類研究所（池田）の千嶋淳代表が講師を務め、5月に初めて確認したアホウドリの成鳥、2014年に豊北海岸に漂着したエトピリカ、海獣のネズミイルカ、ザトウクジラなどの生態を解説した。千嶋さんは「厚内沖は南北の海の動物がすれ違う交差点。27種の鳥類が環境省などのレッドリストに指定されている。この海域の重要性和ともに、多くの海鳥が絶滅の危機にさらされていることを示している」と語った。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2017年11月30日

アイヌ語で 自然を学習

伝承を学ぶ講座

【浦幌】身近な生物や植物のアイヌ語名、伝承を学ぶ講座が11月23日、うらほろ森林公園周辺と町立博物館で開かれた。

同博物館で開かれている帯広百年記念館の移動展「アイヌ語で自然かんさつ展」の関連講座。町内外から8人が参加し、同館の池田亨嘉学芸員が講師を務めた。野外では森林公園から平和塔（町東山）まで徒歩で移動し、丸木舟に利用したヤチタモやハルニレ、病よけに使ったヨモギ、クマイチゴなどを観察した。博物館ロビーでは、パネル展示されているシマフクロウやオオウバユリなどについて、アイヌ語名の由来などを解説。館内に常設展示されているイトウなどの魚類や鳥類も説明した。参加した男性は「アイヌの文化が自然を大切に、尊重していたことが分かった」と話していた。

移動展は12月17日まで。動植物や生活用具、アイヌ文化などに関するパネルを展示している。午前10時～午後5時。入場無料。
（田子紳一通信員）



池田学芸員（中央）から植物について説明を受ける参加者

「十勝毎日新聞」 2017年12月2日

浦幌アイヌ副葬品公開

30日に博物館 太刀、すずりなど

【浦幌】北大からアイヌ遺骨と一緒に浦幌アイヌ協会に返還された副葬品が町立博物館に寄贈され、30日に特別展示をすることが決まった。寄贈されたのは太刀（エムシ）など69点。博物館では今後、常設展示も計画しており、アイヌ遺骨が盗掘された負の歴史として後世に伝える。

北大から返還 常設展示も計画

同協会は浦幌町愛牛地区のアイヌ墓地から76人以上の遺骨が、北海道帝国大学（当時）の研究者らにより1934年から35年にかけて持ち去られ、2014年に返還請求訴訟を起した。今年3月22日に札幌地裁で和解が成立し、8月19日に北大から同協会に返還され、遺骨は町営墓地に埋葬された。



遺骨と一緒に返還された副葬品は同協会の意向で10月28日、博物館に引き渡された。同協会の差間正樹会長は「副葬品を多くの人に覚えてもらい、北大に持つていかれたということを知ってほしい」と話した。

てもらいたい。（展示によって）遺骨や副葬品に関する北大からの情報開示が進めば」と願う。

副葬品には包丁として使われていたと推測される小刀（マギリ）の他、くぎ、通貨「寛永通宝」などもあり、当時は貴重な金属材料としていたとみられる。習字でつかう「すずり」や、おわん（イタンキ）のふたもあった。最も大きいものは太刀で60センチを超える。

展示は原形をとどめている20～30点を予定。アイヌの呼び方が分かるものは表記する。博物館の持田誠学芸員は「アイヌの副葬儀礼を知る重要な手掛かりとなる。盗掘され、アイヌの運動によって返還された一連の出来事を後世に伝える展示にしたい」と話し、30日

展示予定の副葬品を確かめる持田学芸員

「十勝毎日新聞」 2017年12月17日

の特別展の他、今後は常設展示をする考え。

30日の展示時間は午前10時～午後5時。同時に、3月3日に廃止されたJR上厚内駅の備品の展示も予定している。問い合わせは博物館（015・576・2009）へ。（関坂典生）

シンポジウム

十勝海岸湖沼 「貴重な環境」 生物に理解深める

シンポジウム「十勝海岸の自然を考える」湿地・湖沼・海岸線の現状と将来」(十勝自然保護協会主催)が17日、帯広市内のとかちプラザで開かれた。約70人が参加し、十勝沿岸の湖沼・湿地に生息する水生動物

や野鳥、植物などに理解を深めた。

第1部では各分野からの報告があった。初めに東京



園田氏(左奥)らを
迎えたシンポジウム

農業大学の園田武氏が「十勝海岸湖沼群の水生動物の生態」と題し、「人為的影響が少ない十勝海岸の湖沼群は、日本最大級のヤマトシジミなどが生息する貴重な自然環境である」と説明。道東鳥類研究所の千嶋淳氏は「重要野鳥生息地(IBA)としての十勝海岸」と題し、国内の約7割に当たる55種のシギ・チドリ類が確認されていることを報告した。

第2部は浦幌町立博物館の持田誠

「十勝毎日新聞」 2017年12月22日

学芸員が司会を務め、園田氏、千嶋氏、植物研究家の若原正博氏によるパネルディスカッションが行われた。(黒田悟通信員)

化石の勉強会 博物館で9日

【浦幌】町立博物館主催の「化石の勉強会」が9日午後1時半〜同4時、上浦幌公民館で開かれる。

上浦幌地区住民の要望を受けて初めて企画した。町内で化石採取をしている井上清和さん(帯広市)と木村方一さん(札幌市)が講師を務め、化石研究の最近の動向を講義する。

化石や鑑定希望の物がある場合は持参する。化石談議をする時間もある。

問い合わせは博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2018年1月5日

浦幌新聞



米林千晴記者

旧上厚内駅に行ってきた。趣のある本道駅舎は健在で、この写真を撮っていると赤い普通列車がそばに停車。現役駅ながらの雰囲気になりました。来春に解体が始まるそうです。

旧上厚内駅に行ってきた

北大から返還 アイヌ民族の副葬品

30日に特別公開 来夏以降に常設計画

【浦幌】町立博物館はこのほど、北大から浦幌アイヌ協会（差間正樹会長）へ8月に返還されたアイヌ民族の副葬品69点の寄贈を受けた。現在は空調の効いた館内収蔵庫で保管しており、今年の最終開館日の30日には1日だけの特別公開を行う。また、来夏以降に常設展示も計画。現在、同館が公開へ向け整理作業中の貴重な資料を紹介する。



⑤寄贈された副葬品を整理する持田孝吉氏（奥）。刀類やはさみ類はすべてホロボロだったが、比較的彫形をとめた刃渡り50センチの太刀（エムシ）も。ごく普通のクシも多く「金属材料として珍重されたのではない」という⑥太刀（エムシ）や、刀のつば（セツ）。太刀のさや（デブシベ、右）は腐食してホロボロになっていた



副葬品は北大医学部の研究者が1934～35年（昭和9～10年）に町内の墓をあばいて持ち去ったもので、浦幌アイヌ協会が2014年に返還などを求める訴訟を起こし、今年3月に和解が成立。8月に遺骨63体とともに浦幌側に返還され、遺骨は町営墓園に再埋葬された。



副葬品は太刀（エムシ）や小刀（マキリ）、おわん（イタンキ）のふたなど。研究者が持ち去った副葬品が地元で返還されての一般公開は異例といい、差間会長は「北大が研究の名の下に行った事実を多くの人に知ってほしい。さらに北大の研究資料の開示も求めている」と語る。

同館の持田誠学芸員は、アイヌ民族の副葬儀礼を知る上で貴重な資料との見方を示した上で、「アイヌ民族の遺骨が盗掘されたという負の歴史と、後に返還された一連の運動を後世に伝えたい」と話している。

旧上厚内駅備品も

寛永通宝（左）と一銭銅貨。銅貨は明治期のものでみられ、比較的新しい時代に葬られた人の副葬品と分かる。アイヌ民族には貨幣経済がなかったとされており、装飾品として用いられたようだ

【浦幌】町立博物館が30日に開く「1日限りの特別展」は午前10時から午後5時まで。8月に浦幌側に返還されたアイヌ民族の副葬品の一部のほか、JR北海道が3月に廃止した旧上厚内駅の備品を展示する。

次回は1月30日に本別新聞の予定です

「北海道新聞」 2017年12月26日

アイヌ副葬品初公開

浦幌町立博物館 旧上厚内駅備品も

【浦幌】町立博物館の企画展「1日限りの特別展」が昨年12月30日、同館展示ホールで開かれた。町内外から大勢の人が訪れ、初めて展示されたアイヌの副葬品や、廃駅となったJR上厚内駅の備品に見入っていた。



アイヌの副葬品を見る来館者

アイヌの副葬品は昨年8月19日に北大から浦幌アイヌ協会（差間正樹会長）にアイヌ遺骨とともに返還され、同協会から同館に寄贈されたもの。長さ38〜60センチの太刀（エムシ）4本、副葬品としては珍しい習字で使う「すり」、首飾り（タマサイ）に用いられた「寛永通宝」や「銭銅貨」など69点。浦幌で遺骨を再埋葬した時の写真12点も展示した。

「十勝毎日新聞」 2018年1月5日

を伝える写真5点が展示された。

冬休みの自由研究でアイヌの生活をテーマに調べている幕別町白人小学校4年の中山純一郎君（10）は「収穫物を神にささげて、必要以上に収穫しないことは大切」などと興味深そうに話していた。

展示解説した同館の持田誠学芸員は「アイヌ遺骨の盗掘から返還までを後世に伝えたい」とし、今後は常設展示を考えている。

（田子紳一通信員）

アイヌ文様
切り絵に挑戦
冬休みでも博物館

【浦幌】町立博物館の冬休みでも博物館「アイヌ文化であそぼう！」が昨年12月27日、同館展示室で開かれた。

町内の児童16人が参加。帯広アイヌ協会の荒田裕樹



荒田さん（左）の指導で切り絵に挑戦する児童たち

副会長と帯広百年記念館の長谷仁美学芸員が講師を務めた。

児童たちは、アイヌ文様モレウ（渦巻き）の切り絵を体験。はさみで切り取った型紙を正方形の四つ折りにした紙に鉛筆でかたどり、線に沿って切るときれいな文様が出来上がった。体験

（田子紳一通信員）

用に作られたアイヌ民族の儀式用衣装の試着もした。

三角形の八つ折りに挑戦した浦幌小3年の五十嵐絆那（はんなさん）（9）は「きれいできて楽しい」と、民族衣装を試着した同小4年の五日市颯（はやて）君（10）は「いい気分だった」と笑顔を見せた。児童からは「アイヌの人は何人いるの」「アイヌの本はあるの」などの質問も。荒田さんは「体験を通してアイヌ文化に関心をもってもらえれば」と話していた。

「十勝毎日新聞」 2018年1月7日

「化石の町」浦幌知って

町立博物館が相次ぎ催し

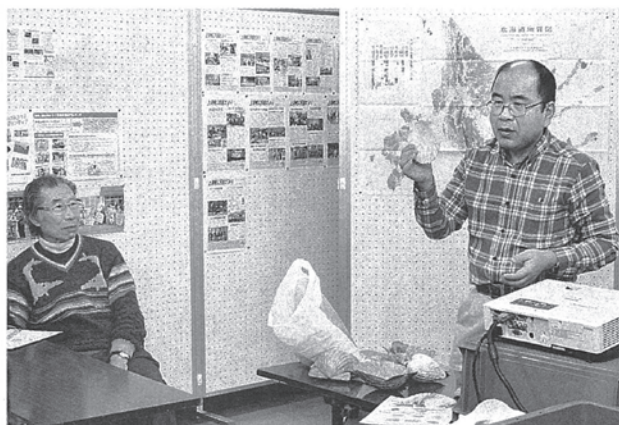
【浦幌】世界最古の巻き貝化石などが発掘されている町内で化石の価値を伝えようと、町立博物館が、地域住民や子どもたちを対象とした催しを相次いで開いた。大人を対象とした「化石の勉強会」では有識者が町内の地質などを解説し専門知識を学び、「ミニ発掘体験」では子どもたちに化石採取の喜びを伝えた。化石の名所、浦幌を改めて周知した。

貝化石を学ぶ

○「化石の勉強会」は9日、上浦幌公民館で開かれた。化石発掘が相次ぐ上浦幌地区の町民から勉強会の要望を受けて初めて企画した。

十勝や釧路管内の化石愛好家ら27人が参加。浦幌の化石発掘に長年携わり、発掘した化石を学者らに伝えてきた帯広市在住の会社員、井上清和さんが貝化石について解説した。

鮮新世（250万～533万年前）の地層がある町内で採取される「タカハシホタテ」について井上さんは鮮新世を代表する化石。地質図を見てどんな化石が出るのか調べると分かったり、すいなど助言していた。北海道教育大名教授で帯広柏葉高校で地学教諭をしたことがある木村方一さん（札幌市在住）は、上浦幌で見つけた肋骨（ろつ



タカハシホタテについて解説する井上さん（右）と、動物化石について説明した木村さん（左）

こつ）のような化石について「タカハシホタテと同じ鮮新世から出たものなので、タキカワカイギウウの仲間ではないか」と見て研究を進めていることを紹介した。

（関坂典生）

発掘体験に歓声

○冬休み子ども博物館「ミニ発掘体験」は10日、同館学芸員室で開かれた。

午前と午後の2回行われ、町内の子もたち35人が参加。足寄動物化石博物館の加。足寄動物化石博物館の

ミニ発掘体験をする子どもたちと指導した新村学芸員（左）



発掘体験でローズクォーツ（紅水晶）を掘り当てた高田一颯（いぶき）君（8）は「きれいでうれしい」と笑顔だった。（田子紳一通信）

「十勝毎日新聞」 2018年1月12日

浦幌のヒグマで発表

酪農学園大と帯広畜大生

【浦幌】町内をベースに白糠丘陵の道有林などでヒグマの調査研究をしている、大学生・大学院生の成果発表会「卒業論文大発表会2018 in 浦幌・浦幌のヒグマ」に調べる「たー」（町立博物館主催）が11日、町教育文化センターで開かれた。

町内外から約70人が来場。酪農学園大学野生動物生態学研究室の佐藤喜和教授の基調講演に続いて、酪農学園大学11人、帯広畜産大学1人の計12人が発表した。

佐藤教授は「駆除しても

基調講演した佐藤教授



駆除してもヒグマは里に下りてくる——人の目線とクマの目線からみた浦幌のクマ問題の20年——と題して講演。「浦幌での駆除数が増えているが、出沒や農作物の被害が減らないのは、白糠北部の分布中心部からクマが移動して来る」とし、クマ出沒の原因をあらかじめ取り除くこと（未然防除）も必要などと話した。

酪農学園大学院修士2年の栗木隼大（はやた）さんは「カメラ・トラップを用いたヒグマ個体群の社会構造推定——浦幌地域と札幌地域の比較から——」と題して発表。浦幌地域では分布中心部と周辺部ともに多数の雄の成獣が生息しているが、札幌地域では周辺部にほとんど生息していないことから、分布構造の違いは

「十勝毎日新聞」 2018年2月16日

農作物へのアクセスの可能性や人間の活動量などが影響していると考察した。

同大4年の寺山凜さんの「安定同位体比解析を用いたヒグマのビート利用検出

方法の検討」、同大4年の岸上夏樹さんの「野生ヒグマの被毛コルチゾール測定法の開発」など新しい手法による研究報告もあった。

会場からは「雄の背中から分泌されるテストステロン（雄の繁殖関連ホルモン）を」との要望もあった。

（円子紳一通信員）

全国の愛好家と 孔版画年賀状展

来月7日まで

【浦幌】うらほろ孔版画サークル（小山妙子会長、会員11人）主催の「2018全国孔版画年賀状展」（町立博物館共催）が、同館特別展示ホールで開かれている。2月7日まで。

十勝孔版画の会の千葉定是代表（幕別町在住）が、全国の孔版画愛好グループに呼び掛けて毎年実施しており13回目。町内の会員の他、十勝管内や道内、福岡県や愛知県など全国12ヶ



1プ93人から寄せられた129点の年賀状を展示している。今年全国から千葉さんに届いた100点と19

94年、2006年の戌（いぬ）年に届いた年賀状93点も並んでいる。

作品は成年にちなんだものが多く、くりくりと優しい目の子犬など、日本で生まれた孔版画の魅力を伝えている。小山会長は「今年は十二支で人に一番身近な動物『戌』の年。いろいろな表情の作品を見てほしい」と来場を呼び掛けている。時間は午前10時～午後5時（最終日は正午まで）。入場無料。（円子紳一通信員）

サークルのメンバーと千葉代表（前列中央）。前列左が小山会長

「十勝毎日新聞」 2018年1月27日

石臼をひく児童と指導した佐藤さん(右)



昔のくらし体験

浦幌小3年

【浦幌】浦幌小学校(横山利幸校長)の3年生24人が15日、町立博物館で足踏みミシンと、石臼を体験し「むかしのくらし」を学んだ。社会の授業の一環で、足踏みミシンはいずれも町内在住の山本ひとみさん(61)、石臼は佐藤芳雄さ

ん(65)がボランティアで指導した。ミシンは、町民が1954年に購入し、昨年、同館に寄贈されたたブラザー社製。山本さんは、右手では

ずみ車をまわし、タイミング良くペダルを踏むこつを伝えた。初めてミシンに触れた的場紘香(ひろか)さん(8)は「ちよつと難しかった」と話していた。石臼体験では、町内産の

大豆を火鉢で煎り、石臼でひいて粉にした。児童たちは力を込めて石臼を回し、こぼれ出る粉を口にして「きな粉だ」「おいしい」と驚いていた。

児童たちは、同館常設展示室で持田誠学芸員から昔の生活などの説明を受け、館内を巡って各自が関心のあるテーマの道員を写真撮影していた。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2018年2月22日

「FACE展」

学芸員が解説

うらスタゼミ

【浦幌】うらほろスタイルゼミナール『FACE展』



特別展の解説をする
野田学芸員

「わたしとあなた」展ができるまで」が17日、町立博物館学芸員室で開かれた。町民ら7人が参加した。道立帯広美術館の野田佳奈子学芸員が講師として特別展の企画立案からオープンまでの手順や見どころなどを解説。見どころとしてコングで儀式での舞踏に登場するアフリカン・マスクを挙げ「ソング族の仮面『キフェベ』の顔全体に入ったしま模様はシマウマを模し

ている」などと語った。また、イチオシ作品として、頭をすっぽりとフードで覆った幼い子どものプロフィール像(佐藤忠良作)、チラシにも採用した遠くを見つめながら寄り添う母子像「雪の上の影」(舟越桂作)などを紹介した。参加者たちは「母子像は1つの体のよう」「キフェベは恐ろしくも見える」などと話していた。

(田子紳一通信員)

「十勝毎日新聞」 2018年2月23日



野外観察で ワシに驚き

浦幌小エコ授業

【浦幌】浦幌小学校（横山利幸校長、児童170人）で13日、日立建機エコスクール出前授業が行われた。理科の授業「生き物と環境」の一環で、6年生26人が参加。日立建機環境本部

の大平修司環境推進室部長が、同社の環境への取り組みなどを紹介した。日本野鳥の会十勝支部の室瀬秋宏支部長がタンチョウ、オシロワシ、オオワシ、マガン、ヒシクイの5種の天然記念物と、絶滅危惧種のハクガン、シジュウカラガンが同じ場所で観察できるのは浦幌だけと解説した。また、町立博物館の持田誠学芸員が海岸に生育している高山植物のコケモロや、浦幌で発見されたウラ

ホロイチゲなどを紹介した。

野外観察では、浦幌野鳥倶楽部の武藤満雄代表がバスで走行中に現れる野鳥を紹介。例年なら既に飛来しているガン類の姿はなかったが、タンチョウ、ノスリなどを観察した。町昆布刈石の岩壁では、児童たちがオシロワシとカラスのバトルを間近に目撃し、「大きい」「また飛んだ」などと歓声を上げていた。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2018年3月16日

カモに関する展示 25日に講演会も 博物館で巡回展

【浦幌】釧路市立博物館主催の巡回展「カモにも事情がありまして〜餌から恋の三角関係まで〜」が、4月1日まで町立博物館特別展示ホールで開かれている。釧路湿原国立公園指定30



周年を記念する企画の一環。カモの食性や強い遺伝子をめぐる恋の三角関係、オシロワシの子育ての様子などをパネル18枚で紹介している写真。町立博物館所蔵のマガモ

やコガマ、ホオジロガモなどの剥製も展示されている。同館では「カモの面白い習性に触れることができる。ぜひ足を運んで」と呼び掛けている。

巡回展の関連講演会「知ると楽しい！カモの魅力」が、25日午後2時半から町立博物館で開かれる。講師は釧路市立博物館の貞国利夫学芸員。入場無料。

巡回展は午前10時〜午後5時。休館日は毎週月曜日と22日。入場無料。問い合わせは町立博物館（015・576・2000）へ。（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2018年3月17日



家族で防災学ぶ
炊き出しを体験
和らぎ塾

主催する「家族で防災について学ぼう」と題した防災教室が3月24日、中央公民館で開かれた。

幼稚園、保育園の園児から中学生まで約30人と、父母、スタッフ、浦幌神社や

すらぎ会（岡本幸雄会長）、町議会議員など約60人が参加した。

共催した町立博物館の持田誠学芸員が、「地震と津波について学ぼう」を演題に講義した。スライドを見ながら

炊き出しの豚汁作りをする参加者

カレンダー
すぎうら
24-2323

がら過去の地震の被害の様子や、地震の仕組み、津波被害の様子などを学んだ。参加者は講義の前に、みんなで準備した炊き出し体験の豚汁と、備蓄用のまぜご飯などを試食した。二瓶会長は、「災害はいつ発生するか分からないので、大震災の被害を忘れないに、（防災教室を）続けていきたい」と話していた。

（広橋基嗣通信員）

「十勝毎日新聞」 2018年4月8日

カモの食べ物や
求愛行動学ぶ

【浦幌】カモの生態を学ぶ講座「知ると楽しいーカモの魅力」が3月25日、町教育文化センター視聴覚室で開かれた。

町立博物館で開かれた釧路市立博物館の巡回展「カモにも事情があります」

カモの魅力を解説する
釧路市立博物館の貞國
学芸員



餌から恋の三角関係までく」の関連講座。町内外から23人が参加し、釧路市立博物館の貞國利夫学芸員が講師を務めた。

貞國学芸員は、カモの食べ物と体の特徴、カモの繁殖事情などを解説。特徴的な求愛行動である鳴き声、尾を立てる、首をそり返す姿を動画で紹介するなどした。

また、カモは結婚相手を毎年変え、繁殖時期にはつがい外交尾もする。オスは

のぼり
24-2323
すぎうら

メスが卵を産み始めるまでは付きっきりだが、卵を抱き始めると任せきりにすると説明。「北海道では四季を通してカモが観察できるので楽しんでほしい」と話していた。

（田子紳一通信員）

「十勝毎日新聞」 2018年4月11日

十勝の鉄道史

東部編

旧国鉄駅舎の面影伝える

2017年3月4日のJR北海道のダイヤ改正に伴い、利用の極端に少ない駅として、浦幌町の上厚内駅が廃止されました。ダイヤ改正前日の3月3日、駅の役割を終えたのです。

上厚内駅は1910（明治43）年、列車が行き違う信号所として開設。26（大正15）年に一般駅に昇格し、旅客と貨物を扱うようになりまし。上厚内地区は厚内川上流の山に囲まれた峠に位置します。当初、国道38号は上厚内を通過しておらず、鉄道が唯一の交通路でした。

地区には林業や農業に従事する人たちが暮らしていました。帯広農業高校の実習施設が置かれた他、石炭の採掘が模索されたことでもあります。「山保線」と呼ばれた峠の線路を守る保線区員の官舎もありました。

釧路の港から「ガンガン部隊」

① 上厚内の木造駅舎



廃止当日の上厚内駅と始発列車

と呼ばれた行商が汽車に乗って魚もたちには貨物列車への便乗が許を売りに来ては、貨物ホームで露可されていました。地区の人たち店を開いたそうです。旅客列車のにとつて上厚内駅は、重要な生活本数が限られるので、通学の子ど拠点だったのです。

上厚内駅は現存する数少ない木造駅舎として知られていました。53（昭和28）年に建築された端整な造りの「駅本屋」は、事務室と待合室で構成。出札窓口の他に手小荷物（チッキ）の窓口も残っていました。鉄製の改札ラッチや木製の窓枠など、昭和30年代の標準的な国鉄の駅の面影を今に伝えていました。

現在の上厚内駅は再び信号場となり、列車の行き違いに利用されています。昨秋、跨（こ）線橋とホームが撤去されましたが、閉鎖された木造駅舎と便所もまだ残っています。しかし、今年中に解体される見込みです。

峠を行き交う人々を眺めてきた木造駅舎とも、あと少しで本当のお別れです。

（浦幌町立博物館学芸員・持田誠）

十勝の鉄道史は1903（明治36）年、浦幌町から始まった。東十勝の鉄道史と今に残る鉄道遺産を紹介する。

（全5回、火曜日に掲載します）

「十勝毎日新聞」 2018年3月6日

十勝の鉄道史

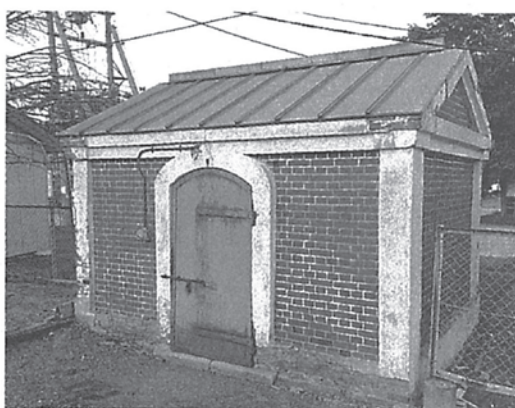
東部編

れんが造り「ランプ小屋」

1903(明治36)年12月25日。
釧路と旭川の両方向から十勝を指して敷設が進んでいた鉄道のうち、釧路側の路線が十勝に到達します。終点は浦幌。この日、十勝最初の鉄道駅として浦幌駅と厚内駅が開業しました。

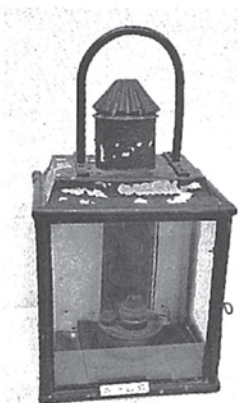
当時は蒸気機関車が客車と貨車をけん引しました。蒸気機関車は石炭で火をたき、水を沸騰させて蒸気をつくり、その力で走ります。石炭と共に大量の水が必要になるため、駅の近くに井戸が掘られました。ところが、いくら掘っても水が出ません。

やむを得ず近くの山から水路を掘り、浦幌駅まで水を通しました。この水路は現存しませんが、水路を埋めた痕跡を線路脇の地形と植



① 浦幌駅に現存する明治末期建造の危険品庫

② 仙美里駅で使用されていたホーム灯(本別町歴史民俗資料館所蔵)



② 浦幌駅の危険品庫

物の様子からうかがい知ることができます。

水と共に当時の鉄道に欠かせない燃料が灯油でした。当時、駅や

信号の照明は電力ではなく、灯油を燃やすオイルランプが主力でした。浦幌町の北隣、網走本線(の

ちの銀河線)が通じていた本別町

の歴史民俗資料館には、オイルランプのホーム灯と信号灯が保存されています。

燃料油を保管するため、駅にはれんが倉庫が造られました。ランプ燃料を保管するので「ランプ小屋」と呼ばれましたが、正しくは「危険品庫」と言います。燃料油は燃えやすいので危険品なのです。

浦幌駅には現在、道東では貴重なれんが造りの危険品庫が残っています。扉脇に貼られた「財産標」には明治44(1911)年と書かれています。JR北海道に残る図面を調べると明治40(1907)年と記載されています。記録に若干のずれはありますが、貴重な明治建築物であることに変わりはありません。道東の鉄道史を証する近代化遺産として、大切に伝えていきたいものです。

(浦幌町立博物館学芸員・持田誠)

十勝の鉄道史

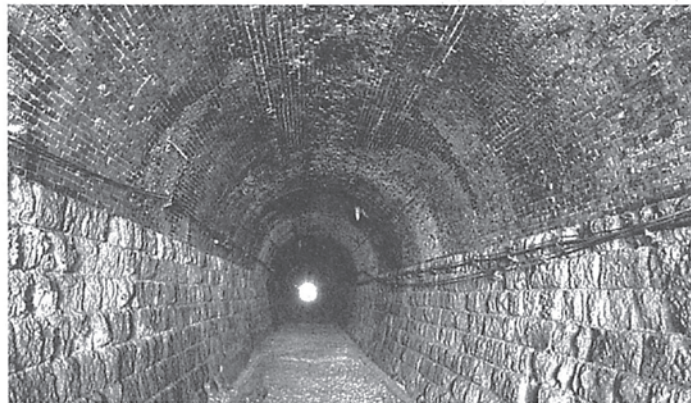
東部編

開業以来、使用する場所も

釧路国と十勝国の国境である白糠丘陵には「国境山地」の別名があります。標高こそ低いのですが、鉄道にとって難所でした。

釧路方面から南下してきた線路は、北海道鉄道敷設法に記された本来のルートによると、厚内から海岸沿いを南下して十勝川（現在の浦幌十勝川）河口の十勝太に達し、十勝川沿いに帯広方面を目指す計画でした。しかし、海岸ルートは工事上の問題で断念。厚内から厚内川をさかのぼって上厚内を経由し、「厚内隧道（トンネル）」で白糠丘陵を貫いて浦幌を経由する、現在のルートに落ち着きました。

工事の様子を記した「北海道鉄道部年報」によれば、「厚内隧道ハ：岩盤ハ當初軟質ナリシモ進行ニ從ヒ漸次硬質ニ變シタリ」と記しています。ここは白糠丘陵のな



① 廃道となった旧厚内隧道の内部（浦幌町立博物館所蔵）

② 列車の前方からみた乙部隧道の坑門

③ 明治に掘られた鉄道トンネル

かでも、地質年代が古くて固い場所にかつた時代、トンネル工事に従事した人々の苦労がしのべれます。もうかがえます。また機械の無

厚内隧道は、平成に入ってから新たに掘り直されたものです。一方、開業当初のトンネルがいまなお使われている場所が十勝地方では1カ所だけ残っています。直別と厚内の間にある全長1011mの「乙部隧道」です。1902（明治35）年の6月から11月まで5カ月かけて掘り抜かれ、翌年1月にれんがの組み上げが完了しました。

当時、れんがは函館や大阪で作られたものが釧路港に陸揚げされ、既に開業していた音別まで輸送。その後は仮線と呼ばれる工事用線路を使って、トンネル工事現場まで運ばれました。

列車がトンネルに入った際、車窓から外を見てください。長手方向に積み重ねられたれんがの壁であることが分かります。特に普通列車に乗って前方を見ると、トンネルの入り口かられんがの壁までよく観察できます。ぜひ列車に乗って、観察してみてください。（浦幌町立博物館学芸員・持田誠。毎週火曜掲載）

十勝の鉄道史

東部編

歴史に残る古い鉄橋

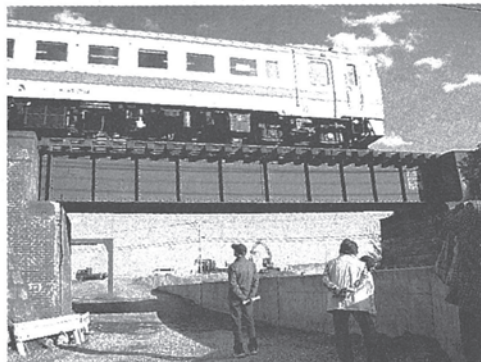
厚内漁港から線路沿いに道道直別共栄線を北上すると、やがて、

左手にわんを伏せたような丘が見えてきます。国指定史蹟オタフンベチャシです。チャシの手前で線路は内陸側へと緩くカーブしますが、このカーブの途中にある鉄橋が乙部川鉄橋です。

レンガ組みの橋台にまず目が行きますが、その上に架かる鋼鉄製の橋桁に注目してみましょう。山側に銘板が取り付けられています。高い位置にあるので写真に撮ってから拡大してみると、1922（大正11）年に横河橋梁製作所で造られた鉄橋であることが分かります。

横河橋梁製作所は、11（明治44）年に鉄道院から橋桁製作工場に指定され、いまなお全国の鉄橋を製作する有名メーカーです。乙部川鉄橋の橋桁を製作した22年は、関東大震災からの復興で、東京芝浦に新しい工場を建設したときでした。

大正時代製造で現役の乙部川鉄橋



旧上厚内駅跨線橋ときようだいに当たる直別駅の跨線橋



④ 銘板が示す近代

さらに銘板を見てみると発注者は鉄道省、鋼材は「JG ST」は「EEL WORKS」（帝国政府製鉄所）、すなわち、有名な官営八幡製鉄所の製品であることが分かります。

歴史的な銘板はほかにありません。昨年3月に廃止となった上厚か。銘板によれば、なんとこの区

間が開業した03（明治36）年の製造。しかも、ドイツのハーコート社からの輸入品。上厚内に来た年こそ新しいものの、駅構内でタンクトンに最年長だったのです。この跨線橋はすでに解体されましたが、JR北海道釧路支社の協力で、銘板だけを切り取り、浦幌町立博物館で保存・展示しています。また、直別駅の構内には、同じ年に造られたきようだいに当たる跨線橋が現役で使われています。一度、訪ねてみてください。（浦幌町立博物館学芸員・持田誠、毎週火曜掲載）



明治期のドイツ製であることを示す銘板（浦幌町立博物館所蔵）

「十勝毎日新聞」 2018年3月27日

十勝の鉄道史

東部編

白糠丘陵の山中で、1954(昭和29)年まで操業していた浦幌炭鉱は、当初、炭鉱と浦幌駅を結ぶ鉄道を計画していました。実際に工事が行われましたが、相次ぐ災害で建設を断念。開通に至らなかった炭鉱鉄道の痕跡を、いまでも根室本線の車窓から眺めることができます。

車窓から感じ取れるのは、人工物ばかりではありません。地形もひとつのポイントです。

帯広から釧路まで列車に乗ると、線路が頻繁にカーブを描きながら進むことがわかります。帯広を出た線路は、幕別や豊頃(の)丘陵地と十勝川の境目を忠実にたどりながら下り、やがて川を横断。さらに下って白糠丘陵の山地帯にぶつかると、川沿いの低いところを探して一気に峠越え。その後は、海岸線と海岸段丘の間を抜け、キナシベツ湿原やパシクル沼を横断。釧路管内白糠町の石炭岬を回

生きた「近代化遺産」

⑤ 鉄路で学ぶ地域の自然・歴史



白糠丘陵の谷間を縫うように進む特急列車
(常豊信号場—上厚内信号場)

り込むと、恋間海岸から一気に釧路とは大きく異なるルートを通ります。川に長い築堤を築いて山々を迂回(うかい)するように進む路を自指します。

一方、併走する国道38号でこの区間を走行すると、浦幌付近で線鉄道に対して、国道は3つのトン

ネルで山を貫き、その後も海岸段丘をたくさん切り通して抜けながら、一気に釧路を目指します。道東自動車道はもつとはつきり

しています。狩勝峠を抜けた後は、たくさん切り通しと長大なトンネルの連続で、文字通り真つぐ釧路を目指します。

時代による土木技術の差が、そのまま鉄道や道路ルートの姿に反映されているのです。大型機械の無い明治時代、人や馬の力でつくられた鉄道は、地形の制約を大きく受けました。だから、列車の車窓から十勝の原地形を知ることができるのです。根室本線そのものが、地域の自然と歴史を学ぶことのできる近代化遺産と言えるでしょう。

浦幌町立博物館では、列車に乗って東十勝の自然と歴史を学ぶ「巡検」(観察会)を開催しています。沿線の鉄道遺産や自然を紹介した沿線マップも作製しました。ぜひ列車で東十勝を旅してみてください。

(おわり、浦幌町立博物館学芸員・持田誠)

「十勝毎日新聞」 2018年4月3日

XIV. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

○浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例

(平成11年9月20日条例第20号)

(目的)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2の規定に基づき、浦幌町教育文化センター（以下「センター」という。）の設置及び管理等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 センターは、町民の教育文化の振興発展と学術の向上を図るため設置する。

(名称及び位置)

第3条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 浦幌町教育文化センター

位置 浦幌町字桜町16番地の1

(教育機関)

第4条 センター内に次の教育機関を置く。

(1) 浦幌町立図書館（以下「図書館」という。）

(2) 浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）

(図書館奉仕)

第5条 図書館は、おおむね次の各号に掲げる奉仕を行う。

(1) 図書、記録及びその他必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、町民の利用に供すること。

(2) 図書館資料の目録を整備すること。

(3) 図書館資料について、その利用のための相談に応ずること。

(4) 読書会及び研修会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。

(5) 時事等に関する情報及び参考資料を紹介し及び提供すること。

(6) 学校、博物館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(図書館の職員)

第6条 図書館に館長及び司書、その他必要な職員を置く。

(図書館協議会)

第7条 図書館に浦幌町立図書館協議会（以下「図書館協議会」という。）を置く。

2 図書館協議会は、図書館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

3 図書館協議会の委員（以下「委員」という。）は、10名以内とし、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから教育委員会が委嘱する。

4 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(博物館の事業)

第8条 博物館は、おおむね次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本及びその他必要な資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示すること。
- (2) 博物館資料を博物館外で展示すること。
- (3) 博物館資料の利用に関し必要な説明及び指導等を行い、又は研究室等を利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究及び保管、展示等の技術的研究を行うこと。
- (5) 博物館資料に関する案内書及び解説書等を作成し、頒布を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する講演会及び研究会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
- (7) 浦幌町にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書及び目録を作成し、町民の文化財の利用の便を図ること。
- (8) 学校、図書館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(博物館の職員)

第9条 博物館に館長及び学芸員、その他必要な職員を置く。

(博物館協議会)

第10条 博物館に浦幌町立博物館協議会（以下「博物館協議会」という。）を置く。

2 博物館協議会は、博物館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

3 博物館協議会の委員の定数及び任期等については、第7条第3項から第5項の規定を準用する。

(報酬及び費用弁償)

第11条 委員が会議等に出席したとき又は公務により旅行したときは、非常勤特別職の職員の報酬等に関する条例（昭和31年浦幌町条例第19号）に定めるその他の委員会、協議会に相当する報酬及び費用弁償を支給する。

(利用の制限)

第12条 館長は、次の各号の一に該当する場合は、利用を禁止し、制限し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 建物又はその設備を滅失し、損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織及びその構成員の利益になると認められるとき。
- (4) その他管理運営上支障があると認めたとき。

(損害賠償の義務)

第13条 利用者が建物及び設備又は図書館資料若しくは博物館資料をき損、汚損又は滅失したときは、教育委員会が定める損害額を賠償しなければならない。

(規則への委任)

第14条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会規則で定める。

附 則

1 この条例は、平成11年12月1日から施行する。

2 浦幌町郷土博物館設置条例（昭和44年浦幌町条例第21号）は、廃止する。

○浦幌町立博物館の管理、運営等に関する教育委員会規則

(平成11年12月1日教育委員会規則第4号)

(目的)

第1条 この教育委員会規則は、浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例（平成11年浦幌町条例第20号。以下「条例」という。）第4条第2号に規定する浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の管理、運営等について必要な事項を定めることを目的とする。

(博物館協議会)

第2条 浦幌町立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織等については、浦幌町立図書館の管理、運営等に関する教育委員会規則（平成11年浦幌町教育委員会規則第3号）第2条の規定を準用する。

(開館時間)

第3条 常設展示室の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときはその時間を臨時に変更することができる。

(休館日)

第4条 常設展示室の休館日は次のとおりとする。

- (1) 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「国民の休日」という。）の場合は、その翌日）
- (2) 国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く
- (3) 年末年始
- (4) その他館長が必要と認めた日

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは休館日を臨時に変更することができる。

(常設展示室利用者の遵守事項)

第5条 利用者は、この教育委員会規則及び館長の指示に従うほか、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可なく博物館資料を撮影し、又は複製しないこと。
- (2) 許可なく展示資料に手を触れないこと（特に指定した展示品を除く。）。
- (3) 音読、高談その他騒がしい行為をしないこと。
- (4) 飲食又は喫煙をしないこと。
- (5) 展示品の近くでインク、墨汁等を使用しないこと。

(博物館資料の寄贈等)

第6条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 博物館に博物館資料を寄贈又は寄託しようとする者は、浦幌町財務規則（昭和60年浦幌町規則第12号）第158条の規定にかかわらず館長に博物館資料寄贈（寄託）申込書（別記様式第1号）を提出し、承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の提出があったときは遅滞なくその取扱いについて決定し、寄贈を受ける場合はその資料と引換えに博物館資料受領証（別記様式第2号）を寄贈者に交付しなければならない。また、寄託した者に対しては博物館資料受託証（別記様式第3号）を交付するものとする。

4 寄贈された博物館資料は理由のいかんを問わず返還しない。

(寄託博物館資料の返還)

第7条 寄託博物館資料は、博物館資料受託証と引換えに返還しなければならない。

(寄託博物館資料の損失責任)

第8条 博物館は、寄託された博物館資料が滅失若しくは紛失又は破損してもその責は負わないものとする。

(館外利用)

第9条 館長は、教育長の承認を得て、博物館の所蔵する博物館資料を他の博物館その他館長が適当と認めた者に館外貸出しをすることができる。ただし、寄託を受けた博物館資料については、原則として貸し出さないものとする。

(貸し出し期間)

第10条 前条に規定した博物館資料の貸し出し期間は、90日以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、特に必要と認めたときは、博物館資料の貸し出し期間を延長することができる。

3 館長は、必要があるときは、貸し出し期間中であっても、博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しを受けた博物館資料の遵守義務)

第11条 博物館資料の貸出しを受けた者は、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所以外で利用してはならない。

2 貸出しの許可を受けた者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 当該博物館資料が滅失し、又はき損したときは、当該博物館資料を原状に回復し、及びそれによって生じた損害を賠償すること。
- (2) 当該博物館資料等の運搬及び維持管理に要する経費を負担すること。
- (3) 承認を受けた利用目的又は利用の場所を変更しないこと。
- (4) 貸出し満了期間までに指定された場所に返納すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか館長が指示する事項。

(博物館資料の特別利用)

第12条 博物館資料を学術上の研究その他の目的のため撮影、複写、模写又は模造（以下「特別利用」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書（別記様式第4号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を求めなければならない。

2 前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書（別記様式第5号）を交付するものとする。

3 前項の場合において、当該博物館資料が寄託を受けたものであるときは、文書により寄託者の承諾を得なければならない。

4 特別利用は、館長の指示に従って行わなければならない。

(模写品等の刊行等の承認)

第13条 博物館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したもの（以下「模写品等」という。）を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、模写品等使用申請書（別記様式第6号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、模写品等の使用を承認したときは、模写品等使用承認書（別記様式第7号）を交付するものとする。

(委任)

第14条 この教育委員会規則に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この教育委員会規則は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例施行規則（昭和44年浦幌町教育委員会規則第1号）は、廃止する。
- 3 旧教育委員会規則により現に、収集、保管及び館外貸出し等されている博物館資料は、この教育委員会規則に基づき収集、保管及び貸出し等されているものとみなす。

別記様式第1号

博物館資料寄贈（寄託）申込書

年 月 日

浦幌町立博物館長 様

住所 _____

氏名 _____ 印

次のように、博物館資料を寄贈（寄託）したいので申し込みます。

記

1 寄贈、寄託資料

資 料 名	数量	摘 要

2 寄託の場合、寄託期間
年 月 日 から 年 月 日

別記様式第2号

博 物 館 資 料 受 領 証

年 月 日

(申 込 者) 様

浦幌町立博物館長 印

寄贈の申込みのあった次の資料を受領します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、
学術資料として有効に活用させていただきます。

記

1 寄贈資料

資 料 名	数量	摘 要

別記様式第3号

博 物 館 資 料 受 託 証

年 月 日

(申 込 者) 様

浦幌町立博物館長 印

寄託の申込みのあった次の資料を受託します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、
学術資料として有効に活用させていただきます。

記

1 受託資料

資 料 名	数量	摘 要

2 受託期間
年 月 日 から 年 月 日

※寄託資料の返還は、この受託証と引換えに行います。

別記様式第4号

特 別 利 用 申 請 書

年 月 日

浦幌町立博物館長 様

申請者 住所 _____

氏名 _____ 印

次のように浦幌町立博物館資料を特別利用したいので、申請します。

記

利用目的			
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)		
利用方法	閲覧・複写・模造・撮影・複写・その他 ()		
利 用 資 料 名	点数	備 考	

別記様式第5号

特 別 利 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料の特別利用を、次のように承認します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)	
利用方法	閲覧・模写・模造・撮影・複写・その他 ()	
利 用 資 料 名	点数	備 考
注意 1 利用時間は、午前10時から午後5時までとする。 2 利用に当たっては、係員の指示に従うこと。 3 前項に違反したときは、承認を取り消すことがある。		

別記様式第6号

受付番号		第 号
模 写 品 等 使 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 (法人又は団体にあつては主たる事務所所在地)		
氏名 (法人又は団体にあつては名称及び代表者氏名) 印		
電話		
次のように浦幌町立博物館資料の模写等をしたので、申請します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
注) 刊行企画書、複製仕様書、研究発表会の開催要項等の参考資料があれば添付して下さい。		

別記様式第7号

承認番号		第 号
模 写 品 等 使 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料模写等を、次のように承認します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
注) 1 上記使用目的以外に使用しないこと。 2 使用に際しては、浦幌町立博物館所蔵の旨を明記すること。		

○浦幌町立博物館処務規程

(平成11年12月1日教育委員会規程第2号)

改正 平成13年6月29日教委訓令第5号
平成15年6月30日教委訓令第3号

(目的)

第1条 この教育委員会規程は、浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の機構と事務処理上必要な事項を定めることを目的とする。

(職員の職)

第2条 博物館に館長及び学芸員を置き、必要に応じて係長、主任、主査、主事その他の職員及び学芸員補を置くことができる。

(任免)

第3条 前条に規定された博物館の職員の任免は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第34条の規定に基づき、教育長の推薦により、教育委員会が行う。

(服務)

第4条 博物館の職員の服務は、別に定めるものを除き、浦幌町教育委員会事務局職員の例による。

(職務の分掌)

第5条 館長は、上司の命を受けて、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第4条第4項に規定する職務を行う。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 主任は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。

5 主査は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

6 主事及びその他の職員は、上司の命を受け、事務をつかさどる。

7 学芸員補は、法第4条第6項に規定する職務を行う。

(係の設置)

第6条 博物館に博物館係を置く。

(事務の分掌)

第7条 博物館係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 公印の管守に関すること。
- (2) 人事、経理、文書その他庶務に関すること。
- (3) 浦幌町立博物館協議会に関すること。
- (4) 予算及び決算に関すること。
- (5) 物品の出納及び管理に関すること。
- (6) 施設設備の管理に関すること。
- (7) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (8) 博物館資料の説明及び助言等に関すること。
- (9) 博物館資料の調査研究に関すること。

- (10) 博物館資料の案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 博物館事業の広報に関すること。
- (12) 博物館事業の企画運営に関すること。
- (13) その他博物館運営及び博物館資料に関する専門的事項に関すること。

第8条 削除

第9条 削除

(専決)

第10条 館長は、他に定めのあるものを除き、次の各号に掲げる事務について専決することができる。

- (1) 施設設備の使用及び管守に関すること。
- (2) 専用公印の管守に関すること。
- (3) 関係団体の育成及び指導等に関すること。
- (4) 博物館の行う恒例又は軽易な事業の企画運営に関すること。
- (5) 前各号に準ずる軽易な事務処理に関すること。

第11条 前条各号に掲げる事項であっても、特に重要な事項又は取扱上異例に属する事項若しくは疑義のある事項の処理については、教育長の承認を受けて処理しなければならない。

(事業計画及び事業実績報告等)

第12条 館長は、当該年度に実施すべき年間の事業計画を教育長が別に定める日までに届け出るものとする。

第13条 館長は、当該年度に実施された年間の事業実績報告等を教育長が別に定める日までに報告しなければならない。

(帳簿)

第14条 博物館には、次の各号に掲げる簿冊を備え付け、常に適正に記帳、整備しなければならない。

- (1) 博物館日誌（別記様式第1号）
- (2) 備品台帳（収蔵されている博物館資料を除く。）
- (3) 図書台帳
- (4) 旅行命令簿
- (5) 経理簿
- (6) 会議日誌
- (7) 出勤簿
- (8) 公文書綴り
- (9) 沿革史
- (10) 博物館資料寄贈申込台帳
- (11) 博物館資料寄託申込台帳
- (12) 博物館資料受入台帳（別記様式第2号）
- (13) その他館長が必要と認めた簿冊

(合議)

第15条 館長は、事務執行上異例又は重要と認められるものは、教育委員会事務局の関係課長等と合議しなければならない。

(公印)

第16条 博物館の文書に用いる印章（以下「公印」という。）は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 浦幌町立博物館協議会長の印
 - (2) 浦幌町立博物館の印
 - (3) 浦幌町立博物館長の印
- 2 前項の公印は、館長が保管する。
 - 3 公印の規格、定位置及び定数は、別表のとおりとする。
 - 4 公印の刻字面の様式は、別記様式第3号のとおりとする。

(文書の記号)

第16条の2 文書の記号は、教育委員会名及び博物館名をもって構成する。

- 2 前項の記号は、次のとおりとする。

浦博物館

(博物館資料の受入れ)

第17条 博物館で受け入れた資料は、博物館資料受入台帳に所定の事項を記入し、その資料の由来等を調査後、速やかに博物館資料記録票を作成しなければならない。

第18条 前条の博物館資料には、その由来等を明らかにするために博物館資料整理カード（別記様式第4号）を貼付しなければならない。ただし、それによりがたい場合は、その他適当な方法でその由来等を明らかにしなければならない。

(準用規定)

第19条 この教育委員会規程に定めるもののほか、必要な事項は浦幌町教育委員会事務局処務規程（平成13年浦幌町教育委員会訓令第2号）を準用する。

(読替え規定)

第20条 浦幌町教育委員会事務局処務規程を準用する場合、「課長」とあるのを「館長」と読み替えるものとする。

附 則

- 1 この教育委員会規程は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 この教育委員会規程施行の際に現に使用中の別記様式は、当分の間、従前のものを使用することを妨げない。

附 則（平成13年6月29日教委訓令第5号）

この教育委員会訓令は、公布の日から施行する。

附 則（平成15年6月30日教委訓令第3号）

この教育委員会規程は、平成15年7月1日から施行する。

別表（第16条第3項関係）

種 別	規 格	定数	定 位 置	個数	摘 要
浦幌町立博物館協議会長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館の印	30ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）

別記様式第1号

決裁	館長	回	議	係	合	議
年 月 日 () 天 候						
寄贈等	博物館資料の寄贈		寄贈者	住所	品名数量等	
	博物館資料の寄託		寄託者	住所	品名数量等	
	博物館資料の返還		受領者	住所	品名数量等	
事業等	事業名			～	特記事項	
	事業名			～	特記事項	
来館者	所属氏名			所属氏名		
	所属氏名			所属氏名		
団体入館者	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
職員動静	氏名	旅行先		目的		
備考						

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第2号

要 摘									
収蔵番号									
分類番号									
寄贈者等住所・氏名									
受入方法									
受入年月日									
品名									
受入番号									

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第3号

1 浦幌町立博物館協議会長の印



2 浦幌町立博物館の印



3 浦幌町立博物館長の印



別記様式第4号

○	
浦幌町立博物館	
受入番号	—
収蔵番号	—
分類番号	
受入年月日	年 月 日
資料名	
寄贈者等名	
寄贈者等住所	
受入方法	寄贈・採集・発掘・寄託 製作・購入・複製・その他
摘要	

注) 1 年号は西暦で記載すること。
2 「受入方法」は、適当なものを○で囲むこと。

XV. 平成29年度予算

10款 教育費 5項 社会教育費 3目 博物館費

(単位:千円)

当 初 予算額	補正額	計	節		説 明
			区 分	金 額	
1,776	0	1,776	1 報 酬	25	委員報酬 25
			8 報償費	185	報償金 160
			9 旅 費	155	費用弁償 3
					普通旅費 139
			11 需用費	1,137	消耗品費 442
					印刷製本費 648
					光熱水費 7
					修繕料 50
					賄材料費 10
			12 役務費	110	通信運搬費 72
					手数料 92
			13 委託料		その他委託料 0
			14 使用料及び賃借料	0	その他借上料 0
			15 工事請負費	0	工事請負費 0
			16 原材料費	10	原材料費 10
			18 備品購入費	30	備品購入費 95
			19 負担金、補助及び交付金	23	北海道博物館協会負担金 15
					帯広百年記念館運営連絡協議会負担金 3
					道東3管内博物館施設等連絡協議会負担金 5
					研修会参加負担金 0

浦幌町立博物館年報 第19号

発行日 2018年11月30日

編集・発行 浦 幌 町 立 博 物 館
〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地 1
電話 015-576-2009 FAX. 015-576-2452

印刷所 大 同 出 版 紙 業 株 式 会 社
〒080-0017 北海道帯広市西 7 条南 6 丁目 2 番地
電話 0155-23-5107 FAX. 0155-23-9032

